

平成 25 年度事業報告書

平成 26 年 5 月

横浜市立みなと赤十字病院

目 次

1	概要	1
1-1	施設概要	
1-2	建物図	
1-3	施設基準取得状況	
2	政策的医療	9
2-1	24時間365日の救急医療及び2次救急医療	
2-2	小児救急医療	
2-3	周産期救急医療	
2-4	精神科救急医療	
2-5	精神科身体合併症医療	
2-6	緩和ケア医療	
2-7	アレルギー疾患医療	
2-8	障害児者合併症医療	
2-9	災害時医療	
2-10	市民の健康危機への対応	
3	指定管理者独自の取組み	39
3-1	手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」	
4	地域医療の質の向上に向けた取組み	43
4-1	医療における安全管理	
4-2	医療倫理に基づく医療の提供	
4-3	地域医療機関との連携・支援（地域医療連携課分）	
4-4	地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室分）	
4-5	市民委員会	
4-6	治験・受託研究	
4-7	患者・市民に対する相談・啓発活動	
4-8	患者サービス	
4-9	医療データベースの構築と情報提供	

5	職員研修	81
5-1	職員研修（総括）	
5-2	職員研修（医師）	
5-3	職員研修（看護部）	
5-4	職員研修（薬剤部）	
5-5	職員研修（医療技術部門）	
5-6	職員研修（事務部）	
6	院外からの研修受入れ	103
6-1	院外からの研修受入れ（看護部）	
6-2	院外からの研修受入れ（薬剤部）	
6-3	院外からの研修受入れ（リハビリテーション科部）	
7	職員	115
7-1	組織図	
7-2	職員配置状況	
7-3	診療科責任体制	
7-4	看護部門責任体制	
7-5	健診部門責任体制	
7-6	医療連携部門責任体制	
7-7	検査・医療技術部門責任体制	
7-8	管理部門責任体制	
8	施設管理	125
8-1	医療機器の整備状況	
8-2	施設設備改修報告	
8-3	施設設備管理報告	
8-4	外部委託	
9	経営報告	133
9-1	稼働状況等報告	
9-2	中央部門業務報告	
9-3	決算書	

1 概要

1-1 施設概要

1 名称

横浜市立みなと赤十字病院

2 開設者

横浜市長（指定管理者として日本赤十字社が運営）

3 開設年月日

平成17年4月1日

4 病床数

634床（一般584床、精神50床）

5 標榜科

内科、内分泌内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ内科、緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、神経内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、消化器外科、大腸外科、肝臓外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

以上36科

6 沿革

- ・平成15年3月 横浜市立病院あり方検討委員会（横浜市長の諮問機関）が新病院を公設民営とする最終答申を提出
- ・平成15年9月 横浜市議会で新病院運営の公設民営化を決定
- ・平成15年11月 横浜市が指定管理者評価委員会を設置
日本赤十字社が指定管理者提案申込書を横浜市に提出
- ・平成16年1月 評価委員会が提案書による競争の結果として、「指定管理者として日本赤十字社がふさわしい」との評価報告書を市長に提出
- ・平成16年2月 横浜市議会で日本赤十字社を指定管理者として決定
- ・平成16年9月 横浜市議会で新病院名称を「横浜市立みなと赤十字病院」に決定
- ・平成17年4月 横浜市立みなと赤十字病院が開院

- ・平成 19 年 3 月 病院機能評価 Ver5.0 取得
- ・平成 21 年 2 月 地域医療支援病院承認
- ・平成 21 年 4 月 救命救急センターの指定
- ・平成 22 年 3 月 神奈川県 DMAT 指定病院
- ・平成 24 年 3 月 病院機能評価 Ver6.0 取得
- ・平成 24 年 4 月 がん診療連携拠点病院の指定
- ・平成 24 年 7 月 地域周産期母子医療センターの認定
- ・平成 25 年 4 月 標榜科を 23 診療科から 36 診療科へ細分化

1-2 建物図

8階	病棟
7階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟
6階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟
5階	A病棟 C病棟 D病棟 NICU 透析室 精神科外来 化学療法センター 売店 理容室 図書室
4階	電気室・機械室
3階	救急病棟 ICU HCU CCU 手術室 心臓カテーテル室 医局 看護部 事務部 会議室
2階	健診センター アレルギーセンター 乳腺外来 緩和ケアセンター X線撮影室 血管撮影室 CT室 MRI室 心臓カテーテル室 内視鏡検査室 輸血検査室 病理検査室 細菌検査室 検体検査 SPD MR 調理室
1階	総合相談室 紹介受付 新患受付 再来受付コーナー お薬相談室 自動精算機 薬剤部 証明書発行受付 中央待合ホール 総合内科 消化器科 外科 心臓病センター（循環器科・心臓血管外科）リハビリテーション科 泌尿器科 脳神経センター（神経内科・脳神経外科） 麻酔科 整形外科 形成外科 歯科口腔外科 産婦人科 皮膚科 呼吸器病センター（呼吸器科・呼吸器外科） 眼科 小児科 耳鼻咽喉科 採血室 尿検査 心電図 超音波 筋電図 脳波 救急受付 X線撮影室 CT室 正面入口 レストラン 売店 救命救急センター 救急入口 時間外入口 緩和ケアセンター入口 中央監視防災センター
B1階	RI室 リニアック室 地下出入口 地下駐車場 喫茶 売店

1-3 施設基準取得状況

1 基本診療科

地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算 一般病棟入院基本料（7対1）
総合入院体制加算 臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算 超急性期脳卒中加算
妊産婦緊急搬送入院加算 診療録管理体制加算 医師事務作業補助体制加算
急性期看護補助体制加算 看護配置加算 療養環境加算
重症者等療養環境特別加算 無菌治療室管理加算1 緩和ケア診療加算
がん診療連携拠点病院加算 栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算
感染防止対策加算1 患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算 退院調整加算 救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算 精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
呼吸ケアチーム加算 病棟薬剤業務実施加算 データ提出加算2
地域歯科診療支援病院入院加算 救命救急入院料1・2 特定集中治療室管理料1
ハイケアユニット入院医療管理料 新生児特定集中治療室管理料1
小児入院医療管理料3 緩和ケア病棟入院料 精神科救急・合併症入院料

2 特掲診療料

高度難聴指導管理料 がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者カウンセリング料
外来緩和ケア管理料 糖尿病透析予防指導管理料
地域連携小児夜間・休日診療料2
院内トリアージ実施料 外来リハビリテーション診療料 外来放射線照射診療料
開放型病院共同指導料 地域連携診療計画管理料（大腿骨・脳卒中）
がん治療連携計画策定料 がん治療連携管理料
肝炎インターフェロン治療計画料 薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1・2（歯科） 歯科治療総合医療管理料
造血器腫瘍遺伝子検査 HPV核酸検出 検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅱ）
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 植込型心電図検査
時間内歩行検査 胎児心エコー法 ヘッドアップティルト検査
皮下連続式グルコース測定 神経学的検査 小児食物アレルギー負荷検査
内服・点滴誘発試験 センチネルリンパ節生検（乳がんに係るものに限る。）
画像診断管理加算1
ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
CT撮影及びMRI撮影 大腸CT撮影加算 抗悪性腫瘍剤処方管理加算

外来化学療法加算1 無菌製剤処理料 心大血管疾患リハビリテーション科(Ⅱ)
 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗
 性統合失調症治療指導管理料に限る。) 医療保護入院等診療料
 エタノールの局所注入(甲状腺・副甲状腺) 透析液水質確保加算1
 皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
 乳がんセンチネルリンパ節加算1及び2
 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) 経皮的中隔心筋焼灼術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経動脈電極抜去術(レーザー
 シースを用いるもの)
 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型
 除細動器交換術
 大動脈バルーンパンピング法(ⅠABP法) 経皮的大動脈遮断術
 ダメージコントロール手術 体外衝撃波胆石破碎術 腹腔鏡下肝切除術
 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
 医科点数表第2章第10節手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通
 則4を含む。)に掲げる手術 輸血管管理料Ⅰ 自己生体組織接着剤作成術
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 内視鏡手術用支援機器加算
 歯周組織再生誘導手術 広範囲顎骨支持型装置埋入手術 麻酔管理料(Ⅰ)・(Ⅱ)
 放射線治療専任加算 外来放射線治療加算 高エネルギー放射線治療
 画像誘導放射線治療加算(IGRT) 体外照射呼吸性移動対策加算
 定位放射線治療 病理診断管理加算1 クラウン・ブリッジ維持管理料

3 入院時食事療養

入院時食事療養Ⅰ 特別食加算 食堂加算

4 評価療養

先進医療(超音波骨折治療法) 医薬品の治験に係る診療
 医療機器の治験に係る診療

5 選定療養

病院の初診 特別の療養環境の提供 入院期間が180日を超える入院

2 政策的医療

2-1 24時間365日の救急医療及び2次救急医療

1 事業概要

- ・「救急車を断らない」ことを第一の目標にする。
- ・初期から三次まで重症度に係わりなく受け入れる。

2 25年度実績

- ・総患者数 23,144 人（入院 5,523 人、入院率 23.9%）
- ・救急車で来院数 11,583 人（※）（入院 3,616 人、入院率 31.3%）
救急車断り数 142 件（断り率 1.2%）
※ドクターヘリ含む

3 目標に対する評価

救急車断り率 2%以下を年度当初の目標としたが、それを下回る数値を達成することができた。

4 次年度以降の取組み

救急車断り率 1%台維持をめざし、そのうえで救急車受入数 11,000～12,000 台を目標としたい。

5 執行体制

救命救急センター長 八木啓一
救急部長 伊藤敏孝、集中治療部長 武居哲洋

6 データ

救急車受入数：H22年度 9,951 台
 H23年度 12,167 台
 H24年度 11,914 台
 H25年度 11,583 台
救急車断り率：H22年度 10.4%
 H23年度 4.3%
 H24年度 2.6%
 H25年度 1.2%

2-2 小児救急医療

1 事業概要

横浜市小児救急制度における「小児拠点病院」としての役割を担っている。
具体的には、準夜間帯における小児二次救急、深夜間帯における小児一次救急の受け入れを行う。

2 25年度実績

小児科救急患者数（夜間・休日）；3,543件
（うち、入院患者数 353件、救急車受入件数 505件）

3 目標に対する評価

患者数の減少は、新制度での予防接種が普及したためである。小児救急拠点病院としての役割を十分に担っていると考えている。

4 次年度以降の取組み

引き続き小児救急拠点病院としての役割を担っていく。
なお、一部の医師が育児等の理由により当直に入ることができず、当直可能医師が不足している。このため、外部応援も含めた当直体制としている。今後、横浜市とも協議しながら、当直体制のあり方について検討していきたい。

5 人員体制

小児科部長 菊池信行
その他小児科常勤医師 11人、非常勤医師 12人

2-3 周産期救急医療

1 事業内容

周産期救急医療は主に母体搬送、新生児搬送にかかわることである。また、未受診妊婦のいわゆる飛び込み分娩、自宅分娩、なども含まれる。

「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という目標を掲げ、診療にあたっている。

平成24年7月25日付で当院は地域周産期母子医療センターに指定された。産科と小児科(NICU)の協力のもと、他の産科施設からの母体搬送の受け入れを中心として、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設として周産期医療にかかわっていく。

母児ともによりよい状態での出産を目指して医療を実践することにより、横浜市民に安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する。

なお、母体搬送受け入れの基準は妊娠30週以降、推定体重1250g以上としている。

2 25年度実績

- ・母体搬送受け入れ数；19例
- ・飛び込み分娩数；2例
- ・分娩総数；958例

3 目標に対する評価

分娩総数；958例と前年度の851例より大幅に増加した。常勤医師の増員2年目に当たり、月平均80例の分娩を取り扱っている。

産科は24時間365日の体制で当直を組み、緊急手術もいつでも対応できる体制をとっている。

「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という、事業目標は達成していると考えている。

4 次年度以降の取り組み

未だ、分娩予約を行っており、分娩をお断りしないことが出来る分娩数(約1200程度かと思われる)を安全に扱える医療体制を整備することが望まれる。そのためには、産科常勤医師8~10名以上。麻酔科当直体制などが必要である。依然として産科常勤医師を安定的に確保する見通しは立っておらず、大学からの派遣と後期研修医の就職と、その教育が必要である。

5 執行体制

- ・産婦人科部長 多田聖郎
- ・産科常勤医師 6名（部長を含む）
- ・産科非常勤医師 3名
- ・助産師 42名（非常勤含む）

6 設備

- ・分娩室 1室
- ・LDR 3室
- ・陣痛室 3室
- ・産婦人科病棟 40床

7 データ

- (1) 別紙「周産期救急医療実績」
- (2) 別紙「母体搬送受入数及び新生児搬送受入数」

2-3「同産期救急医療」実績

平成25年度

様式/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
正常経産	42	45	55	50	65	72	60	54	56	58	52	63	672	70.1%
予定帝切	13	11	8	8	15	11	8	10	6	7	5	8	110	11.5%
緊急帝切	7	7	7	6	3	3	9	5	11	6	5	6	75	7.8%
吸引	4	13	1	7	6	5	4	2	8	2	8	10	70	7.3%
鉗子	1	3	1	3	2	1	1	4	0	6	2	6	30	3.1%
骨盤位						1		1		0	0	1	3	0.3%
合計	67	79	72	74	91	92	82	75	81	79	72	94	958	79.8%

母体搬送(送り)									1	0	0	1	2	
母体搬送(受け)	0	5	2	3	1	2	1	1	2	0	2	0	19	
院内助産	18	21	17	14	25	21	24	13	14	20	20	20	227	18.9%
無痛分娩数	5	11	11	17	10	14	10	14	14	11	9	20	146	12.2%
正常	2	6	10	13	7	11	7	8	5	3	7	13	92	63.0%
吸引	1	1	0	2	2	1	0	0	4	0	1	2	14	9.6%
帝王切開	1	2	0	1	0	1	2	2	5	2	0	1	17	11.6%
骨盤位	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1.1%
鉗子	1	2	1	1	1	1	1	3	0	6	1	4	22	9.7%

平成24年度

様式/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
正常経産	42	52	38	49	50	55	49	56	40	40	52	50	573	67.3%
予定帝切	4	13	10	9	12	3	9	12	11	8	7	6	104	12.2%
緊急帝切	1	6	7	3	13	5	3	11	9	12	6	4	80	9.4%
吸引	2	2	6	8	3	7	11	5	5	4	10	6	69	8.1%
鉗子	1	0	2	0	2	2	2	3	1	5	4	4	26	3.1%
骨盤位													0	0.0%
合計	50	73	63	69	80	72	74	87	66	69	79	70	852	71.0%

母体搬送(送り)	0	3	0	1	0	0	0	0	0				4	
母体搬送(受け)	0	0	3	0	0	0	2	3	3	0	4	0	15	
院内助産	16	5	15	25	28	26	18	19	24	20	17	17	230	19.2%
無痛	6	7	8	4	10	9	16	16	5	11	14	21	127	10.6%
正常	4	6	5	3	7	3	8	8	1	4	8	12	69	54.3%
吸引	2	0	0	1	1	2	6	1	0	0	3	3	19	15.0%
帝王切開	0	1	1	0	1	2	0	5	4	3	0	2	19	15.0%
鉗子	0	0	2	0	1	2	2	2	0	4	3	4	20	15.7%

平成23年度

様式/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
正常経産	41	43	52	40	38	38	30	33	47	38	28	42	470	75.1%
予定帝切	5	5	4	8	5	5	6	4	5	9	6	3	65	10.4%
緊急帝切	2	2	5	7	2	1	3	8	4	5	4	6	49	7.8%
吸引	4	3	2	0	1	1	0	5	2	4	1	1	24	3.8%
鉗子	4	1	0	1	0	1	1	2	2	2	3	1	18	2.9%
骨盤位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	56	54	63	56	46	46	40	52	60	58	42	53	626	52.2%

母体搬送(送り)	1	0	0	0					1	0	0	0	2	
母体搬送(受け)	1	0	1	3	1	2	2	0	1	0	0	2	13	
院内助産	16	18	13	8	11	22	13	15	14	16	5	15	166	13.8%
無痛	4	3	4	6	3	4	4	7	0	6	4	8	53	4.4%
正常	2	2	3	5	0	4	4	5	0	3	1	5	34	64.2%
吸引	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	5.7%
帝王切開	1	1	0	1	1	0	0	1	0	2	0	2	9	17.0%
鉗子	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	3	0	7	13.2%

平成23年度～平成25年度の母体搬送受入数及び新生児搬送受入数

母体搬送受入

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成23年度	1	0	1	3	1	2	2	0	1	0	0	2	13
平成24年度	0	0	1	0	0	1	2	3	3	0	4	0	14
平成25年度	0	5	2	3	1	2	1	1	2	0	2	0	19

新生児搬送受入

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成23年度	0	1	1	1	3	2	0	2	0	2	0	0	12
平成24年度	4	1	1	3	1	1	0	0	1	0	0	1	13
平成25年度	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4

2-4 精神科救急医療

1 事業概要

・4 縣市（神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市）が協調して実施している精神科救急医療に、基幹病院の一つとして従事している。

・「神奈川県精神科救急医療に関する実施要綱」の規定に準じ、夜間、休日、深夜輪番日の精神科救急患者（三次、二次）の受入を行っている。そのために、保護室3床を確保している。

・受け入れ時間

平日（深夜当番日を除く） 17：00-22：00

休日（深夜当番日を除く） 8：30-22：00

深夜当番日 平日 17：00-翌8：30 休日 8：30-翌8：30

2 平成 25 年度実績

	受け入れ数		入院形態			転帰		
	受診数	入院数	措置	医保	任意	転院	退院	その他
3次救急	44	31	29	2	0	27	4	0
2次救急	9	9	—	9	0	9	0	0

・平均在院日数：22.5日（院内後方を除いた平均在院日数：20.9日）

3 目標に対する評価

・精神科身体合併症・救急入院料を算定するため、年間30件の措置入院を受け入れる必要がある。平成25年度も30件以上を目標としていたが、精神科救急と身体合併症の転院例をあわせて達成することができた。

・平均在院日数がやや長い。

4 次年度以降の取り組み

・より多くの患者を受け入れられるよう、速やかな後方転送を目指す。そのために、精神症状のコントロールに努め、円滑な転院に向けての働きかけを行う。

5 執行体制

・部長 嶋津奈、医長 京野穂集、医長 児玉知之 他医師3名。

（うち精神保健指定医 5名）

・師長1人、看護師26人（夜勤看護師数4人）

・精神保健福祉士数3人（専任）

6 データ

精神科救急受診数の推移（年度別）

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
3次救急	15	37	35	42	39	51	44
2次救急	4	7	19	12	9	7	9

2-5 精神科身体合併症医療

1 事業概要

- ・ 4 県市（神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市）が協調して実施している精神科身体合併症転院事業に従事している。
- ・ 「神奈川県精神科救急身体合併症転院事業実施要綱」に基づき、神奈川県内の精神病院に入院中の身体合併症患者を平日昼間に受け入れている。
- ・ 神奈川県内の 3 つの病院（当院、横浜市立大学市民総合医療センター、済生会横浜市東部病院）が担当し、当院は、身体合併症を受け入れるための病床を 10 床確保している。

2 平成 25 年度実績

- ・ 受入れ患者数： 79 人
- ・ 受入医療機関数：27 病院
- ・ 入院患者数： 57 人
- ・ 平均在院日数： 21 日
- ・ 転帰内訳：依頼元病院への転院 49 人、
依頼元以外の病院への転院 2 人、
直接退院 5 人、
その他 1 人（死亡 0/入院中 1）

3 目標に対する評価

当院への依頼件数は、当初年間 70 件と想定されていた。平成 20 年度以降は、想定を上回り、年間の受け入れ数は 79～117 件で推移している。これは、身体合併症転院事業の症例の約 7-8 割にあたり、当院は十分に業務を担えていると考えられる。

4 次年度以降の取り組み

- ・ 身体科と協力し、質の高い医療を目指す。
- ・ より多くの患者に必要な医療を提供できるよう、入院期間ができるだけ短期間となるよう心がける。

5 執行体制

「2-4 精神科救急医療」参照。

6 データ

身体合併症転院事業 受け入れ患者数 推移

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
神奈川県	10	23	11	14	28	24	14
横浜市	26	54	86	62	51	48	48
川崎市	16	10	20	20	11	11	15
相模原市				2	1	2	2
全県	52	87	117	98	91	85	79

2-6 緩和ケア医療

1 事業概要

がん患者と家族が自分らしく過ごせるように、症状緩和を中心としたチーム医療を基本とし、がんと診断された時から緩和ケアチームが支援を行い、抗癌治療が難しくなった段階では緩和ケア病棟において継続したケアを提供する。

(1) 緩和ケア病棟病床数

25床 全個室

特別個室 12床

無料個室 13床

(2) 入院対象

- ・がんなどの悪性疾患で終末期(余命6か月以内)にある方
- ・患者と家族が病名または病状を理解して緩和ケアの入棟を希望する方
- ・病状が悪化し、在宅での生活が困難になった方
- ・入院対象にある疾患でかつ在宅で過ごしている方で、家族の休息のための短期入院を希望する場合

(3) 入院までの手続き

- ・電話で外来の予約(必要書類を自宅へ郵送)
- ・必要書類を準備し、外来受診(家族の代理受診可)
- ・病棟内での判定会議後、待機状況について連絡
- ・入院決定したら連絡

(4) 緩和ケア病棟の役割

- ・横浜市民のための緩和ケアの提供
- ・症状緩和を中心とした医療の提供
- ・在宅生活や介護生活の疲労の軽減
- ・終末期の安心で安寧な生活の提供
- ・地域と連携し在宅療養の支援

(5) 緩和ケアチームの役割

- ・一般病棟で緩和ケアを必要とするがん患者に、がん性疼痛をメインとした症状コントロールと精神的な支援を多職種と協働しながら提供する。

2 平成 25 年度緩和ケア医療実績

(1) 緩和ケア病棟実績

		24 年度	25 年度
入院患者	実数	156 名	224 名
	延べ数	6386 名	6807 名
平均在院日数		39.8 日	31.1 日
患者実数	男	82 名	125 名
	女	74 名	99 名
平均年齢		74.0 歳	74.0 歳
退院内訳	退院	157 名	214 名
	死亡	136 名	162 名
緩和ケア病棟への入院経路	院内転棟	104 件	114 件
	市内医療機関からの紹介	22 件	66 件
	外来より	30 件	91 件
入院患者の居住別	市内	152 名	223 名
	県内	4 名	1 名
	県外	0 名	0 名
ボランティア延べ人数		97 名	67 名

(2) 緩和ケアチーム実績

		24 年度	25 年度
緩和ケアチームへの依頼数	新規	139 件	145 件
	継続	6 件	3 件
	延べ件数	2536 件	2646 件

緩和ケアチームへの依頼内容

疼痛・嘔気・呼吸困難などの身体ケアが 81%
せん妄・抑うつ・不眠などの精神的ケアが 14%

3 目標に対する評価

- ・少ないスタッフで、緩和ケア病棟の安定した運営と、緩和ケアチームによる診療を維持できた。
- ・平成 25 年 6 月にみなとセミナー・緩和ケア講演会を開催でき、緩和ケア啓

蒙にも貢献できた。

- ・緩和ケア研修会を平成26年1月に開催し、病院スタッフおよび周辺医療機関での緩和医療の意識の向上に寄与できた。

4 次年度以降の取り組み

- ・スタッフの増員を図り、緩和ケア病棟および緩和ケアチームの安定した診療体制を整えたい。ゆくゆくは、専門医制度での認定施設になれるよう、資格の獲得を狙いたい。
- ・緩和ケア研修会、緩和ケア講演会を定期的で開催し、院内および地域でのさらなる緩和医療の啓蒙活動を進めたい。
- ・がん診療拠点病院としての緩和ケアセンター整備を目指し、各種マニュアルの整備、地域での診療連携を深めたい。
- ・学会や各種研修会・講演会への参加を通して知識のさらなる習得、新規薬剤の導入・安全な利用、他診療施設との協働を図りたい。

5 執行体制

センター長	小尾 芳郎
医師	大谷 洋一(放射線治療科兼任)
	藤井 由貴
非常勤医師	2名

師長	角藤 厚美
常勤看護師	20名
非常勤看護師	2名
クラーク	1名

【緩和ケアチーム体制】

身体緩和ケア医師	2名(常勤1名、非常勤1名)
精神科医師	1名
歯科口腔外科医師	1名
専従看護師	1名
リエゾン看護師	1名
薬剤師	1名
歯科衛生士	1名

2-7 アレルギー疾患医療

1 専業内容

免疫・アレルギー疾患（気管支喘息、アナフィラキシー、食物・薬物アレルギー、花粉症、リウマチ・膠原病など）は国民の3分の1が罹患しているにもかかわらず、臓器別では対応できない全身性疾患であることや診療点数の不採算性から、我が国では純粹の「アレルギー科」としては存在が不可能とされる。その結果として、診断や治療が困難なアレルギー疾患（特に成人領域）の患者が受診すべき医療機関は極端に数が少なく、根拠のない誤った民間医療に翻弄されている現状である。当院のアレルギーセンターは、この現状に対応すべく、①アレルギー診療：7診療科（アレルギー科、小児科、皮膚科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、眼科、膠原病・リウマチ内科）による横断的アレルギー診療、②アレルギーの教育と啓発：医療従事者と市民を対象とする講演会、セミナー、市民フォーラム、患者教室等の定期開催、③臨床研究：IT通信機器による遠隔医療や環境危険因子解析などの先進的医療・研究や新規薬剤開発治験などの事業に取り組んでいる。なお、アレルギー科、小児科、皮膚科の3診療科は、一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設に指定されており（3診療科の認定は全国で4施設のみ）、膠原病・リウマチ内科は一般社団法人日本リウマチ学会の認定教育施設に指定されている。

2 25年度実績

- | | |
|--|---------|
| ・外来アレルギー(延べ)患者数 | 16,317人 |
| ・呼気一酸化窒素測定 | 4,331件 |
| ・気道過敏性試験 | 89件 |
| ・プリックテスト | 117件 |
| ・エピペン自己注射処方 | 125件 |
| ・7診療科合同カンファレンス（9回） | |
| ・アレルギー科・小児科・看護師による喘息カンファレンス（6回） | |
| ・アレルギー科・小児科・皮膚科・栄養課・看護師による食物アレルギーカンファレンス（6回） | |
| ・講演会（8回）、セミナー（3回）、市民フォーラム（3回） | |
| 患者教室（11回）、小児喘息・アレルギーキャンプ（1回） | |
| ・開発治験（6件）、自主臨床試験（20件） | |

3 目標に対する評価

7診療科による横断的診療であるため、総合評価は困難であるが、中心的存

在であるアレルギー科の外来通院患者数は約 800 名（医師 2 名）と院内診療科別（医師一人あたりの担当数）では第 1 位であり、毎年増加中である。アレルギー疾患専門診療の評価指数とされるアナフィラキシーに対するエピペン自己注射の処方数は横浜市の医療機関では第 1～2 位である。（社）日本アレルギー学会では常に指導的立場にあり、教育講演などの依頼が多い。

4 次年度以降の取り組み

さらなる「質」の向上をめざし、（研修医を含めて）優れた人材の確保に努めたい。

5 執行体制

・アレルギーセンター長（総合アレルギー内科部長）	1名（専任）
・喘息アレルギー内科部長	1名（専任）
・アレルギー小児科医長	1名（併任）
・アレルギー内科非常勤医師	2名（週1回）
・アレルギー科以外の医師	6名（併任）
・アレルギーセンター看護師	2名（交代制）
・アレルギーセンター検査技師	1名（交代制）
・アレルギーセンター研究補助員	2名（専任）
・アレルギーセンター事務主事	1名（専任）
・アレルギーセンター受付事務	1名（派遣）

6 データ（平成 23～25 年比較）

	23 年度	24 年度	25 年度
1) 外来アレルギー患者(延べ)数	16,646 人	16,230 人	16317 人
2) 講演会	2 回	7 回	8 回
3) セミナー	2 回	2 回	3 回
4) 市民フォーラム	2 回	2 回	3 回
5) 患者教室	8 回	10 回	11 回
6) 小児喘息キャンプ	1 回	1 回	1 回
7) 誌上発表	20 件	20 件	15 件
8) 学会発表	19 件	30 件	21 件
9) 新薬開発治験	9 件	6 件	6 件
10) 自主臨床試験	14 件	21 件	20 件

2-8 障害児者合併症医療

1 事業概要

障害児者合併症医療とは、当院において行われる障害児者への医療提供が円滑に行われることを目的とし、障害児者医療検討委員会を開催し、その内容を検討する。

2 25年度実績

- ・障害児者医療検討委員会 年2回開催
- ・施設への院外研修計画
- ・横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステム 3名受入

3 目標に対する評価

継続医療患者への適切な医療を提供する事ができたが、院内職員を対象に院外研修の計画をしたが実行には至らず、来年度への継続課題である。また、横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの協力病院として貢献し、3名の受入を行った。

4 次年度以降の取り組み

- ・継続医療患者への医療提供
- ・職員への研修啓発のため、院外研修を企画、実行
- ・横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムへの協力

5 執行体制

責任医師 小児科部長 菊池信行

担当医師 小児神経科部長 大澤由記子

連携部署 各診療科担当医6名、病棟看護師1名、外来看護師1名、在宅支援看護師1名、理学療法士1名、ソーシャルワーカー1名、事務2名

6 データ

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
入院患者述べ人数	337名	234名	123名
入院患者実人数	15名	11名	9名
1患者当りの入院回数	1～10回	1～10回	1～5回
年齢	2～43歳	6～43歳	0～36歳

2-9 災害時医療

1 事業概要

当院は災害医療拠点病院、神奈川DMAT指定病院としての機能を十分に発揮し、赤十字の使命である災害救護活動を積極的に実践するため、平時から災害救護訓練を積極的に実施し準備している。

2 25年度実績

災害救護に関する訓練・研修会等への実施・参加状況

	会議訓練等名称	主催	会場	実施日	当院参加者
1	災害派遣医療チーム(DMAT)技能維持研修	厚生労働省	立川広域防災基地	5月11日～12日	看護師1名
2	福島災害医療セミナー	福島県	福島県立医科大学	6月6日～9日	医師1名
3	赤十字救護班主事研修会 BASIC (救護班主事コース)	日本赤十字社神奈川県支部	横浜市立みなと赤十字病院	6月20日	薬剤師1名、理学療法士2名、MSW2名、事務職員9名
4	ラダー研修 災害救護レベルⅡ①	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	6月28日	看護師79名
5	ラダー研修 災害救護レベルⅡ②	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	8月30日	看護師77名
6	九都県市合同防災訓練(横浜会場)	横浜市	駒岡防災施設	9月1日	救護班1個班
7	DMAT 関東ブロック訓練	厚生労働省	神奈川県内	9月20日	DMAT 1チーム
8	九都県市合同防災訓練(神奈川県会場)兼 DMAT 関東ブロック訓練	厚生労働省、神奈川県	湘南海岸公園、太洋中学校	9月21日	DMAT 1チーム

9	トリアージ研修会	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	10月3日	40名
10	トリアージ研修会	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	10月10日	40名
11	けいゆう病院災害訓練	けいゆう病院	けいゆう病院	10月12日	DMAT 1チーム
12	横浜市立みなと赤十字病院総合防災訓練	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	10月20日	180名
13	日本赤十字社本社・第2ブロック支部合同救護訓練	日本赤十字社本社・第2ブロック支部	日本赤十字社神奈川県支部、横浜市立みなと赤十字病院	10月20日～21日	100名
14	東京国際空港総合訓練	東京国際空港	東京国際空港	10月31日	救護班1個班
15	神奈川県DMAT-L隊員養成研修	神奈川県	神奈川県消防学校(厚木)	11月1日～2日	DMAT-L 1チーム
16	赤十字救護看護師養成研修会I	日本赤十字社神奈川県支部	日本赤十字社神奈川県支部	11月12日	看護師 15名
17	赤十字救護看護師養成研修会II	日本赤十字社神奈川県支部	日本赤十字社神奈川県支部	11月20日	看護師 15名
18	神奈川県「総合研修(放射線基礎知識)」	神奈川県	聖マリアンナ医科大学病院	11月30日	看護師 1名、事務職員 1名
19	感染症対策総合訓練	横浜検疫所	横浜港大さん橋ふ頭、客船ロイヤルウイング	12月6日	救護班1個班
20	エアーテント設置訓練	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	12月12日	30名

21	平成 25 年度 DMAT ロジステ ィクス研修	厚生労働省	千葉県庁他	2 月 1 日～ 2 日	調整員 1 名
22	救護員対象こ ころのケア研修	日本赤十字 社神奈川県 支部	日本赤十字 社神奈川県 支部	2 月 6 日	看護師 10 名、理学療 法士 1 名、 事務職員 1 名
23	救出・救護合同訓 練	横浜海上保 安部・日本赤 十字社神奈 川県支部	中ノ瀬海域 他	2 月 24 日	救護班 1 個 班
24	赤十字救護班主 事 研 修 会 ADVANCE (連絡 調整要員コース)	日本赤十字 社神奈川県 支部	日本赤十字 社神奈川県 支部	3 月 11 日	事務職員 1 名
25	こころのケア指 導者養成研修会	日本赤十字 社	日本赤十字 社	3 月 15 日 ～17 日	PSW 1 名

3 目標に対する評価

- ・【目標①】総合防災訓練の実施

10 月 20 日に、約 200 名が参加する総合防災訓練を実施した。病院の建物を実際に使用することで、災害時に病院建物を活用し、どのようなレイアウトで動線を作るか等を経験することができた。また、災害時の医療や傷病者対応を経験することができ、災害への職員の意識向上につながった。

- ・【目標②】日本赤十字社、地方自治体等の防災訓練への参加

10 月 20 日は当院の総合防災訓練に引き続き、日本赤十字社本社・第 2 ブロック支部合同救護訓練が実施された（参加者約 600 名）。大規模な災害が発生すると、近隣支部から救護班が応援に派遣されることを踏まえ、近隣県支部の救護班の応援を受け入れる想定で実施され、救護班の受入れと連携の確認を行った。また、横浜海上保安部と日本赤十字社神奈川県支部との協定に基づき、2 月 24 日に合同訓練を実施した。今回の訓練は、海上での船舶事故を想定し、実際に洋上に停泊中の船舶を用いて実施され、海上、船舶という特殊な状況下での災害に対し、当院の立地や機能を活かした救護活動を経験することができた。今後も、日赤内だけではなく、関係機関や他の医療機関との連携を平時から深め、災害に備えていく。

- ・【目標③】DMAT 隊員養成研修に引き続き申込み、隊員の増員

当院は病院規模に対して DMAT チーム数、隊員数が少なく、特に業務調整員は 1 名のみという状況が続いており、隊員養成研修会に毎年申し込んでいるが、平成 25 年度もチーム受講、個人受講ともに抽選に漏れて受講

できなかった。現在の状況では、職員の勤務状況や隊員の交代の事を考えると、チーム運用が非常に厳しい状況なので、来年度以降も養成研修会への申し込みを継続する。DMAT 隊員養成研修が受講できない状況が続いているため、当院の災害対応力増強を目的として、神奈川県内での災害に限定して活動する神奈川DMAT-L 隊員養成研修に応募して抽選にたどり、チーム受講することができた。これに伴い、平成 25 年 3 月に神奈川DMAT-L 指定病院の指定を受けた。

4 次年度以降の取組み

医療機関でも災害時のBCP（事業継続計画）を策定すべきとの方針が厚生労働省から示されたことを受け、当院でもBCPを取り入れた災害マニュアルを作成し、防災訓練を実施する。

5 25年度執行体制

(1) 災害対策検討委員会

	職名	氏名
委員長	救急部部长	伊藤 敏孝
副委員長	事務部部长	小山田 茂夫
副委員長	看護部部长	鈴木 恵子
委員	6D病棟看護師長	宮内 まゆみ
委員	手術室看護師長	永井 妙子
委員	総務課長	大堀 浩
事務局長	会計課長兼施設課長	三橋 文武
事務局	外来業務課外来係長兼社会係長	高野 雄太
事務局	外来業務課主事	鈴木 直子

※委員会の作業部会としてワーキンググループを設置

(2) 災害救護に関する業務の主管課

外来業務課社会係

外来業務課長 津々楽 泰江

外来係長兼社会係長 高野 雄太

外来業務課 主事 鈴木 直子

(3) 救護指導者等

救護指導者

救急部部长 伊藤 敏孝

看護師長 永井 妙子

救護担当者

看護師 島田 哲史

外来業務課外来係長兼社会係長 高野 雄太

外来業務課主事 鈴木 直子

6 データ

常備救護班7班、日本DMAT1チーム、日本DMAT隊員9名(医師4名、看護師4名、業務調整員1名)、神奈川DMAT-L1チーム、神奈川DMAT-L隊員5名(医師1名、看護師2名、業務調整員2名)、救急車2台、災害救護車両1台、救護班用医療セット2式、DMAT標準医療資機材1式、日赤業務無線機等14台、衛星電話1台(庁舎設置)、衛星携帯電話2台(可搬型1台、救急車積載1台)、簡易ベッド540台、NBC災害除染セット1式、エアータント1式、イージーアップテント2式、発動発電機7台、職員用非常食3339食、非常用飲料水(500mlペットボトル)4111本

2-10 市民の健康危機への対応

1 事業概要

「新型インフルエンザ等感染症」による市民への健康危機へ対応するため、横浜市新型インフルエンザ対策医療関係者協議会の方針に則り、診療体制等を整備する。

2 25年度実績

- ・横浜市新型インフルエンザ対策医療関係者協議会、同専門部会に出席。
- ・新型インフルエンザ等発生時における帰国者・接触者外来の開設に関し、他病院の訓練を視察し情報共有。
- ・資器材整備としてテント空調・電源、簡易トイレ、ファン付き防護具を補助金にて購入。医療従事者予防内服用抗インフルエンザ薬約300人分を補助金にて購入。
- ・新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく特定接種の登録申請を行った。本申請に関し、隣接する薬局との間に特定接種実施に関する取り決めを締結。

3 目標に対する評価

協議会、専門部会に出席し関係者との意見交換を行えた。予定通り資器材及び抗インフルエンザ薬の購入ができた。

4 次年度以降の取組み

新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画の改定。資器材・抗インフルエンザ薬の整備を進める。

5 執行体制

横浜市新型インフルエンザ対策医療関係者協議会メンバー 四宮病院長。
同専門部会メンバー 膠原病リウマチ内科部長 萩山裕之

3 指定管理者独自の取組み

3-1 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」

1 事業概要

当院では平成26年2月より手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を利用した手術を行っています。最先端の技術により精巧な手術が可能となり出血・術後の疼痛が少なく、機能回復が早いことから早期の社会復帰が可能となります。現在は前立腺癌手術のみの保険適用となっておりますが、今後は婦人科、腹部外科、胸部外科、心臓外科領域などへ拡大していくことが予想されます。

2 25年度実績

- ・ 25年度は5件のロボット支援下前立腺全摘除術を施行しました。
- ・ 市民の方や地域の医療機関への広報は、当院ホームページへの掲載、神奈川日赤新聞への投稿、がんセンター講演会や病診連携会での発表により周知を実施。

3 次年度以降の取組み

- ・ 26年度は30件の手術件数が目標です。
- ・ 広報は、引き続き、当院ホームページへの掲載、病診連携会での発表を行うとともに、新たに病院パンフレットへの掲載を予定。

4 執行体制

現在ロボット技術認定医2人にて施行していますが、今年度中に1人追加して行います

5 データ

新規事業のために参考として、開腹前立腺全摘除術数を挙げます。

- ・ 2011年 18件
- ・ 2012年 15件
- ・ 2013年 26件

4 地域医療の質の向上に 向けた取組み

4-1 医療における安全管理

1 事業概要

医療安全推進室は、医療安全対策と患者の安全確保を推進するために設置され、専従の安全管理者・ICNを配置し、医療安全ならびに感染予防・感染対策に関する以下の業務を担っている。

- ・医療安全・感染対策に関するマニュアルの更新管理及び職員への周知。
- ・医療安全・感染対策に関する研修の企画・運営と啓発活動。
- ・感染管理に関する各種届出および感染対策に関する業務。
- ・医療安全・感染対策に関する院内外の情報や関連会議からの情報を周知。
- ・医療安全・感染対策に関する相談業務・ラウンド。
- ・インシデントレポートの収集・分析・対策立案。
- ・委員会等の運営及び事務局

2 25年度実績

- ・感染対策マニュアルを平成25年10月に改定した。
- ・安全管理マニュアルを平成25年11月に改訂した。
- ・マニュアルの改訂後、職員、委託業者への周知を行った。
- ・感染に関する研修会は、5月、8月、9月、10月、11月に実施した。
- ・安全に関する研修会は、6月、7月、8月、11月、12月、1月に実施した。
- ・随時、情報（外部からの文書含む）の周知や注意喚起を行った。
- ・インシデントレポートの収集数は3266件であった。事例分析や対策立案を各部署のリスクマネージャーとともにを行った。
- ・安全・感染対策に関する依頼・相談に対応した。
- ・ICTによる定期的な院内ラウンドを実施した。
- ・感染事例への具体的な対応・指示、関連機関との連携を図った。
- ・感染防止対策加算1に則り他施設とのカンファレンスを4回開催した。
- ・感染対策地域連携加算に則り他施設と相互ラウンドを実施した。
- ・関連委員会等開催・議事録の管理。

3 目標に対する評価

(1) 医療安全管理

ア 医療安全の知識習得と感性の向上

全職員対象の研修会は、参加型研修と職種別研修を実施した。参加できなかった職員へのフォローアップ研修会を増やし実施した。結果、参加率は約75%となり、昨年度と比較すると35%上昇した。講義形式ではなく参加型研修や同内容を数多く開催することやDVDの貸し出しで参加しやすい環境につながるため今後も継続する。

イ 安全な医療の提供

- ・CVCによるインシデント・アクシデント減少のため院内ライセンス制とし、医師への教育体制を整えた。

- ・与薬手順の定期的な調査が注意喚起となりその後の発生件数が低下した。また、看護部リスクマネージャーとの面談を通し、自部署の傾向と対策を検討した。
- ・転倒・転落の患者タイプ判断フローを見直し、改訂した。定期的な調査により適切な判断ができるようになっている。

ウ マニュアル活用

- ・定期的に見直し、リスクマネージャー委員会で周知した。

(2) 感染対策

ア 標準予防策・感染経路別予防策の徹底

- ・ICT ラウンドを毎週実施し、問題点を現場にフィードバックした。
- ・感染講演会実施し、参加のための複数回開催や時間帯を変えて開催など行ったところ出席率は約 30%上昇した。

イ サーベイランスによるアウトブレイクの特定

- ・BSI サーベイランス、UTI サーベイランス継続。SSI サーベイランス：平成 25 年 1 月より定期化。JANIS サーベイランス：検査部門・全入院患者部門継続。MRSA 検出患者サーベイランス：継続。

サーベイランスではアウトブレイクは特定されなかった。

ウ 抗生物質の適正使用：特定抗生物質使用届け後のフォロー

年度の特定抗菌薬の届出率は 80%であり、昨年度より 15%増であった。また、1 週間以上の長期使用患者に対しては主治医と部長に適正使用を促した。起炎菌や感染症名から、不適切な使用と考えられる場合には ICD から主治医に適正使用を促した。

4 次年度以降の取組み

(1) 医療安全管理

年度テーマ：チーム医療の推進

ア 医療安全の知識習得

- ・コミュニケーション力の向上に取り組む。

イ 安全な医療の提供

- ・チューブ抜去対策検討
- ・身体抑制に関する院内ルールの検討
- ・転倒・転落/薬剤エラーに関する調査

ウ マニュアル活用

(2) 感染対策

ア 標準予防策・感染経路別予防策の徹底

イ サーベイランスによるアウトブレイクの特定：BSI、UTI、SSI、JANIS、MRSA。

ウ 抗菌薬の適正使用：特定抗菌薬使用届け後のフォロー

エ 針刺し防止：安全機能付き器具の使用推進

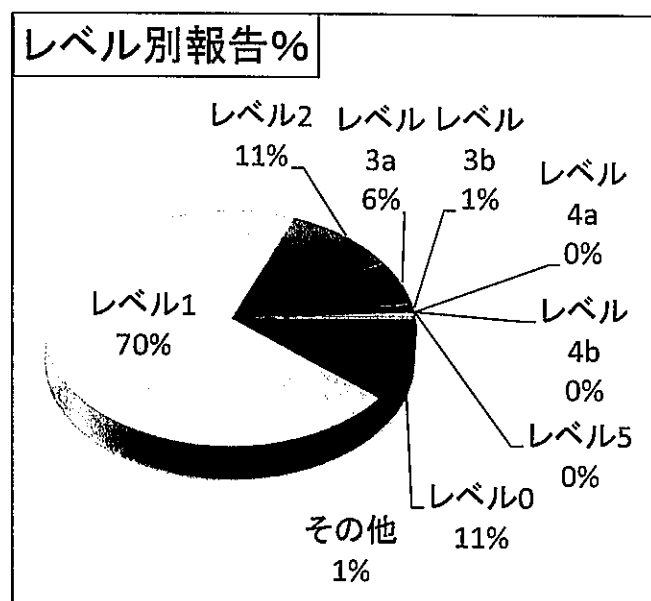
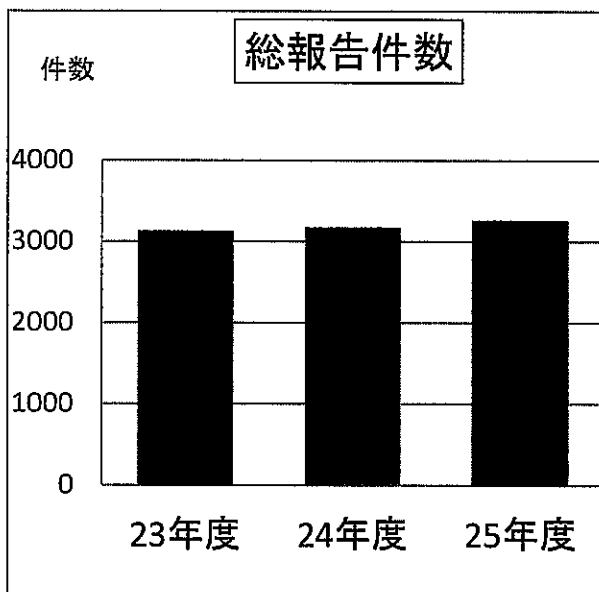
オ リンクナースの活動支援

- カ 地域連携への取り組み
- キ 感染症関連施設認定、資格取得
- ク 流行性ウイルス疾患抗体価検査の推奨

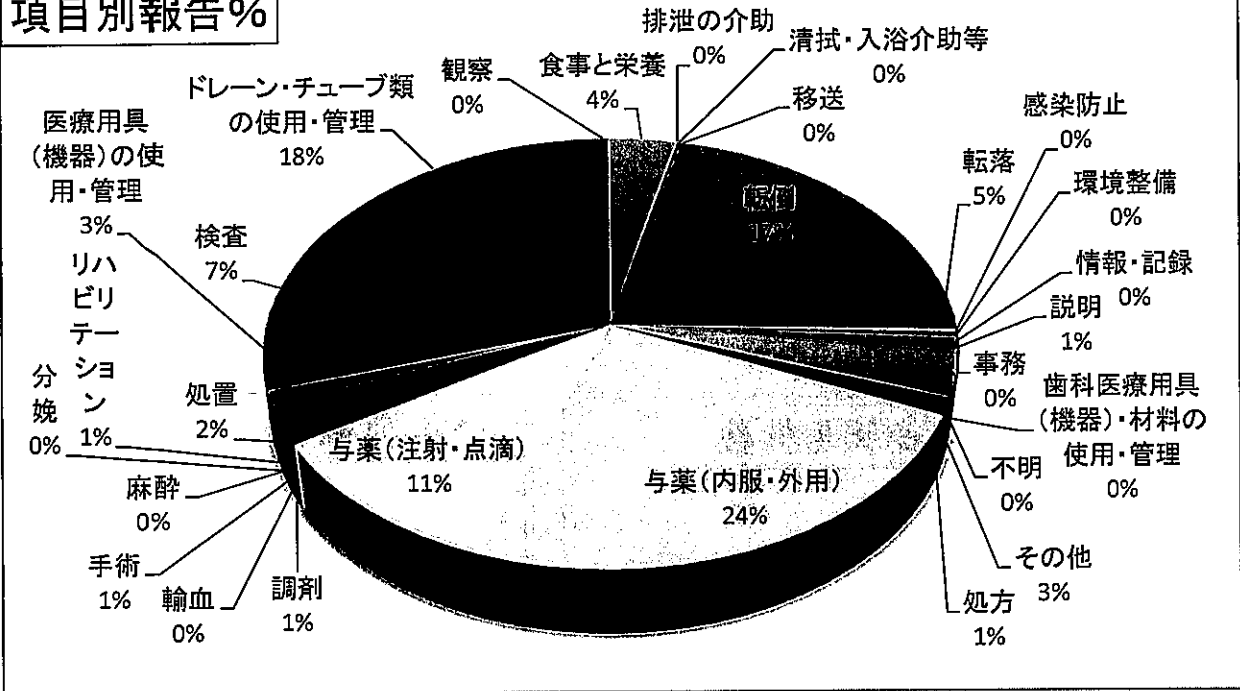
5 執行体制

- ・安全管理委員会、リスクマネージャー委員会、身体抑制検討チーム、チューブ抜去対策チーム、医療安全推進課長
- ・感染対策委員会、ICT、医療安全推進課

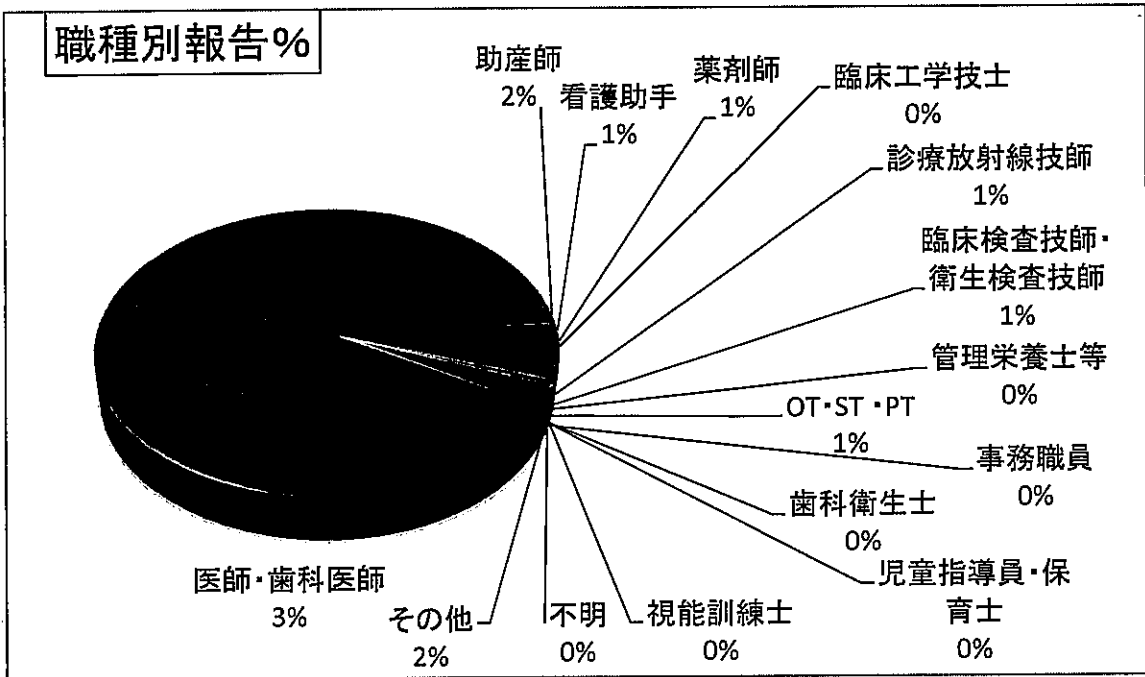
6 データ



項目別報告%



職種別報告%



4-2 医療倫理に基づく医療の提供

1 事業概要

当院において行われる医療行為及び医学研究が倫理的、社会的観点から適切に行われることを目的とする。医療行為及び医学研究をめぐる生命倫理上の事項、および具体的な個々の医学研究の実施に関して申請のあった事項について審議する。

2 25年度実績

医療倫理委員会 開催日	議 題	審議結果
平成 25 年 6 月 25 日	Neuromuscular Pathology in Critically Ill Patients:An Autopsy Study"NECROPSY Study"	承認
	研究参加施設に新たに発生する全ての成人 ALL 症例を対象とした 5 年生存率に関する前向き臨床観察研究、JALSG ALL Clinical Observation Study 12 (JALSG-ALL-CS-12)	承認
	家族性血小板異常症の遺伝子解析研究	承認
	65 歳以上の急性前骨髄球性白血病に対する亜ヒ酸による地固め療法-第Ⅱ相臨床試験-JALSGAPL212G	承認
	急性前骨髄性白血病に対する亜ヒ酸、GO を用いた寛解後治療-第Ⅱ相臨床試験-JALSGAPL212	承認
	移植非適応の未治療多発性骨髄腫患者に対する MPB 療法の臨床第Ⅱ相試験	承認
平成 25 年 8 月 7 日	虚血性脳血管障害の病因推定に有用なバイオマーカーの検索	承認
	糖尿病患者におけるこむら返りの苦痛緩和への試み -外来における足関節運動の指導の効果-	承認
	大腸癌化学療法に伴う悪心・嘔吐リスク因子探索のための前向きコホート研究	承認
	鼻骨骨折患者における手術群・非手術群の治療満足度調査	承認
	アトピー性皮膚炎の評価指標としての呼気一酸化窒素の意義	承認
	皮膚表在血流の新たな虚血スクリーニング手法の開発	承認
	腎不全合併急性非代償性心不全患者におけるトルバプタンの安全性・有効性前向きランダム化他施設研究	承認
平成 25 年 10 月 16 日	J-BRAND Registry[Japan-Based clinical ReseArch Network for Diabetes Registry]	承認
	気象条件が血糖コントロールに及ぼす影響	承認
	抗リウマチ薬による重症副作用に関する遺伝子解析研究	承認

	関節リウマチに伴う間質性肺炎に対する中等量ステロイドと免疫抑制薬による治療の有効性と安全性に関する研究	承認
	機能的僧帽弁閉鎖不全症に対する弁輪形成術の至適人工弁輪径の検討	承認
平成 25 年 11 月 11 日	救急外来での「めまいテンプレート」の活用	承認
	下肢骨折に対する自主トレーニング定着を促進する要因の予備的研究	承認
	心房細動を有する WPW 症候群患者さんのアブレーション後の経過調査	承認
平成 25 年 12 月 11 日	成人フィラデルフィア染色体陰性 precursor B 細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法による第 II 相臨床試験 (JALSG Ph(-)B-ALL213)	承認
	成人 Burkitt 白血病に対する多剤併用化学療法による第 II 相臨床試験 (JALSG Burkitt-ALL213)	承認
	成人 precursor T 細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法による第 II 相臨床試験 (JALSG T-ALL213-O)	承認
	小児および若年成人における T 細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第 II 相臨床試験実施計画書 JPLSG ALL-T11/JALSG T-ALL-211-U	承認
	糖尿病治療薬の使用実態調査と病棟薬剤師	承認
	肝障害を合併した 2 型糖尿病患者に対するリナグリプチンの有用性の検討	承認
	心房細動に対するカテーテルアブレーション治療の有効性と安全性に関する研究	承認
平成 26 年 1 月 28 日	初発フィラデルフィア染色体陽性成人急性リンパ性白血病を対象としたダサチニブ併用化学療法および同種造血幹細胞移植の臨床第 II 相試験 (JALSG Ph+ALL213)	承認
	慢性冠動脈疾患患者におけるイコサペント酸エチルの二次予防効果の検討	承認
	横浜市内幼稚園・保育園における食物アレルギー児への対応に関する調査	承認
	当院における流行性ウイルス疾患抗体価の現状とワクチン接種の勧奨	承認
	死後の神経・筋の組織学的変化をみる研究	承認
	低悪性度筋層非浸潤膀胱癌に関する臨床的検討	承認
	高悪性度筋層非浸潤膀胱癌に関する臨床的検討	承認
	若年発症の多発性硬化症、Clinically isolated syndrome、視神経脊髄炎における脳萎縮 0 -髄液所見、認知機能の解析	承認

3 委員

	委員氏名	役職・性別・任命年月日
1	高橋 誠司	外部委員（元神奈川県立保健福祉大学教授）・男・平成 24 年 4 月 1 日任命
2	田中 治	外部委員（弁護士）・男・平成 24 年 4 月 1 日任命
3	中村 陽一	委員（アレルギーセンター長）・男・平成 17 年 4 月 1 日任命
4	山本 晃	委員（血液内科部長）・男・平成 18 年 4 月 1 日任命
5	伊藤 理	委員（形成外科部長）・男・平成 17 年 4 月 1 日任命
6	田淵 典之	委員（心臓血管外科部長）・男・平成 25 年 4 月 1 日任命
7	福家 修子	委員（看護師長）・女・平成 22 年 4 月 1 日任命
8	高橋 弘充	委員（薬剤部長 院長補佐）・男・平成 17 年 4 月 1 日任命
9	大堀 浩	委員（総務課長）・男・平成 23 年 5 月 1 日任命

4-3 地域医療機関との連携・支援（地域医療連携課分）

1 事業概要

地域医療連携課として以下の事業を行う。

- ・地域医療支援委員会
- ・大腿骨頸部骨折地域医療連携パス合同委員会
- ・脳卒中地域医療連携パス合同委員会
- ・みなとセミナー
- ・4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会
- ・みなと市民セミナー
- ・地域医療連携交流会
- ・みなとからの風発行
- ・HPの開設
- ・紹介患者外来予約
- ・高度医療機器共同利用 CT（単純・造影）・MRI、PET/CT、RI、マンモグラフィ、リニアック、骨密度検査、上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡）

2 25年度実績

- ・地域医療支援委員会…4回開催
- ・大腿骨頸部骨折地域医療連携パス合同委員会…3回開催
- ・脳卒中地域医療連携パス合同委員会…3回開催
- ・みなとセミナー…23回開催
- ・4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会…1回開催
- ・みなと市民セミナー…2回開催（うち1回は総務課担当）
- ・地域医療連携交流会…6回開催
- ・日赤東部ブロック医療連携研究会…1回開催
- ・みなとからの風…3回発行
- ・HPの開設…随時
- ・紹介患者外来予約…12,106件
- ・高度医療機器共同利用実績…1,946件

3 目標に対する評価

レベルの高い急性期医療を提供するため、地域医療機関とそれぞれ医療機能の分担、連携協力体制を強化し、紹介率・逆紹介率の向上に努めた。

地域医療支援病院として、近隣診療所の支援および地域医療の質向上のためにも、近隣医師会、登録医等関係医療機関との合同研究会、地域医師を対象としたセミナーを開催し、顔の見える医療連携を推進した。

4 次年度以降の取組み

平成26年度は、救命救急センター、がんセンター、周産期母子医療センターを掲げる病院として、地域医療機関との役割分担、医療連携を推進する。

また地域医療支援病院として引き続き、登録医をはじめ地域医療機関との医療連携を強化し、紹介率・逆紹介率を維持し、地域医療機関を支援する地域連携を構築する。

5 執行体制

医療連携センター長 持松 泰彦

地域医療連携課長 欠員

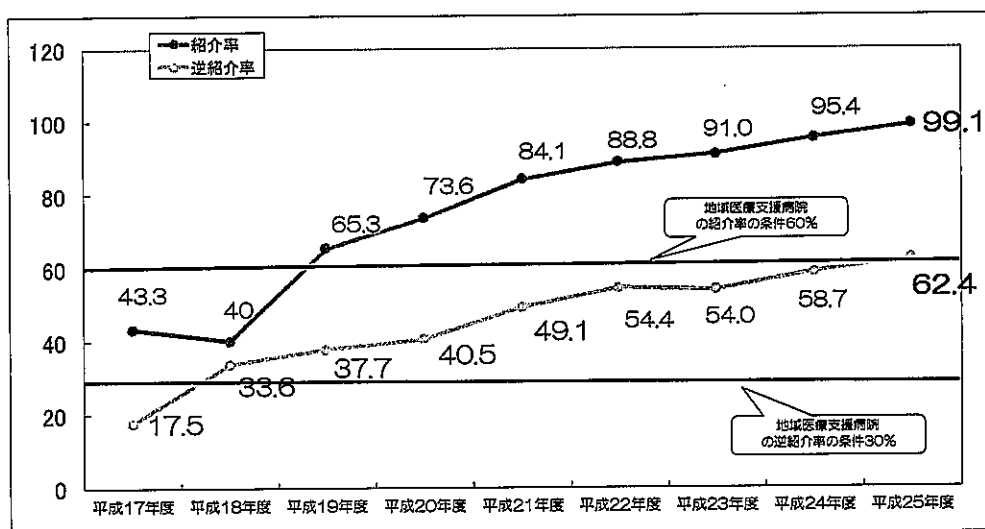
同 係長 北村 聖奈

同 主事 篠原 美里

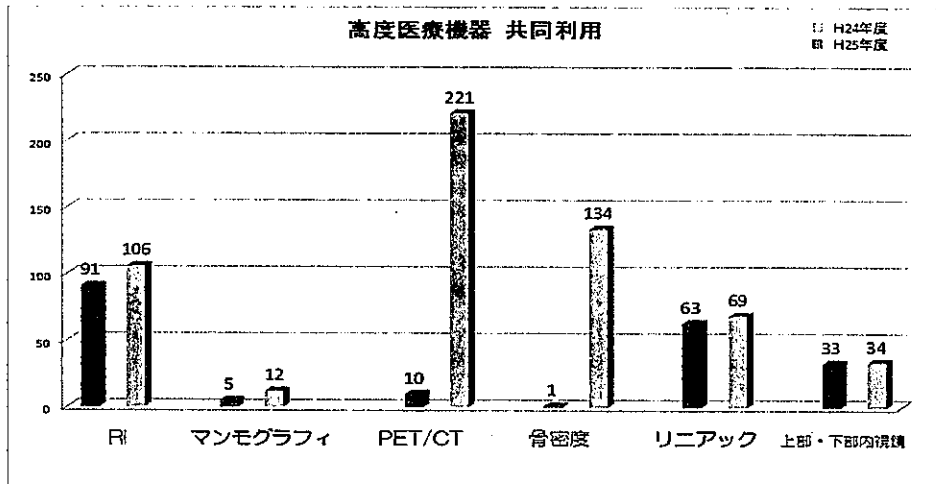
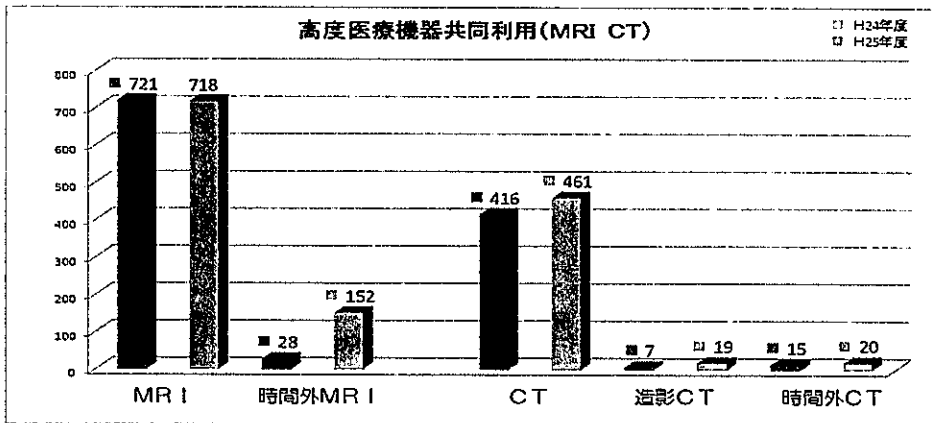
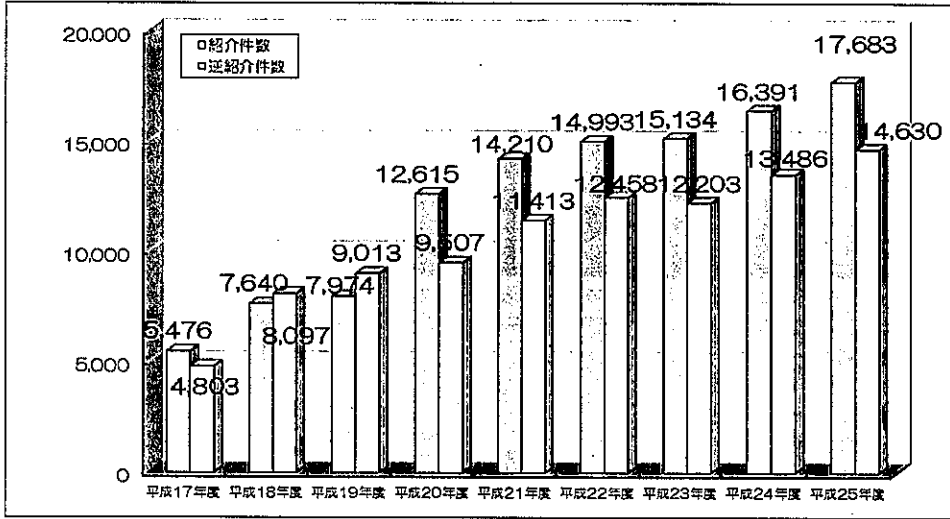
同 嘱託 菊池 孝子

6 データ

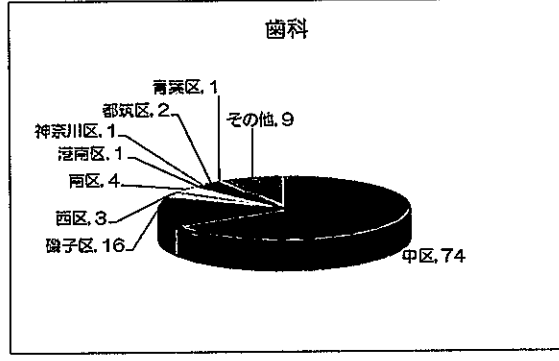
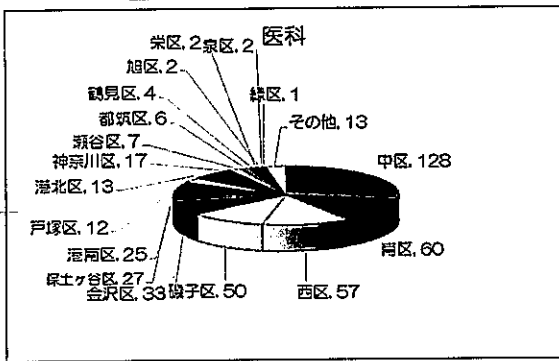
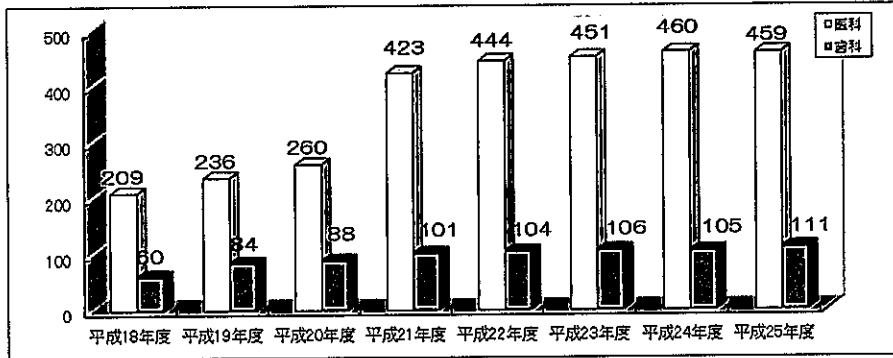
紹介率・逆紹介率の推移
(年度推移)



紹介件数・逆紹介件数推移
(年度推移)

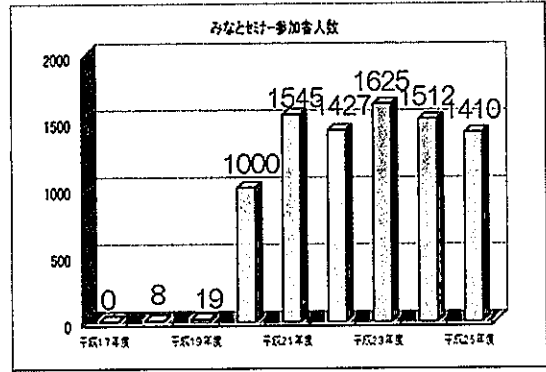
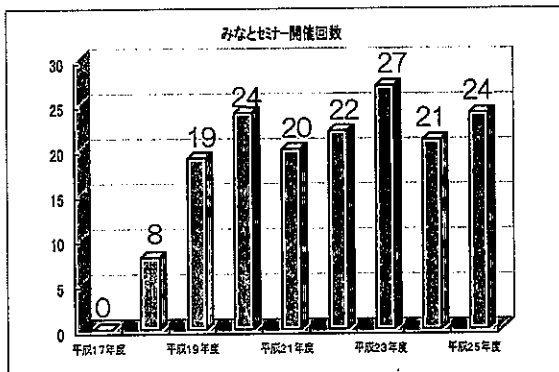
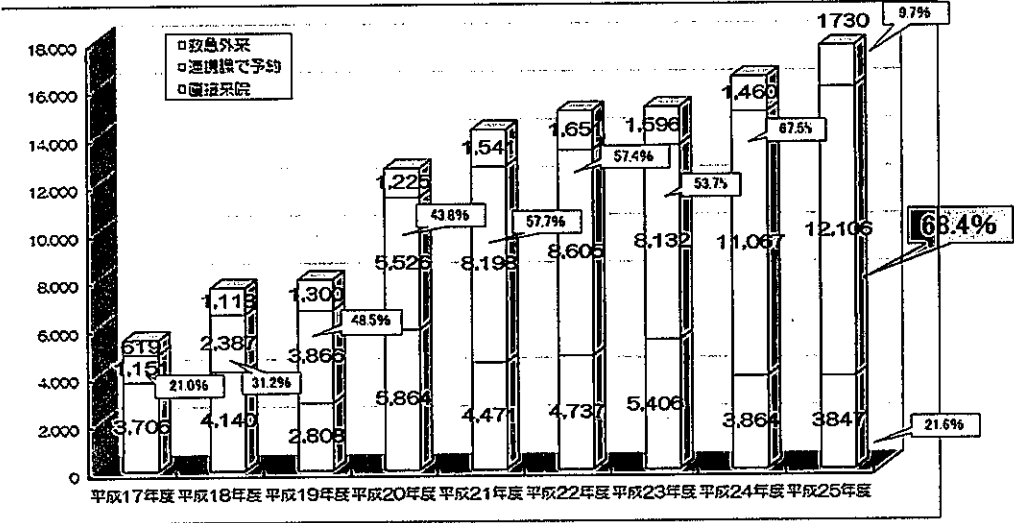


登録医登録状況



紹介方法別紹介件数推移

平成25年4月～平成26年3月



4-4 地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室分）

1 事業概要

医療連携センターは、横浜市立みなと赤十字病院が地域の求める医療機能を効果的、効率的に果たし、医療を必要とする患者・家族が安心して生活できるように、病院内および地域医療福祉機関等との連携・協働を推進し、地域医療の質向上に努める。多くの市民に質の高い医療を提供するとともに、患者・家族が希望する医療やケアを一貫して提供するためには、病院完結ではなく、地域医療機関をはじめとする保健福祉機関と密接な連携をとり、入院・外来を問わず市民が安心して医療を受けられるシステムを提供することが必要である。

「療養・福祉相談室」として、在宅療養相談や福祉医療相談を中心に、患者家族からのさまざまな相談を受け対処する。診療部門や看護部門とともに患者や家族の支援をする。また、がん患者の地域での支援体制を整備して、地域で安心して療養していただけるように、周辺のさまざまな調整をしていく。上記目的のため、療養・福祉相談室内にがん相談支援センターを設置し、院内院外の患者を問わず幅広く相談に対応する。

2 25年度実績

(1) 療養・福祉相談の実績報告（資料①）

年度実人数は若干の増加がみられるが、新規ケース 5524 件（前年度比+2629 件）となっており、内訳では医療職Ⅲ（看護師）からの依頼が目立つ。その要因として、25 年度に相談室と看護部協働にて退院支援マニュアルを作成し、その影響でケース数の増加につながったと考えられる。転帰先は、在宅が最も多いことは変わりなく、一般病院、療養型病院への転院割合が若干増加し、施設入所も介護老人保健施設への入所に若干の増加がみられる。相談援助調整内容に約 8000 件の減少がみられたのは、複数の相談内容の対応が減ったためと思われる。算定関連では、先に挙げた退院支援マニュアルの成果により、退院調整加算、介護支援連携指導料等大幅な伸びがみられた。地域連携パスはほぼ例年通りである。

(2) 地域関係機関との取り組み（資料②）

地域関係機関との連携が不可欠であるこの部門として、様々な取り組みを行った。

- ① かいごの Wa という在宅介護関係機関の会合への参加、退院支援看護師の交流会への参加など、在宅療養支援に関する取り組み
- ② 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステム実務者会議や障害者自立支援協議会への参加、中区 3 障害一体サービス提供施設運営委員会など、障害児者に関する活動
- ③ 福祉医療病院として、医療協 SW 会の全体会や委員会に参加
- ④ 精神科医療に関する活動として、合併症受入病院連絡会や精神保健業務連絡会、医事担当者会議等の参加により必要な情報収集、受入病院としての提言
- ⑤ 横浜脳卒中地域連携懇談会の参加や横浜脳卒中・リハ連携研究会 (Y-CIRCLE)、大腿骨頸部骨折パス合同委員会の当院での開催

(3) 専門職育成への取り組み

14名の看護学生、1名の社会福祉学生、2名の精神保健福祉学生の実習を受け入れた。また、在職中の職員(精神保健福祉士資格保持者)が今年に社会福祉士の資格を取得した。

(4) 専門職としての研鑽(詳細は2で挙げた資料の通り)

医療協、神奈川県MSW協会、神奈川県PSW協会や、その他自治体主催による各種研修を積極的に受講し、有資格者としての自己研鑽を図った。また、神奈川県MSW協会研修委員、神奈川県PSW協会理事、研修委員、医療観察法における精神保健参与員、自立支援法障害支援区分認定審査会委員、障害者人権擁護モニター活動など、資格の専門性を生かし幅広い活動を通して業務に反映させた。

(5) 院内他部署、あるいは地域関係機関に向けた取り組み

各職種の特性を生かし、様々な勉強会を開催した。リハビリスタッフ向けの総合支援法についての勉強会、精神科病棟での精神保健福祉法の勉強会、救急病棟、等での療養先についての勉強会などを開催した。また例年リウマチ教室での社会福祉制度の説明を行っており、今年は化学療法室スタッフに向け医療費の説明、がんサポートプログラムにおいて介護保険制度、医療費について説明を行った。

3 目標に対する評価

今年度中に達成する目標を以下の7項目に設定した。

(1) 大腿骨頸部骨折パス/脳卒中パスについて院内外の連携を深め、円滑な運用を進める。

→円滑な運用は推進できた。脳卒中パスについては46件、頸部骨折パスについては42件と前年度と同様の成果であった。

(2) 自宅退院の増加も踏まえ、退院時共同指導や介護支援連携をより積極的に行い、昨年度減少した指導料の算定に結びつける。

→退院支援マニュアルの作成の成果により算定件数は大幅に増加した。

(3) 政策医療の一つでもある精神科救急医療/身体合併症システムの円滑な運用に向け、院内外との連携を深める。

→在職中の社会福祉士が精神保健福祉士資格を取得したことにより担当者が増え、より一層精神科関連の相談援助、システム運用については円滑となった。四州市、他医療機関との連携も外部研修などで関係性を深めており、院内においても診療科、病棟の理解を深めることが出来た。

(4) みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part7」を実施する。

(資料③)

→実施。25年度は高齢者というキーワードだけでなく、障害のある方の高齢化の問題に焦点を当て、中区障害者支援拠点の「みはらしポンテ」と協働してセミナーを開催した。介護保険分野のみならず障害福祉分野にも広く呼びかけ、院内外合わせて88名の参加となった。

(5) がん拠点病院に必要とされるがん相談支援センターの体制を、相談員研修の参加などにより強化し、がんサロンの立ち上げ、定着を図る。

→昨年度新たに PSW1 名が受講し、相談員研修 I・II の修了者は MSW3 名 PSW2 名、Ns2 名となったが、Ns2 名が退職したため、今年度の研修受講者補充を図る。また、相談員研修IIIを PSW1 名が受講した。がんサポートプログラムについてもサポートを行った。

(6) 横浜脳卒中・リハ連携研究会 (Y-CIRCLE) を当院にて開催する。

→25 年度は他院にて開催。26 年度 7 月に当院にて開催予定。

(7) 看護師、社会福祉士、精神保健福祉士の専門職養成のため、実習の場を提供する。

→(3) 専門職育成への取り組みにおいて述べた通りである。

4 次年度以降の取組み

(1) 大腿骨頸部骨折パス／脳卒中パスについて院内外の連携を深め、円滑な運用を進める。また、横浜脳卒中・リハ連携研究会 (Y-CIRCLE) を当院にて開催する。

(2) 退院支援マニュアルの運用を推進し、退院支援ワーキングにおけるマニュアルの改良も継続して行うことで、退院時共同指導や介護支援連携の算定に寄与する。

(3) 政策医療の一つでもある精神科救急医療／身体合併症システムの円滑な運用に向け、院内外との連携を深める。

(4) みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part8」を実施する。

(5) がん拠点病院に必要とされるがん相談支援センターの体制を、相談員研修の参加などにより強化し、がんサポートプログラム・がんサロンの支援・定着を図る。

(6) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの円滑な運用を推進する。

(7) 看護師、社会福祉士、精神保健福祉士の専門職養成のため、実習の場を提供する。

(8) 平成 25 年度から行っている救急搬送受入病院連携支援モデル事業の積極的な運用を推進する。

5 執行体制

医療連携センター長 持松 泰彦

医療連携副センター長 乾 尚美

療養・福祉相談室課長 渡邊 貴子 (看護師) ※平成 26 年度より

療養・福祉相談室係長 金井 緑 (精神保健福祉士・社会福祉士)

MSW 5 名 (内 1 名は精神保健福祉士資格保持者) PSW 2 名 Ns 3 名
事務 1 名

6 データ

資料④参照。

医療社会事業課 平成25年度報告書(資料①)

横浜市立みなと赤十字病院

(1)取扱人数

区分	人数	(前年度比較)
年度実人数	6825 人	+ 2,359
年度延人数	30127 人	+ 2,201

区分	実人数	
新規介入ケース	入院	3480 人 + 684
	外来、その他	2044 人 + 750
終了ケース	5474 人	+ 1,359

精神科入院相談件数	369 件	+ 24
がん相談	126 件	+ 20

*算定

退院調整加算	14日以内(340点)	101 件	+ 55
	15日～30日(150点)	191 件	+ 120
	31日～(50点)	131 件	+ 55
介護支援連携指導料(300点)	126 件	+ 76	
退院時共同指導料2(300点)	13 件	- 4	
3者以上退院時共同指導加算(2000点)	1 件	+ 0	

*地域連携パス実施状況

大腿骨頸部骨折パス	42 件	- 3
脳卒中パス	45 件	- 6

(2)新規ケースの紹介経路

区分	実件数	
医療職Ⅰ	527 件	+ 254
医療職Ⅱ	1 件	+ 0
医療職Ⅲ	2366 件	+ 1,125
一般職Ⅰ	110 件	+ 58
一般職Ⅱ	7 件	+ 4
本人	508 件	+ 244
家族・親戚縁者	607 件	+ 283
院外関係者	1366 件	+ 650
近隣者・知人	2 件	+ 1
ソーシャルワーカー	30 件	+ 10
合計	5524 件	+ 2,629

(3)取扱内容

区分	実件数	
家族関係の問題	379 件	- 219
介護・療養生活上の問題	1812 件	+ 208
経済に関する問題	507 件	- 134
日常生活上の問題	615 件	- 384
就労・職場の問題	21 件	- 15
教育の問題	5 件	+ 1
医療の確保に関する問題	2155 件	+ 270
人権に関わる問題	41 件	+ 16
心理・情緒的問題	452 件	- 195
制度活用に関する問題	908 件	- 123
その他	1611 件	+ 427
合計	8506 件	- 148

(4)援助方法

方法	延件数	
面接	本人	7261 件 - 359
	家族等	4641 件 - 150
電話	本人	221 件 + 46
	家族等	4846 件 - 417
訪問	本人	13 件 - 16
	家族等	4 件 - 1
同行・同伴・代行	66 件	+ 22
文書(電子メール、FAX含む)	2434 件	- 123
情報収集	17910 件	+ 855
院内協議・院内カンファレンス	18767 件	+ 432
院外協議・院外カンファレンス	14857 件	+ 771
合同カンファレンス	256 件	- 355
その他	2188 件	- 214
合計	73464 件	+ 491

(5)相談援助調整内容

内容	延件数	
家族関係に関すること	1452 件	- 1,313
在宅介護に関すること	6519 件	- 50
療養生活に関すること	10853 件	- 475
経済的問題に関すること	1889 件	- 665
就労・職場環境に関すること	71 件	- 88
就学・教育環境に関すること	27 件	+ 16
虐待・暴力・人権に関すること	292 件	+ 20
受診・受療に関すること	1937 件	- 1,276
転院に関すること(医療機関)	8710 件	- 64
他施設利用に関すること	2066 件	- 112
心理・情緒的問題に関すること	1568 件	- 1,190
他福祉関係法に関すること	1753 件	- 2,039
高額療養費に関すること	223 件	- 74
その他	2188 件	- 1,460
合計	39548 件	- 8,770

(6)転帰先

区分	実件数	
一般病院	226 件	+ 46
回復期リハビリテーション病院	218 件	- 6
療養型病院	106 件	+ 45
精神病院	125 件	- 6
介護老人保健施設	58 件	+ 18
特別養護老人ホーム	34 件	- 1
有料老人ホーム	95 件	- 12
グループホーム	13 件	+ 4
在宅	1213 件	- 1
死亡	193 件	+ 23

平成25年度出張記録(資料②)

①地域連携分野

内容	回数
平成25年度メディカルショートステイ施設見学会	2
平成25年度 第2回「病院連携室と訪問看護との連絡会」	1
平成25年度中区障害者自立支援協議会	2
MSWとケアマネジャーとの意見交換会	1
医療観察法における会議体事前打ち合わせ	1
医療観察法における審判期日	1
かいこのWa! なか	4
神奈川県病院学会に係る運営協力	1
横浜市障害程度区分認定審査会(全体会)	1
障害程度区分認定審査会	10
精神科救急身体合併症転院事業受入病院連絡会	1
第10回 横浜脳卒中・リハ連携研究会(Y-CIRCLE)	1
第2回 学術委員会	1
第5回日本こども虐待医学研究会学術集会	1
第8回神奈川脳卒中広域シームレス医療研究会セミナー	1
中区児童虐待防止連絡会	3
中区自立支援協議会 高齢化プロジェクト	2
中区精神保健福祉関係機関地域連絡会	1
病病連携強化支援事業のための病院挨拶	3
平成25年度心神喪失者等医療観察法関係研究協議会	1
平成25年度横浜市精神障害者地域移行・地域定着支援検討会	1
横浜市重症心身障害児者メディカルショートシステム実務者会議	3
横浜市総合防災訓練予行	1
横浜退院支援ナースの会	1
新関東病院ごあいさつ	1
横浜市と打ち合わせ(みなとセミナー)	1
神奈川県がん診療連携協議会相談支援部会 がん相談員研修会	1
神奈川県がん診療連携協議会相談支援部会会議	1
横浜市児童虐待防止医療ネットワーク	2
横浜いずみ台病院 地域連携会	1
平成25年度中区精神保健業務連絡会	1
第11回横浜脳卒中地域連携懇話会セミナー	1
平成25年度 磯子区地域看護意見交換会	1
中区障害者自立支援協議会 中区障害者団体連絡会 合同研修	1
平成25年度 第2回神奈川県認知症対策推進協議会	1
平成25年度 第2回 県がん診療連携協議会相談支援部会	1
平成25年度 神奈川県精神科病院事務長医事担当者会議	1
中区障害者地域活動チーム	1

②研修・勉強会

内容	回数
DMAT-L研修	1
平成25年度 エイズカウンセリング研修	2
平成25年度相談支援センター相談員基礎研修	1
アルク アルコール問題業務研究・連絡会	1
医療協ソーシャルワーカー会	18
救護班主事研修	1
災害時医療救護活動研修会	1
自殺対策基礎研修	1
日赤関東ブロック研修会	1
新任係長研修会	1
相談支援センター 相談員基礎研修(3)	1
第19回全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会及び研修会	1
第49回 日本赤十字医学会総会	1
第49回社団法人日本精神保健福祉協会全国大会	1
退院支援看護師養成研修	1
中区生活支援センター 体験研修	1
平成25年度 第2回こころのケア指導者養成研究会	1
薬物相談研修	1
横浜市総合保健医療センター見学実習	1
若者相談支援スキルアップ研修	2
医療・保健・衛生等 研究会	4
自殺対策基礎研修Ⅱ	1
平成25年度 病院と在宅をつなぐ研修会・実習	4
妊産婦のメンタルヘルスと育児支援	1
こころと福祉の相談会	1
コメディカル職員研修会「精神保健福祉法改正」	1
精神保健医療研修会	1
こころと暮らしと法律の相談会	1
関係者のための医療観察制度研修会	1
改正精神保健福祉法の運用についての意見交換会	1
事務部宿泊研修	1
がん化学療法医療チーム養成にかかる指導者研修	1

③その他

内容	回数
平成25年度 磯子区難病講演会 多系統萎縮症	1
ソーシャルワーク実習 実習指導者懇談会	1
患者付き添い	7

第157回みなとセミナー
～より良い在宅療養支援をめざしてpart7～(2/25)について
アンケート集計結果(資料③)

講演参加者:計88名
 回収率: 59/88 (67%)

①『横浜市からの現状報告』はいかがでしたか？

とても参考になった	13
参考になった	39
参考にならなかった	1
未記入	6

- ・ 障害者の高齢化が進んでいるということを実感しました。
- ・ 横浜市の現状が数値化して分かりやすかった。
- ・ 横浜市障害者プランは、初めて聞きました。とても分かりやすく、よく分かりました。
- ・ 親なき後も安心して地域生活が送れる仕組みの構築が出来てる。
- ・ 市の取り組みが理解できました。
- ・ 現状を知れた。
- ・ 手元の資料暗くて見づらく、パワーポイントも字が小さく、話と資料と一緒に追っていくのが難しかった。
- ・ 知らない事が多すぎました。
- ・ 現状を数値で見れたのがよかったです。
- ・ 数字があって分かりやすかった。
- ・ 高齢になってからの障害を知れたから。
- ・ 全く知らなかったの。
- ・ 施策の再確認をする事ができたので。
- ・ 参考になった。あんしん施業の現状確認できた。
- ・ 分かりやすい説明でした。
- ・ 障害者手帳所有者の状況が参考になった。

②『横浜市グループホーム連絡会からのアンケート報告』はいかがでしたか？

とても参考になった	15
参考になった	38
参考にならなかった	1
未記入	5

- ・ グループホームの現状が少し理解できた。
- ・ 認知症でのホームで困った事など話してほしかった。
- ・ グループホームに関わる方がどう考えているか分かりました。
- ・ 今後のグループホームのあり方や、連携について少しずつ理解ができた。
- ・ 障害者の方々の不安・医療との連携の現状。
- ・ 医療との連携がだんだんと出来ている。
- ・ 認知症の関係はあまり考えた事がなかったが、様々な場面で日中との関係も重要になると分かったので、意識したい。
- ・ グループホームの抱える課題がとても分かりやすかった。
- ・ 体の不調をうまく伝えられない障害者が多い中、医療や高齢の知識があまりない障害者の援助者が病院とやりとりしていく事の難しさを感じられた。
- ・ 知らない事が多すぎました。
- ・ 援助者からの意見ばかりではなく当事者の方の意見もあり、良かった。
- ・ 障害の事は分かるが、介護保険が分からない。
- ・ 介護と障害の話が聞けたため。
- ・ 分野間での連携の必要性を知る事が出来ました。
- ・ 別々のサービスを1か所で聞く窓口がない事が大変だと知る事ができた。

- ・ 前向きな横浜市の政策を聞き家族の大変さを思うとほっと安心する。
- ・ 障害 同一のサービスがあった場合は、介護保険を選ぶ権利がある。よく分かりました。
- ・ 資料を頂きありがとうございます。読み、今後に活用していきます。

③『障害がある人の高齢化について』はいかがでしたか？

とても良かった	35
良かった	17
ふつう	6
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
未記入	1

- ・ 私達が普通に病院にかかっている事を、障害があるという事だけで、受診が難しい事を知りませんでした。健常者も障害者も平等に生きていける社会になるのでしょうか？とても考えさせられました。
- ・ 重心の方のお話が多く、介護保険との連携をもっと学びたかった。
- ・ 今回のテーマ内容が重心中心だったので、もっと知的などについて知りたかった。
- ・ 重症の方とは、ほとんど接する機会がなく高齢者と同じ様に病院(入院)の受け入れが厳しい問題をかかえているのが分かりました。
- ・ 写真を見ながらの説明が良かった。金額的な面ではいくらかかるのか？
- ・ 知的障害、ろうあ者の方の認知症はなかなか分かりにくく、検査をしても認知症と確定できない事が多くあります。なかなか介護認定に反映されないの、十分なサービスが提供できていないというのを感じます。
- ・ 医療との連携がとても重要だと思いました。
- ・ 訪問の家「ポトス」で一度体験で支援をさせて頂いた事がありました。とても考えさせられる内容でした。
- ・ 最新の在宅医療機器を知りたい(見てみたい)です。
- ・ 医療ケアの重要性、又、医療的視点の大切さがとても分かりやすかった。また、今後のグループホームのあり方についても勉強になった。
- ・ 障害のグループホームに入所している人が65歳以上になった場合、介護保険を利用してヘルパーを利用したり、通所介護が使えればよいと思った。
- ・ 障害とか高齢とか結局こちら側の都合であって、本人には全く(ではないが)関係のない事に気がつきました。制度は使うものであって「その人」の生活・人生に合ったものを利用すればよいのでしょうか。分からないのは勉強不足であり、これからも勉強していきたいと思います。
- ・ もっと高齢者の施設で安心して生活できる場が出来たら良いと思った。
- ・ 「朋」の取り組みや、写真で様子が少し分かった。知的の人の医療との関わりの話や、親の高齢化の話は特に納得することが多かった。
- ・ 健常者・障害者共に高齢化社会を迎え医療福祉の必要性受け皿の問題を強く理解出来ました。病院連携の受け皿の必要性、取り組みを共に学べる機会があればと思います。
- ・ 現状で、障害者側に立つ者が道を聞かないといけないという苦労を知りました。確かに18歳の壁、障害者を「知らない」「分からない」で受け入れを拒否されないよう、世の中が変わってもらえればよいと思った。質疑の兄弟・後見人も参考になった。
- ・ 「本人の希望を叶える取り組み」を実際に実現している事素晴らしいと思います。また、「やれない」ではなく、医療者側、施設側それぞれが理解をし、やれるように歩み寄る必要性を改めて実感しました。
- ・ 説明が分かりやすかったです。
- ・ 知らない事が多すぎました。医療と福祉どうやって連携していけば良いのでしょうか。もっともって皆様に伝えていかなければ、現状を分かってももらえないのではないのでしょうか？高齢者支援と障害者支援は、根本的には同じかと思いますが、障害者支援厳しい面がたくさんあるような気がしました。
- ・ その方の希望や望みに対する想像力、その方に対する思いがいかにか大切にという事、その一方でその希望を実現するための支援者の技術や知識がやはり同時に問われる事を深く学べた気がします。ありがとうございます
- ・ 障害のある方の高齢化、それに伴い親の高齢化と通所施設側から考える課題を改めて考えました。
- ・ 訪問介護(介護保険)に携わっていますが、半分位の方が手帳をもってらっしゃって併用してサービスを使われています。
- ・ 単身生活者等知的障害のある人が生活習慣病や糖尿病にならないために。治すために。(理解の難しさにどう働きかけ組み立てるか)
- ・ 重心の方の対応、高齢化の課題を知る事ができ良かったです。
- ・ 障害の事は分からない分野でしたが、具体的な活動等を知る事ができ良かったです。
- ・ 良かった。横浜市障害者制度と歴史からこれからの取り組みを知る事になった。
- ・ 人が生きている以上高齢化はあたりまえ。サービスする側にとっては、身体機能の重要化、言葉のコミュニケーションの重要さがのしかかっている。

- ・ 知的障害の支援者が医療的ケアに関わる知識を身につける機会を設ける事は、障害者が高齢化してからも地域生活を送る一助になるのかと感じました。
- ・ 長く関わってくれている施設、医療との連携が大事であると思いました。
- ・ もっと色々とお話を聞きたかったです。
- ・ 現在の朋での現状を知る事が出来てよかった。医療の進歩に伴い、小さな命が助かり一部で障害を負わなくてはならなくなった場合の生活面からの援助、これは医療・家族みんなで協力して理解していく事の大切さを学んだ。「できない」ではなく、「どうしたらできるか？」という考え方がこれから働いている場面で私に必要な事だと改めて感じた。

④本会の時間配分はいかがでしたか？

ちょうど良い	50
長すぎる	3
短すぎる	1
その他	0
未記入	5

⑤ 次回以降の「より良い在宅療養支援をめざして」の会で、お聞きになりたいテーマ、会への要望などはございますか？

- ・ 小規模多機能型居宅住宅介護について。
特に医療問題をかかえている場合についてをもっと深く知り、学びたい。
- ・ 横浜市内で在宅診療の現状について。
- ・ 今回の重度心身障害を切り口にお話を聞く事が出来ましたが、やはり現在一番の課題となっているのは知的障害(65歳以上増えている印象があります。)や、65歳以上の障害者の事なのではないでしょうか？
特に、65歳以上の障害者の事が聞きたいです。医療連携をしていく上で、これから数多く接することになると思います。
- ・ 初めて、障害の講座を聞いたので良かったです。今後若い人達も受け入れられ所も多く作って欲しいと思いました。在宅の訪問看護についてなどして欲しいです。
- ・ 現場(ヘルパー)の声、実際に支援をしている方の声。
- ・ 精神障害の方の在宅について。
- ・ 精神疾患について。
- ・ 認知症に関して対応方法
- ・ 退院→在宅か医療施設か？どの段階で介入してもらえるのか内容が理解出来る利用者が少ないまま、在宅へ帰る方が多い気がします。退院支援について伺いたいです。
- ・ 今回のテーマとても良かったです。また是非形を変えて実施して頂きたいと思います。
- ・ まさに「そのもの」のテーマでお聞きしたいです。
- ・ 高齢化に伴う、医療に重点を置いた講義を聞いてみたいです。
- ・ 在宅での看取り。
- ・ 在宅医療・訪問介護の現状問題点(介護側に知っておいて欲しい事)
- ・ 精神障害の方の精神疾患以外の医療的ケアに係る課題について。

⑥職種

<院外>

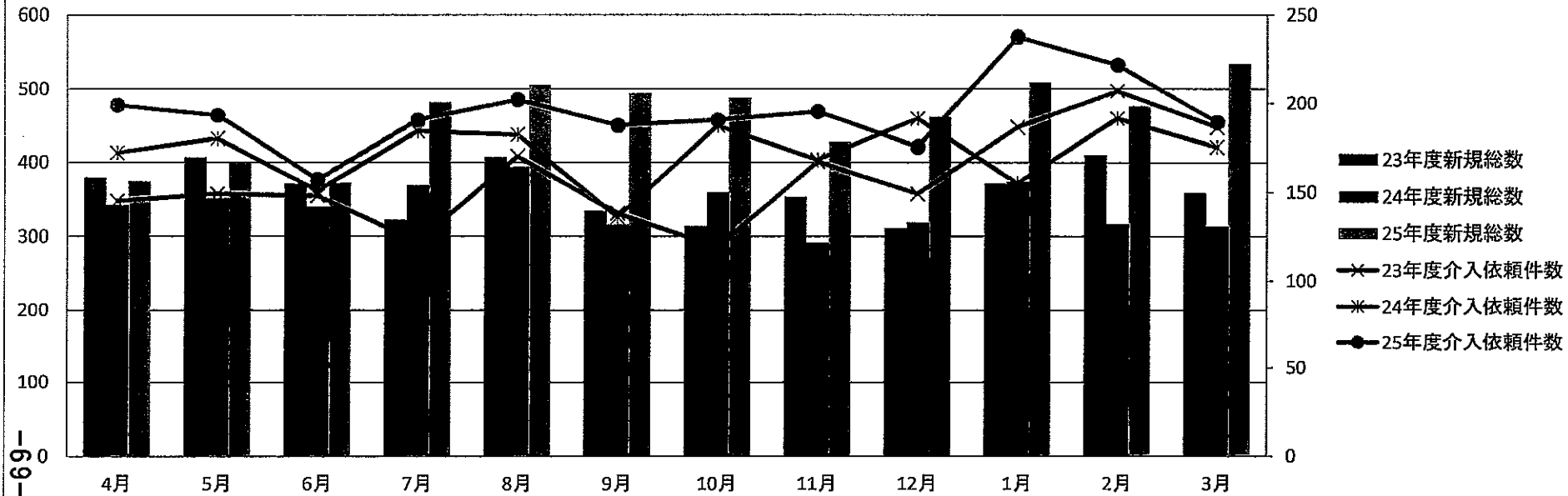
介護支援専門員	17
訪問介護員	9
訪問看護師	3
その他介護支援関係者	0
地域包括支援センター	3
作業所職員	8
グループホーム職員	1
自立訓練会等関係者	0
その他障害者支援関係者	3
相談員	1
地域活動支援センター職員	1
家族	1
行政関係	2

<院内>

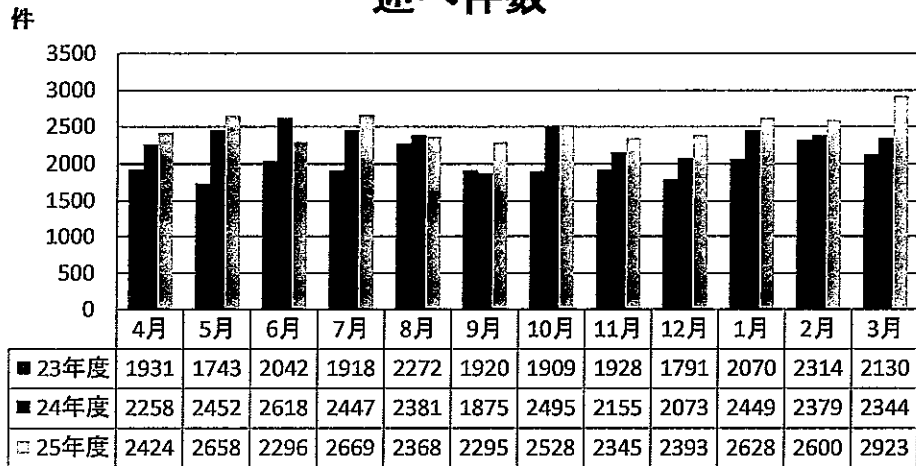
勤務医	1
病棟看護師	1
外来看護師	2
コメディカル	1
その他(介護員)	1
未記入	4

資料④

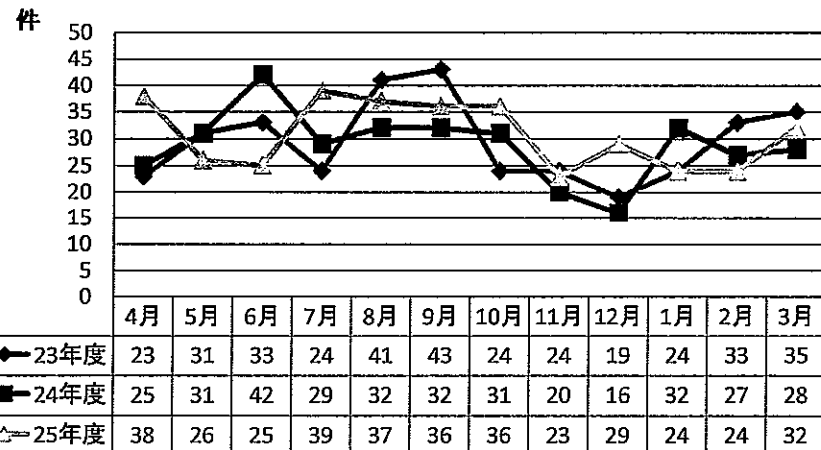
新規ケース



述べ件数

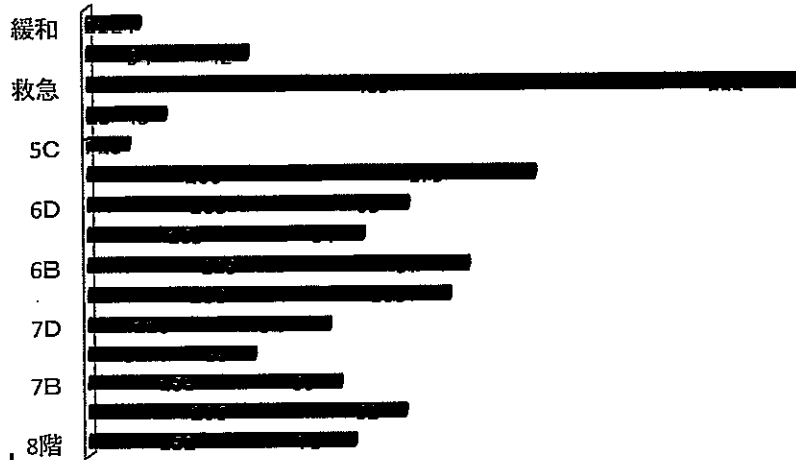


精神科入院相談

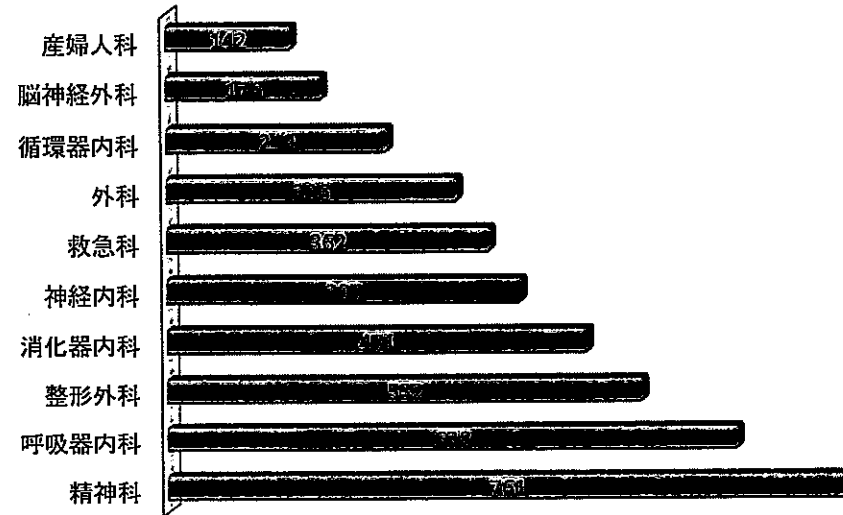


病棟別

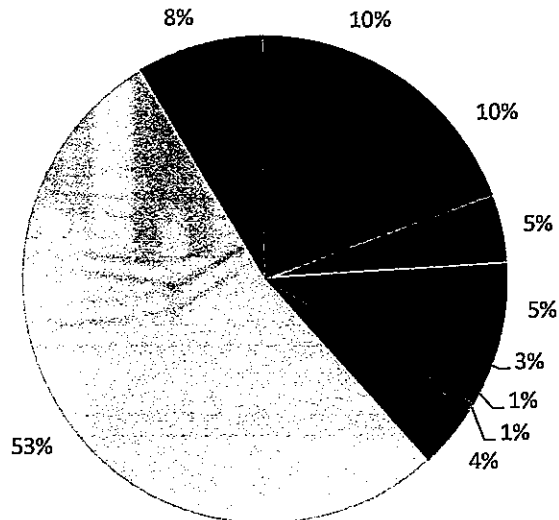
■ 依頼あり ■ 依頼なし



診療科別(トップ10)



転帰先



- 一般病院
- 回復期リハビリテーション病院
- 療養型病院
- 精神病院
- 介護老人保健施設
- 特別養護老人ホーム
- グループホーム
- 有料老人ホーム
- 在宅
- 死亡

病院トップ5

【一般】

①野村病院	47
②ふれあい横浜ホスピタル	29
③横浜悠愛クリニック	16
④金沢文庫病院	12
⑤本牧クリニック	10

【回復期】

①済生会神奈川県病院	25
②脳血管医療センター	24
④横浜なみきリハビリテーション病院	20
③ふれあい東戸塚ホスピタル	19
⑤磯子中央病院	13

【療養型】

①横浜悠愛クリニック	22
②新関東病院	11
③本牧病院	9
④新戸塚病院	5
④清水ヶ丘病院	5
④朝倉病院	5

【精神】

①ワシン坂病院	10
②横浜舞岡病院	9
③日向台病院	7
④ハートフル川崎病院	6
④常盤台病院	6
④東横悠愛病院	6

4-5 市民委員会

1 事業概要

市民の意見を反映させることによって、適切な役割・機能の確保と、提供する医療・サービスの質の向上を図ることを目的とする。

2 25年度実績

平成26年3月3日(月) 18:30~20:30

(主な議題)

- ・横浜市立みなと赤十字病院のこれまでの取り組みについて
- ・病院顧客満足度調査報告について
- ・医療連携について
- ・ダヴィンチの紹介について
- ・質疑

3 委員

	委員氏名	役職
1	行天 良雄	医事評論家
2	荻野 アンナ	作家 慶應大学教授
3	西川 哲男	独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院 院長
4	向山 秀樹	横浜市中区医師会 会長
5	玉村 和巳	日本発条株式会社 代表取締役社長
6	川本 守彦	川本工業株式会社 代表取締役社長
7	川村 朋子	横浜市磯子区医療センター訪問看護ステーション 管理者
8	平山 正晴	横浜市中区連合町内会連絡協議会 会長
9	国広 尚武	横浜市立みなと赤十字病院奉仕団 団員

4-6 治験・受託研究

1 事業概要

臨床試験（治験）の推進と迅速な審査体制による安全性の確保

2 25年度実績

25年度新規治験 10件

(内訳)

- ・関節リウマチ患者対象試験 1件
- ・成人喘息患者対象試験 2件
- ・急性心不全患者対象試験 1件
- ・慢性心不全患者対象試験 1件
- ・消化器手術施行予定患者対象試験 1件
- ・MRSA 感染症患者対象試験 1件
- ・癌性浮腫患者対象試験 1件
- ・アトピー性皮膚炎患者対象試験 1件
- ・子宮内膜症患者対象試験 1件

3 目標に対する評価

今年度の目標であった治験受託件数増加については1件増であったが、臨床研究は22件減と減少幅が大きかった。しかし、市販後調査では7件の増であった。

4 次年度以降の取組み

治験受託件数アップを目標に、SMO（治験施設支援機関）等からの情報収集をさらに利用し積極的に治験業務を推進する。

5 執行体制

臨床試験管理センター

センター長 : 中村 陽一 (アレルギーセンター)

副センター長 : 高橋 弘充 (薬剤部)

治験担当薬剤師 : 細内 和政 (H25.5月末まで) 鏑木 真理子 (H25.6~)

治験担当事務 : 佐々木 智子 (H25.10月末まで) 平山 恵美 (H25.9~H26.3月末)

相澤 早苗 (H25.9月~)

6 データ

年度	23年度	24年度	25年度
治験受託件数	17件	19件	20件
臨床研究	47件	58件	36件
市販後調査	36件	56件	63件

4-7 患者・市民に対する相談・啓発活動

1 事業概要

赤十字事業には救急法等の赤十字安全講習会があり、これらの講習会を開催することで患者・市民に対して健康・安全への啓蒙活動を行い、健康管理の支援を行う。

2 25年度実績

- (1) 赤十字救急法短期講習会 2回
 - ・ 9月27日 参加者22名
 - ・ 10月11日 参加者32名
- (2) 赤十字救急法基礎講習会 1回
 - ・ 3月28日 参加者63名
- (3) 赤十字救急法救急員養成講習会 1回
 - ・ 3月28日～3月30日 参加者63名
- (4) 健康生活支援講習会 3回
 - ・ 8月9日 参加者14名
 - ・ 10月3日 参加者41名
 - ・ 2月21日 参加者22名

3 目標に対する評価

例年通り、救急法、健康生活支援講習会は実施できた。3月に開催した救急法講習会は例年以上の参加があり、会場と指導員の確保が難しかったが、無事に開催できた。幼児安全法講習会は参加者の応募が少ないこともあり、開催に至らないので、講習会を開催できるような対策を引き続き検討する。

4 次年度以降の取組み

市民対象の安全講習会の他、病院職員を対象とした講習会も開催していく。院内で講習会を開催する場合は、指導員となる職員の勤務調整が必要となるが、今後も積極的に安全講習会を開催し、市民、病院職員への啓蒙活動を行う。また、各講習会の職員指導員の養成も取り組んでいきたい。

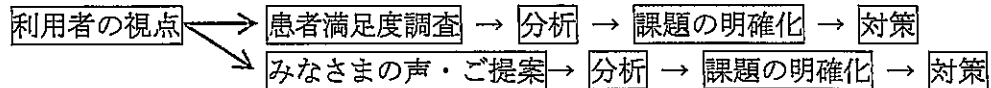
5 執行体制

- (1) 指導員有資格職員数
 - ・ 救急法 11名
 - ・ 水上安全法 4名
 - ・ 健康生活支援講習 4名
 - ・ 幼児安全法 8名
- (2) 赤十字安全講習会主管課
外来業務課社会係

4-8 患者サービス

1 事業概要

利用者の声を分析してサービス向上に取り組む。



昨年度に構築した上記のサイクルを廻しながらフィードバックをする方法を検討し、前年度の課題や反省点を整理した上で年間計画を組織化した。

2 25年度実績

- ・ 接遇指針の周知
- ・ 外国語対応職員の委譲
- ・ 患者・職員満足度調査の実施、結果分析、結果分析後の対策
- ・ みなさまの声の分析と報告
- ・ 病院コンテンツの改定と運用
- ・ 病院ホール及び外来掲示板の整備
- ・ 総合受付の案内表示等の検討

3 目標に対する評価

(1) 利用者の声を分析してサービス向上に取り組む

昨年構築した利用者の評価をサービス向上に効果的に反映する体制を更に充実させ 活動のプロセスを管理しながら効果に実施することができた。接遇に関する職員研修を開催し、現状分析から接遇や説明の質向上で患者満足度を高めることを共通認識できた。

(2) 成果を効果的に病院内外にフィードバックする

みなさまの声や満足度調査に関する情報をホームページや院内掲示板。また、外来に設置されているモニター等を活用して、定期的にお知らせやフィードバック等を行った。

4 次年度以降の取組み

- (1) みなさまの声・ご提案は、定期的に内容検討や回答作成を行い、さらにリアルタイムな広報が行える体制づくりを検討する。
- (2) 接遇指針に則った研修を職種別（医師・看護師・コメディカル、事務）に実施し、接遇・説明等のパフォーマンスを向上させ、病院全体のサービス向上を進める。
- (3) 総合受付の改修を委員会が中心となり下部組織のワーキングチームで効率的に検討し、さらに患者さんの視点で利用しやすい病院の表示や案内の整備をする。

4-9 医療データベースの構築と情報提供

1 事業概要

電子カルテシステムからの情報を中心としたデータの蓄積、診療DWHや医事DWHなどを活用し、2次利用できるよう構築。各部門の必要な統計データの提供の実施を行っています。また、必要なデータ抽出のためのシステム検討とメンテナンスを行っています。

2 25年度実績

- ・月次の診療データ、患者数、稼働額等の統計データ抽出。
- ・日本赤十字社、横浜市等へのデータ抽出
- ・各診療科、部門の統計データ抽出のサポート
- ・業務に関するデータ抽出を考慮した、電子カルテシステム（書式の検討等）と統計データの提出
- ・統計データ抽出に関するシステム検討
- ・各部門の統計データの現状調査、データの定義の検討
- ・統計データ、DPCデータ等の分析について、情報提供会の企画運営
- ・診療科細分化に伴う電子カルテシステムの見直し

3 目標に対する評価

月次の統計データについては、定期的に抽出し、各部門への情報提供を行いました。また、詳細データを抽出できるように診療科の細分化に合わせたシステムの見直しを実施しました。

統計データの現状調査においては、診療科と部門の一部を実施し、次年度への継続課題としています。各部門で抽出されるデータの定義の見直しが今後の課題。必要な統計データが抽出できるようなくみ、システムについて関係部門からの意見を収集し検討したが、導入に至っていません。

情報提供においては、外部講師の活用によりDPCデータの分析等、病院の立ち位置を含む情報提供を定期的に行いました。

4 次年度以降の取組み

- ・統計データの現状調査と各定義の見直しと、診療報酬改定に伴うデータの蓄積及びそのしくみの検討。
- ・システムを活用したデータの2次利用についての検討。
- ・電子カルテシステムの機能追加、運用の見直し
- ・統計データについての定期的な情報提供の実施。

5 執行体制

- ・医療情報センター長 高橋弘充、医療情報課長 谷文恵、係長 小泉敬一

5 職員研修

5-1 職員研修（総括）

1 概要

医療機能を向上していくためには、一人ひとりの職員の資質向上が不可欠であることから、職員研修に重点的に取り組んでいる。

医師に対する臨床教育、看護師レベル別研修、事務職員に対する研修に加えて、コメディカルに対する研修も開始した。

2 実施内容

5-2～5-6 参照

5-2 職員研修（医師）

1 事業概要（臨床教育研修センターの取組み）

- ・医師臨床研修、歯科医師臨床研修の研修プログラム作成および研修管理
- ・研修医・指導医対象の各種セミナーや医療スタッフ向け講習会の企画運営
- ・研修医・後期研修医の採用活動のための見学会の企画運営、見学対応
- ・チーム医療に関する新人研修の企画運営
- ・各部署で行われる研修の統括（臨床教育研修センター委員会）
- ・技術向上のための院内ライセンス制度の管理（腹腔鏡・CVC）

2 25年度実績

（研修医関係）

- ・医師臨床研修：採用研修医6名
- ・歯科医師臨床研修：採用研修歯科医1名
- ・病院見学医学生受入：延べ104名
- ・病院見学歯学生受入：延べ12名

（後期研修医関係）

- ・専門医研修プログラムの作成・募集・採用

（研修会関係）

- ・研修医向けモーニングセミナー 年間61回開催
- ・医学生向け見学会 年間3回開催
- ・Morbidity and Mortality Conference 年間8回開催
- ・みなとFDセミナー 2回開催
- ・その他講演会 2回開催
- ・平成25年度新規採用者オリエンテーション企画
- ・チーム医療ワークショップの企画・運営 年2回
- ・院内CVCライセンス制度事務局
- ・院内腹腔鏡手術技術認定試験事務局 7回試験開催
- ・指導医養成講習会開催（11月）

（その他）

- ・「みなとスキルラボ」の管理

3 目標に対する評価

- ・昨年度より新たにした後期研修医プログラムにより、後期研修医の応募者が増え、26年度の採用者数が大幅に増加した。
- ・臨床研修のローテーション診療科に病理診断科と乳腺外科を追加申請し、研修医の選択の幅を広げた。
- ・スキルトレーニングセンター「スキルラボ」の運営管理をし、医師・看護師をはじめとした医療職の技術向上の場を提供した。
- ・指導医養成講習会を開催し、研修体制の充実をはかった。

4 次年度以降の取組み

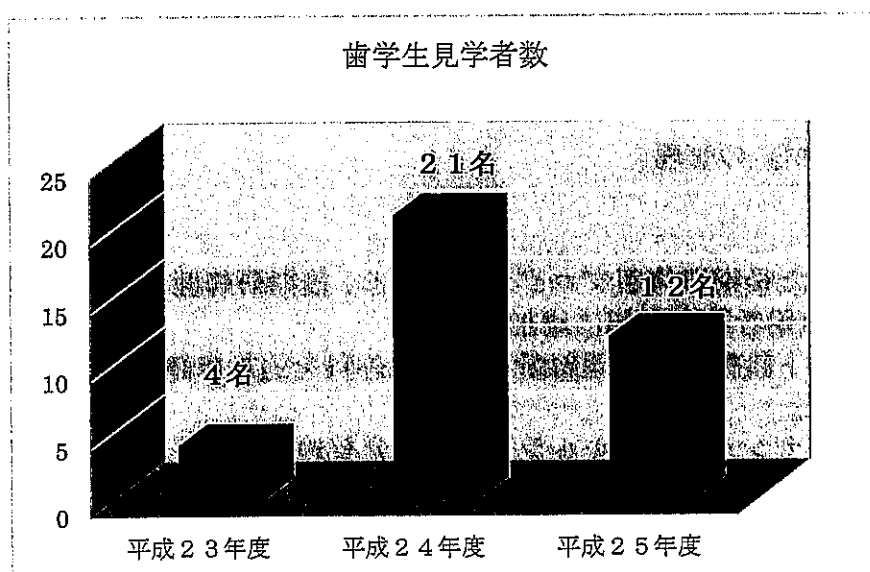
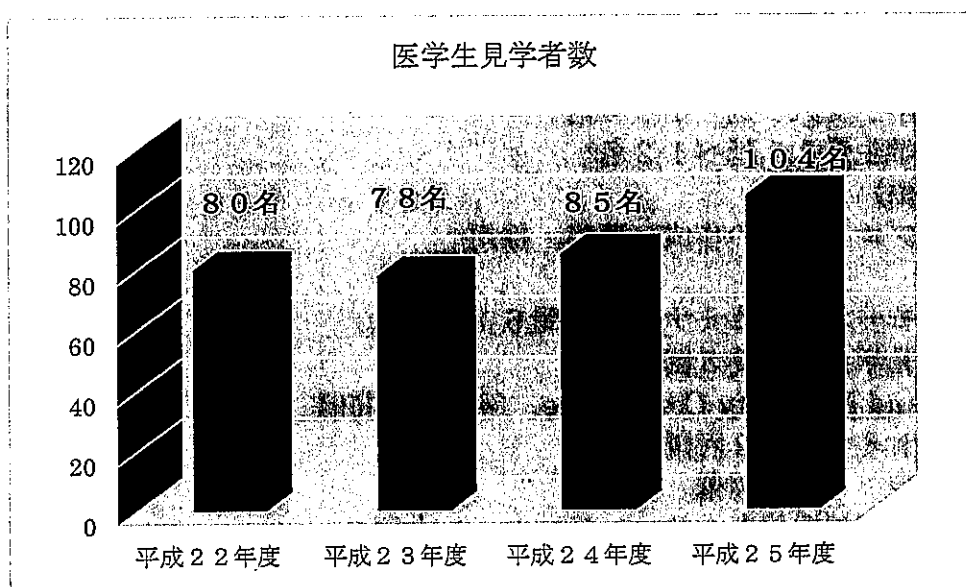
- ・管理者向けの研修制度により力を入れて、職員の育成に努める。
- ・スキルラボを活用し、研修会やセミナーを企画して医療技術の向上に努める。

5 執行体制

臨床教育研修センター長 八木 啓一（救命救急センター長）
事務局 総務課 主事 竹下 奈津実

6 データ

病院見学者数（のべ人数）



5-3 職員研修（看護部）

1 事業概要

- (1) 現任教育を行い、看護職員のキャリア開発を図る
- (2) 新人看護師臨床研修体制の確立と推進
- (3) 管理者のキャリア開発を図る

以上の3点を目標に、看護師研修委員会、教育委員会、管理者を中心に off-JT・OJT の場を効果的に活用して職員研修を進めた。

2 25年度実績

院内研修開催実績については 別添付(平成25年度 レベル別 研修計画)

院内ラダーレベル研修認定

レベルⅠ認定	50人
レベルⅡ認定	47人
レベルⅢ認定	3人

院外研修

看護協会・その他研修	95人
看護管理者ファースト研修	6人
看護管理者セカンド研修	1人
看護管理者サード研修	1人
臨床指導者研修	2人
認定看護師研修	2人
学会発表・参加	55人

3 評価

- (1) 現任教育は本社の「看護実践向上のためのキャリア開発ラダー」に準じ、指標に基づいた研修を実施している。研修の企画・運営上の問題はタイムリーに評価修正できている。25年度よりレベルⅢの研修にリハビリ科・栄養課の職員も参加し、他職種の研究支援も実施した。多くの研修を開催しているため、今後は効率的な研修になるよう、検討が必要である。

看護職員は現在、院内外の研修を受講し看護実践能力を高め、ラダー申請によりキャリアアップを図り、各自が主体的にキャリア育成に努めている。今後は、看護部として研修受講や業績等を管理するツールの検討も含めた人材管理が望まれる。

(2) 新人看護師臨床研修体制は厚生労働省の「新人看護職員研修ガイドライン」に沿って実施している。新人看護師(以下、新人と称す)の育成を担当する、「実施指導者」「教育担当者」の研修を強化し、部署でも研修を活かした実践が行えていると師長の評価を得ている。

新人は、基礎教育と臨床とのリアリティーショックを少なくできるよう、約2週間の集合技術研修を実施している。また、研修では薬剤部・医療安全課・医療情報課・リハビリ科の協力も得て多職種で研修を運営し、職員全体で新人の育成を実施している。

25年度はスキルラボ室で技術習得できる環境が整い、技術向上に役立てることができた。技術向上については、24年度より「ナーシングスキル」を活用し、Web上で学習及び技術チェックを実施している。習得状況はデータ管理し、各部署にフィードバックして技術習得のOJTに役立てている。

24年度の新人離職率の増加に対し、離職等に対する現状調査を新人に実施した。調査結果より離職を考えた理由について当院の特徴が分析され、対策を検討し師長・係長・教育委員と共有した。また、メンタルヘルス関連での退職に対し、集合研修の追加を行い、セルフコントロールを目指した研修と職場の支援を強化した。離職率は24年度より半減した。

新たな取り組みとして、臨床研修センターの事業として4月と11月に全職種の新人で「チーム医療」のワークショップを実施した。多職種での新人職員のつながりを強化でき、現状調査から、入職初期に職場の人々とのつながることが大変重要である結果が得られた。

(3) 管理者の実践能力については、本社より平成22年に「看護管理者実践能力向上のためのキャリア開発ラダー」が発信され、26年度の導入に向けて準備した。

しくみの構築と指標が理解しやすいように解釈を加え一覧を作成し、師長・係長会で内容を共有理解した。今後は管理実践能力を向上できるよう、管理者ラダーの院内研修を構築することが課題である。

4 次年度以降の取り組み

(1) 効率的な現任教育

- ・業務量とのバランスを考え、レベルⅢの研修をスリム化する
- ・主体的なキャリア育成と各自のキャリア管理
- ・教育に関する人材管理のシステム化の検討

(2) 看護師の離職防止

- ・離職防止に向けての継続的な支援

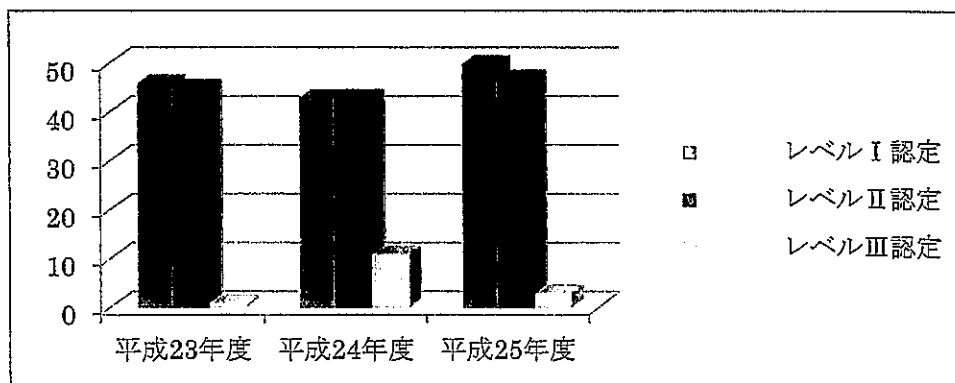
- ・メンタルヘルス対策の継続的な支援
 - ・多職種との協働による新入職者の職員研修の実施
- (3) 看護管理者実践能力向上のためのキャリア開発ラダーの導入
- ・管理者ラダーの研修構築
 - ・実践能力の向上

4 データ

表1 院内外研修実績

項目	23年度	24年度	25年度
院内実践者ラダーレベルⅠ認定	46人	43人	50人
レベルⅡ認定	45人	43人	47人
レベルⅢ認定	1人	11人	3人
院外研修	53人	62人	95人
看護管理者ファースト研修	3人	5人	6人
看護管理者セカンド研修	1人	0人	1人
看護管理者サード研修	0人	0人	1人
臨床指導者研修	2人	2人	2人
認定看護師研修	5人	1人	2人
学会発表・参加	67人	51人	55人

表2 実践者ラダー 認定者数



平成25年度 レベル別 研修計画

レベル分類	研修会名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
レベルⅠ		オリエンテーション (院内) (文庫) テクニカルエッセイ ⇒年度		フォローアップ研修① 6/4 (15:30～17:00)	医療と診療情報 (記録委員会) 7/4 (16:00～17:00)		フィジカルアセスメント (急実時のアセスメント) 9/3 (16:00～17:30) 白井リーダー	多量採血講習 10/29 10/30 (16:00～17:00)	研修注計 初級コース② 11/29			フォローアップ研修② 2/4 (16:30～17:30)		
		集合技術研修					各部署にて英文訓練			救急発生フォロー多量採血(職員)各部署にて				
レベルⅡ	フィジカルアセスメント		研修① 5/13 (16:00～17:30)		研修② 7/1 (16:00～17:30)		研修③ 9/2 (16:00～17:30)		研修④ 11/11 (16:00～17:30)	研修⑤ 12/9 (16:00～17:30)				
	赤十字と看護論Ⅱ								赤十字と看護論Ⅱ (編集委員会) 11/5 (16:00～17:30)					
	看護と診療情報					看護と診療情報 9/6 (16:00～17:00)								
	看護とコミュニケーションⅡ						看護とコミュニケーションⅡ 9/9 (16:00～17:30)							
レベルⅢ	ケーススタディー		研修① 5/30 (16:00～17:30)								研修② 1/31 (16:00～17:00)			
	リーダーシップとメンバーシップ		研修① 5/27 (16:00～17:30)			研修② 8/5 (16:00～17:30)						研修③ 2/5 (16:00～17:00)		
	看護論Ⅲ			研修① 6/25 (16:00～17:00)					研修② 11/22 (15:30～16:00)					
	実地指導	研修① 3/25 (17:30～19:30)	研修② 5/1 (16:00～17:30)	研修③ 6/25 (16:00～17:30)	研修④ 7/2 (16:00～17:30)	研修⑤ 8/28 (16:00～17:30)						研修⑥ 1/10 (16:00～17:30)		
	実習指導	研修① 3/29 (17:30～19:30)			研修② 7/8 (16:00～17:30)			研修③ 10/1 (16:00～17:30)				研修④ 1/29 (16:00～17:30)		
	看護研究(入門)		研修① 5/24 (16:00～17:30)			研修② 8/21 (16:00～17:30)		研修③ 10/7 (16:00～17:30)				研修④ 2/12 (16:00～17:30)		
	看護ケア	急性期患者支援			研修① 6/3 (16:00～18:00)	②ICU研修 240分		研修③ 9/25 (16:00～18:00)	研修④ 10/23 (16:00～17:00)					
		がん性疼痛を 抱える患者のケア				研修① 7/17 (16:00～18:00)	研修② 8/28 (16:00～18:00)	研修③ 9/18 (16:00～18:00)	研修④ 11/20 (16:00～18:00)					
		認知症ケア		研修① 5/7 (16:00～17:30)	研修② 9/17 (17:00～18:30)		研修③ 8/12 (16:00～17:30)				研修④ 12/11 (16:00～18:00)			
		口腔ケア			研修① 6/24 (16:00～17:30)	研修② 7/22 (16:00～17:30)		研修③ 9/30 (16:00～17:30)			研修④ 12/2 (16:00～17:30)			
スキニング(褥瘡)			研修① 5/19 (16:00～17:30)		研修② 7/10 (16:00～17:30)			研修③ 10/25 (16:00～17:30)	研修④ 11/27 (16:00～17:30)		研修⑤ 1/27 (16:00～17:30)			
精神保健看護			研修① 5/29 (16:00～17:30)					研修② 10/23 (16:00～17:30)			研修③ 1/29 (16:00～17:30)			
退院支援		研修① 4/30 (16:00～17:30)		研修② 9/12 (16:00～17:30)		研修③ 8/29 (16:00～17:30)			④ 臨地研修			研修④ 1/19 (16:00～17:30)		
レベルⅣ～Ⅴ		実習指導			レベルⅢ研修① 6/28 (17:00～19:00)	レベルⅢ研修② 8/30 (17:00～19:00)		防災訓練Ⅰ-Ⅱ 10/16 10/31 (17:00～18:00)	レベルⅣ③レベルⅤ① 10/16 10/31 (17:00～18:00)					
レベルⅣ～Ⅴ	マネージメント	入門		研修① 6/9 (16:00～17:30)		研修② 8/23 (16:00～17:30)		管理体験				研修③ 1/22 (16:00～17:30)		
		実技			研修① 6/7 (16:00～17:30)			研修② 8/6 (16:00～17:30)					研修④ 2/19 (16:00～17:30)	
	研修注計	オリエンテーション- 技術研修 初級コース① 必須コース							初級コース② 11/29 (16:00～17:30) レベルⅠ	中級コース (16:00～17:30) レベルⅡ				
	教育担当研修	研修① 3/25 (17:30～19:30)	研修② 4/26 (16:00～17:30)	研修③ 5/19 (17:00～19:00)	研修④ 6/14 (16:00～18:30)			研修⑤ 9/11 (16:00～17:30)			研修⑥ 1/30 (16:00～17:30)			

5-4 職員研修（薬剤師）

1 事業概要

- ・各種専門・認定薬剤師取得を見据えたプログラムの作成・研修の管理
- ・薬剤部部員会における研修の企画運営

2 25年度実績

（プログラム作成実績）

- ・薬剤部部員会でのプログラムの作成および薬剤師研修委員による精査
- ・薬剤師レジデント制度を意識した教育ラダーの作成

（研修会実績）

- ・バランストスコアカード（BSC）に関する説明会（個人目標へのつなげ方）
1回
- ・新薬に関する説明会4回
- ・がんに関する勉強会7回
- ・学会報告会10回
- ・病棟関連業務に関するオーディット及び勉強会6回
- ・各種抄読会8回

3 目標に対する評価

- ・専門、認定薬剤師の取得を鑑みた教育ラダーを作成した。
- ・BSCをもとに、各個人の目標管理シートを作成し面談を行いながら目標達成をめざす形の礎ができた。
- ・臨床研修センターで協働で行っている新人研修により、新入時から他職種との連携の必要性を学びとれる体制が確立された。

4 次年度以降の取り組み

- ・他職種での臨床研修プログラムを協力関係により、さらに充実させ病院全体の医療の質の向上を図る。
- ・25年度のプログラムへの職員からの意見を取り入れさらに内容を充実させる。

5-5 職員研修（医療技術部門）

1 事業概要（臨床教育研修センターの取組み）

- ・地域医療及び専門医療を担うための広範な分野の知識・技術・経験をもつジェネラリスト、専門分野について深い知識やすぐれた技術をもつスペシャリストの育成を図る。

2 25年度実績

- ・医療技術研修委員会の開催。（毎月 計12回開催）
- ・能力別到達目標（資料1）の設定。

3 目標に対する評価

- ・新規委員会の立ち上げに際し、今後の方向性を各部門で確認しあった。
- ・混合職種の委員会ではあるが、共通して行える研修内容の構築を行った。
（能力別到達目標の設定）

4 次年度以降の取組み

- ・医療技術研修委員会の開催。
- ・各部門への啓蒙。
- ・能力別到達目標を設定し、それに則した研修プログラムの実践。

5 執行体制

委員長	猪狩	三朗	（放射線科部係長）
委員	皆川	宗輝	（臨床工学部課長）
〃	鈴木	清	（検査部課長）
〃	小泉	茂雄	（リハビリテーション科部係長）
〃	輿水	恵子	（栄養部係長）
〃	落石	祐一	（放射線科部係長）

医療技術部門能力別到達目標

(資料 1)

- レベル1(新人)
- レベル2(2～3年目)
- レベル3(4年目～)
- レベル4(6年目～)
- レベル5(10年目～)

専門職としての知識・技術・姿勢をみにつけて実践することができる。
 単独での業務が確実に遂行できるようになり、新人や学生の指導ができる。
 技師のモデルとなり、後輩を育成できる。自己の学習活動に積極的に取り組むことができる。
 専門的な検査実践と指導役割を發揮し、部署の目標達成に貢献できる。
 部署及びスタッフの目標達成を促進し、組織に貢献できる。組織的な教育・研究活動を実践できる。

レベル	I(新人)	II(2～3年目)	III(4年目～)	IV(6年目～)	V(10年目～)
実践能力	<ul style="list-style-type: none"> 解剖学的な見地から習得することができる 独自または指導・助言を基に撮影することができる 撮影の同位・協力が得られるように説明ができる 問題解決のための意図的な情報収集ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態変化を予測し、適切に対応できる 優先順位を考慮して撮影業務ができる 単独で安全・確実に撮影業務ができる 被曝低減を実践できる 患者の訴えに傾聴することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 専門領域の知識を基に的確な検査を行う 自己の技師像を明確にしている 科学的根拠に基づいた検査の評価ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 高度な知識・技術を持ち、エキスパートとして検査実践できる 医療チームと連携して検査実践できる 一日の業務量を考慮して、遂行計画を指示できる 業務繁忙時は、他部門との調整を行うことができる 	
倫理的判断能力	<ul style="list-style-type: none"> 医療人としての自覚と責任ある行動ができる 患者の人権を尊重した行動ができる 院内職業倫理指針を理解する 院内臨床倫理指針を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 院内臨床倫理指針を実践する 院内職業倫理指針を実践する 	<ul style="list-style-type: none"> 倫理的問題に気づき、問題提起できる 		
対人関係能力	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としてマナーを身に着ける 患者を尊重した接遇ができる 上司や先輩の意見を謙虚に受け止めることができる 自分の意見を伝えられる 協調性を持ち、メンバーシップを發揮できる スタッフや上司、他部署の職員とコミュニケーションがとれる 	<ul style="list-style-type: none"> メンバーシップ、リーダーシップを理解している 他部署の役割を理解し、協力しあえる スタッフの特性を理解し、接することができる 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ間の調整役ができる 後輩の悩みに耳を傾け、的確なアドバイスができる 	<ul style="list-style-type: none"> 他部署との対応が柔軟にできる 部内の活性化に取り組める 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフが成長できるための動機付け、支援ができる 他部門との調整・交渉ができる
マネジメント能力	<ul style="list-style-type: none"> 患者確認作業を徹底的に身に着ける 業務の優先順位がわかる 必要な報告・連絡・相談ができる 使用機器や物品の準備・点検・清掃ができる 患者のプライバシーを保護することができる 緊急時の対応を理解し、指示の下に行動できる 事故防止マニュアルを熟読する 院内感染について学ぶ インシデントレポートの必要性が分かり、報告ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 医療経済的な観念を身につける 問題意識を持って業務にあたり、改善策を提案できる 部署目標に沿って自己の課題に取り組むことができる 物品の在庫状況を把握し、不足時は報告できる 患者背景からリスクを把握し、安全対策が実践できる 事故防止マニュアルの沿った業務活動ができる ハラスメントに対する認識がもてる リスクマネジメントを意識して業務ができる 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップを發揮できる 業務改善に主体的に取り組むことができる 各検査のマニュアル・必要書類等が作成できる 効率的な業務運営を常に心がけ、調整ができる 安全対策を実践・評価し、指導することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時、スタッフへ指示ができる 部内マニュアルの常時検証を行う 業務の優先順位を判断できる 問題解決に向けて方向性を示し、指導できる 機器・器材の管理ができる 病院経営を意識して参画できる 	<ul style="list-style-type: none"> 病院の方針に沿った部署運営ができる 管理上の問題やスタッフの育成について上司と協力し取り組む 部署の活性化を図るために中心的役割を果たせる スタッフと上司の調整役ができる 緊急時に関連部署へ報告・指示ができる 上司の下、必要時は部内マニュアルの変更を行う 部署内全体のリスクマネジメントを担う
教育・研究・指導能力	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習課題を明確にし、目標設定ができる 院内外の研修に積極的に参加できる 専門誌を一読している 部署の教育計画に参加し、専門領域の知識を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 部署の教育計画に積極的に参加できる 院内外の研修に主体的に参加できる 研修で学んだことを仕事に活かすことができる 指導者と連携をとり新人教育にあたる 部署内での発表を積極的に行う 積極的にセミナー等に参加し、知識を得る 	<ul style="list-style-type: none"> 部署の教育計画の企画・運営の補佐ができる 院内での発表ができる 積極的にセミナー等に参加し、知識を得る 研究テーマを持ち、それを追求することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 新人の主体的な指導ができる 部署の教育計画を作成し、実践できる 部署内での勉強会等の企画を積極的に行う 地方会レベルの研究会での発表ができる 各種認定技師の資格を取得する 	<ul style="list-style-type: none"> 部署の教育計画に沿った育成指導・評価ができる 全国レベルの学会で発表できる 院内、院外で講師ができる 院内研修の講師ができる スタッフに研究の指導・助言ができる
組織的役割遂行能力	<ul style="list-style-type: none"> 病院の理念や目標を理解する 部内の理念を理解する 各種委員会の設置状況を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会の働きを知る 地域連携について学ぶ 災害時の役割について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 部内委員会に属し、活動する 災害時出動委員として訓練を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> 部内委員会で、主体的に活動する 	<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会に属し、積極的な活動ができる 所属を超えて、病院などから求められる役割を遂行できる

96-1

5-6 職員研修（事務部）

1 事業概要

平成24年度から取り組んでいる事務系職員の研修体制の構築について、事務委員会を発足させ、入職1年目（レベルⅠ）、入職2年目（レベルⅡ）、中堅職員（レベルⅢ）、係長（レベルⅣ）、課長（レベルⅤ）に担当を分けてプログラムをすすめていった。特にレベルⅠ、レベルⅡについて重きをおきプログラムを適宜変更するとともにレベルⅠについては定期的に対象者に振り返りシートを記入してもらい到達度を確認するなどコミュニケーションを密にし職場適応の促進に努めた。

2 25年度実績

別表一覧による

3 目標に対する評価

レベルⅠについては、知識や業務スキルの習得よりは研修を通じて同僚、先輩、上司との人間関係の拡大を図るとともに看護部体験を通じて医療現場にふれたり臨床教育研修センター主催の「チーム医療」のワークショップに参加し他職種とのつながりを意識させることができた。

レベルⅡについては、レベルⅠではできていない内容を補完したほか、レベルⅠと合同で精神看護専門看護師、臨床心理士の指導のもとコミュニケーション研修を実施し、クレーム対応のロールプレイにより対人関係の応用力を養った。

レベルⅢについては、外部講師を招いての財務・会計勉強会を継続的に実施した。また外部研修の伝達研修を実施し発表者は研修内容をまとめるとともに他職員と共有化を図ることができた。

レベルⅣ、Ⅴについては、職場のリスクを洗い出すリスクマネジメント研修を実施したほか、宿泊研修を実施し事務部門の課題を共有するとともに事務部門として目指すべき方向性をワークショップを通じて確認することができた。

4 次年度以降の取組み

レベルⅢ以上の研修体系の充実を図る。その一環として院外研修への参加を促進させ、知識・技術を習得させるとともに院内での伝達研修を実施する。

5 執行体制

事務研修委員会

委員長	人事課長	蔭山	智彦
コア委員	会計課長	三橋	文武
コア委員	医療情報課長		
	兼 経営企画課長	谷	文恵
コア委員	総務課秘書係長	松村	健也
委員	人事課人事係長	浅井	道久

委員	総務課総務係長	土田 文彦
委員	会計課経理係長	林 大輔
委員	調度課物品管理係長	鬼頭 仁美
事務局	総務課主事	竹下 奈津実

5-6 職員研修（事務職員）

(1) 入職1年目研修【レベルI】対象者：8人

	開催日	研修（勉強会）名称	内容
1	4月1日	【導入研修】 新規採用職員オリエンテーション	「病院の理念・方針」「就業規則・院内各種規程」「社会保険・福利厚生」「医療安全」「個人情報保護法」他
2	4月2日	【導入研修】 新規採用事務職員オリエンテーション	「病院の事務職員としての心構え」「事務の組織体制・役割」「事務部門各部署紹介」「接遇の基本」「研修計画」「院内見学」
3	4月3日～4日	【日赤支部研修】 日赤神奈川県支部主催 「新規採用職員基礎研修」	「赤十字の理念・歴史」「災害救護事業」「健康安全事業」「青少年・ボランティア事業」「血液事業」「ライトセンター事業」等
4	5月13日～21日	【実務研修】 総合案内シャドー研修	総合案内業務の基本的な知識と対応方法
5	5月21日	【実務研修】 当直業務オリエンテーション	当直業務にかかる必須業務の理解
6	5月23日 ～6月13日	【実務研修】 当直業務シャドー研修～1クール目～	先輩職員に付いて当直業務を体験する
7	5月27日 ～6月7日	【体験研修】 事務部門他部署体験研修	他部署の仕事の内容についての理解
8	6月21日	【体験研修】 看護部体験オリエンテーション	看護部体験の目的と当日の流れの理解
9	7月2日	【体験研修】 看護部体験研修	各病棟にて「患者とのコミュニケーション」「診療の流れ」「看護実践の見学」「申し送り」「カンファレンスへの参加」「クラーク業務見学」
10	7月8日 ～13日	【実務研修】 当直業務シャドー研修～2クール目～	先輩職員に付いて当直業務の理解を深める
11	7月25日	【基礎研修】 コミュニケーション研修	「相手の立場に立ったコミュニケーションを考える」「自分の傾向を知り、コミュニケーション技術を習得する」
12	8月29日	【実務研修】 当直業務振り返り研修	必須業務の確認、事例検討、トラブル時の対応の仕方等
13	9月25日	【基礎研修】 組織理解研修	「病院のしくみ」
14	10月9日～10日	【日赤支部研修】 日赤神奈川県支部主催 「新規採用1年目フォロー研修」	「赤十字の現状と課題」「SNSとの付き合い方」「報告・連絡・相談の基本」「コミュニケーション」
15	10月20日	【実務研修】 災害救護訓練	総合防災訓練 日赤第2ブロック支部災害救護訓練
16	11月20日	【全職種合同研修】 臨床教育研修センター主催 チーム医療ワークショップ	「良いチーム医療とは」をテーマとしてのワークショップ
17	12月18日	【実務研修】 総合案内フォロー研修	総合案内業務の基本的な知識と対応方法の再確認
18	1月24日	【基礎研修】 生命倫理・医療倫理研修	生命倫理・医療倫理の基本の理解
19	2月20日	【基礎研修】 文書研修	「文書とは、文書作成の基本、その心がまえ」
20	3月25日	【まとめ研修】 1年間のフォロー研修	1年間の振り返り、仕事のこと、その他のこと

(2) 入職2年目研修【レベルⅡ】対象者：9人

1	6月26日	【基礎研修】 購買・物流研修	物品のコストの意識化 院内物流システムの理解
2	7月25日	【基礎研修】 コミュニケーション研修	「相手の立場に立ったコミュニケーションを考える」 「自分の傾向を知り、コミュニケーション技術を習得する」
3	10月10日	【基礎研修】 医療関係法規、診療報酬・保健制度	医療関係法規、診療報酬・保健制度の概要の理解
4	10月10日	【課題提示】 業務改善にかかる提案、実施、結果発表の課題提示	自分の業務の改善を考え、実施してその結果を発表
5	10月20日	【実務研修】 災害救護訓練	総合防災訓練の参加 日赤第2ブロック支部災害救護訓練の参加
6	10月29日	【基礎研修】 医事業務について	レセプト請求作業の基本の理解
7	11月26日	【基礎研修】 DPCについて	DPCの基本の理解
8	12月12日	【基礎研修】 会計の基本	医療会計の基本の理解
9	2月20日	【基礎研修】 文書研修	「文書とは、文書作成の基本、その心がまえ」
10	2月25日	【課題発表】 業務改善にかかる発表 1回目	自分で実施した業務改善の取り組みの発表
11	3月18日	【課題発表】 業務改善にかかる発表 2回目	自分で実施した業務改善の取り組みの発表

(3) 中堅職員(入職3年以降)研修【レベルⅢ】対象者：26人

32	6月5日	【スキルアップ研修】 財務・会計勉強会 1回目	「会計の基礎」
33	7月3日	【スキルアップ研修】 財務・会計勉強会 2回目	「会計の基礎」
34	7月30日 ～8月1日	【支部研修】 青少年赤十字指導者養成研修会	日赤青少年事業の理解とその指導者の養成
35	8月7日	【スキルアップ研修】 財務・会計勉強会 3回目	「会計の基礎」
36	9月4日	【スキルアップ研修】 財務・会計勉強会 4回目	「財務分析の手法」
36	11月21日 ～11月22日	【日赤支部研修】 中堅職員研修会	「赤十字の現状と課題」「中堅職員の立場と役割」「職場の問題発見と改善方法」
37	10月2日	【スキルアップ研修】 財務・会計勉強会 5回目	「財務分析の手法」
38	10月8日	【伝達研修】 日赤医学会総会出題レポートの発表会	日赤医学会総会発表予定者による事前発表会
39	10月20日	【実務研修】 災害救護訓練	総合防災訓練 日赤第2ブロック支部災害救護訓練
40	11月6日	【スキルアップ研修】 財務・会計勉強会 5回目	「財務分析の手法」
41	12月4日	【スキルアップ研修】 財務・会計勉強会 5回目	「財務分析の手法」
42	1月8日	【伝達研修】 参加した研修の報告会	研修内容の報告
43	1月28日	【スキルアップ研修】 財務・会計勉強会 課題発表	グループ発表
44	2月5日	【スキルアップ研修】 財務・会計勉強会 6回目	経営戦略
45	3月5日	【スキルアップ研修】 財務・会計勉強会 7回目	経営戦略

(4) 係長研修【レベルⅣ】対象者：13人 ・ 課長研修【レベルⅤ】対象者：9人 25年度は合同開催

48	7月9日 ～7月10日	【日赤第2ブロック研修】 新任係長級職員研修会	「社会情勢の変化と赤十字」「係長に求められる役割を考える」「係長の果たすべき役割」「仕事の管理」「指導・教育のポイント」
49	9月18日	【管理研修】 リスクマネジメント研修	「5Sについて」「KYTについて」
50	10月20日	【実務研修】 災害救護訓練	総合防災訓練 日赤第2ブロック支部災害救護訓練
51	1月31日 ～2月1日	【宿泊研修】 「病院の事務部門の立場を見つめ直す」	病院としてのビジョンや事務職員の役割などをグループワークを通じて考え、事務職の位置づけや期待される役割などの理解を深める。

6 院外からの研修受入れ

6-1 院外からの研修受入れ（看護部）

1 事業概要

病院開業から横浜市立病院、赤十字病院として、看護基礎教育実習や卒後教育研修を引き受けている。

2 25年度実績

(1) 看護基礎教育実習：314名

(日本赤十字看護大学、創価大学、神奈川県立よこはま看護専門学校、神奈川県立衛生看護専門学校、横浜市病院協会看護専門学校、横浜市医師会看護専門学校)

(2) 卒後教育：19名

・大学院修士課程：7名

日本赤十字看護大学大学院がん看護学実習3名・国際助産学実習2名
看護学研究科 看護学専攻1名、精神保健看護学1名

・認定看護師課程：6名

神奈川県立保健福祉大学実践教育センター：急性期重症者支援2名・
がん患者支援2名
日本赤十字看護大学看護実践・教育・研究フロンティアセンター
：認知症看護2名

・認定看護管理者課程5名

日本赤十字幹部看護師研修センター：認定看護管理/ファーストレベル2名
神奈川県看護協会：認定看護管理/サードレベル1名
愛知県看護協会：認定看護管理/サードレベル1名
兵庫県看護協会：認定看護管理/サードレベル1名

・その他：1名

日本赤十字社 看護管理者研修：1名

3 目標に対する評価

今年度から看護基礎教育実習は、1大学（創価大学看護学部）の新たな受け入れを行った。実習指導については、各病棟で実習指導者を中心に実習目標達成を支援できた。また、指導者は臨床指導委員会で共有して問題解決を進めた。

卒後教育実習は、各領域の大学院修士課程・認定看護師課程・認定看護管理者課程等の受け入れをおこなった。実習指導はその領域の専門看護師・認定看護師・看護管理者が中心に指導し実習目標達成を支援した。

実習を受け入れることで、看護職員の役割開発や今後のキャリア開発において効果的な動機づけになり有意義である。

4 次年度以降の取組み

今後、神奈川県立の看護学校の学生数増加に伴い成人看護学実習の増加と精神看護学実習等の受け入れも開始する予定である。

学生の受け入れにあたり、次年度も外部の実習指導者研修課程、日本赤十字看護大学での実習指導者研修を活用して実習指導者の養成に力を入れていく。

5 執行体制

- ・看護副部長：高橋 千香子（実習担当）
- ・看護師長：池脇 美和（臨床指導委員会）
- ・実習指導者：各病棟実習指導者

6 データ（※平成 25 年度実績 資料添付）

1) 実習受け入れ人数

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
看護基礎教育実習	414	330	306	314
卒後教育	14	12	9	19
その他	0	1	1	1

2) 実習指導者研修修了者数

	平成 24 年度	平成 25 年度
実習指導者研修修了者数	9 名	11 名
（新規実習指導者研修修了者数）	2 名	2 名
内訳		
神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター実習指導者養成教育	2 名	2 名
東海大学実習指導者講習会	0 名	0 名
昭和大学看護師実習指導者講習会	0 名	0 名
※日本赤十字看護大学 実習指導者研修終了者数		5 名

実習指導者研修修了者数には看護師長、日本赤十字看護大学実習指導者研修終了者数は含めず

平成25年度 臨地実習受入実績報告書

横浜市立みなと赤十字病院

養成所名	学年	実習人員	延実習時間	実習期間	備考
神奈川県立よこはま看護専門学校 (神奈川県横浜市旭区中尾1-5-1)	3	3	264	5/7~5/23	母性看護学
	3	2	36	5/22~5/24	在宅看護論
	3	4	345	5/28~6/13	母性看護学
	3	2	42	6/12~6/14	在宅看護論
	1	20	240	6/14~6/15	基礎看護学Ⅰ-1
	2	20	1753	6/18~7/4	成人看護学Ⅰ
	3	4	352	7/9~7/26	母性看護学
	3	2	42	7/24~7/26	在宅看護論
	1	20	600	9/3~9/7	基礎看護学Ⅰ-2
	3	5	440	9/10~9/27	母性看護学
	3	2	42	9/25~9/27	在宅看護論
	3	5	433	10/1~10/18	母性看護学
	3	2	42	10/16~10/18	在宅看護論
	3	6	542	11/5~11/20	統合実習
	3	5	440	11/5~11/21	母性看護学
	3	2	42	11/20~11/22	在宅看護論
	3	8	724	11/26~12/11	統合実習
	3	5	419	11/26~12/12	母性看護学
	3	2	42	12/11~12/13	在宅看護論
	2	20	1246	1/15~1/31	成人看護学Ⅱ
1	25	2049	2/4~2/21	基礎看護学Ⅱ	
1	1	10	2/21~2/22	基礎看護学Ⅱ	
横浜市医師会看護専門学校 (神奈川県横浜市港北区菊名4-4-22)	3	5	413	5/28~6/14	成人看護学
	3	5	280	6/18~6/28	小児看護学Ⅱ
	3	5	300	6/25~7/5	母性看護学Ⅱ
	3	5	412.5	7/9~7/26	老年看護学Ⅱ
	3	5	378	7/9~7/26	成人看護学Ⅱ
	2	10	817.5	9/3~9/19	基礎看護学Ⅱ
	3	5	245	10/9~10/18	小児看護学Ⅱ
	3	5	375	10/9~10/25	成人看護学
	3	5	262.5	10/23~11/1	母性看護学Ⅱ
	3	5	262.5	10/23~11/1	小児看護学Ⅱ
3	5	292.5	11/19~11/29	小児看護学	
神奈川県立衛生看護専門学校 (神奈川県横浜市中区根岸町2-85-2)	3	5	266.5	6/4~6/14	成人看護学(同手術期)
	3	5	297.5	6/25~7/5	成人看護学(同手術期)
	3	5	192	10/9~10/18	成人看護学(同手術期)
横浜市病院協会看護専門学校 (神奈川県横浜市港南区港南台3-3-1)	3	4	224	6/4~6/14	小児看護学
日本赤十字看護大学 (東京都渋谷区広尾4-1-3)	2	2	147	5/28~6/22	国際保健助産学
	1	20	130	8月3日	看護援助学(レベルⅠ)
	2	18	1384.5	9/10~9/26	看護援助学(レベルⅡ)
	4	8	637.5	11/5~11/19	看護学総合実習(基礎・成人)
	1	22	1033.5	1/15~1/24	看護援助学(レベルⅠ)
合計		314	18496		

平成25年度卒業教育受け入れ実績

2014.3.31現在

	4月	5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月																						
		6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	3	10	17	24							
		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5									
5C	日本赤十字看護大学大学院 (国際助産学)					2	2																																																									
7B・5A	日本赤十字看護大学 看護実践・教育・研究フロンティアセンター (認知症看護コース)																			2	2	2	2	2																																								
ICU	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター (急性期重症者支援課程)																			2	2	2	2	2																																								
2F(緩和)	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター (がん患者支援課程)																			2	2	2	2	2																																								
10 看護部	日本赤十字看護大学大学院 (がん看護学)									1	1	1	1	1	1																									2	2	2	2	2																				
看護部	日本赤十字看護大学大学院 (精神保健看護学)																																																															
看護部	日本赤十字社幹部看護師研修センター (赤十字看護管理研修Ⅰ)					2	2	2																																																								
看護部	愛知県看護協会 (認定看護管理者教育課程 サードレベル)									1																																																						
看護部	兵庫県看護協会 (認定看護管理者教育課程 サードレベル)																																																															
看護部	日本赤十字本社 看護管理者研修																																												1	1																		
看護部	神奈川県看護協会 (認定看護管理者教育課程 サードレベル)														1																																																	
卒業教育の学生数合計		0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	3	7	6	6	6	4	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	3	2	0	0	0	0										

6-2 院外からの研修受入れ（薬剤部）

1 事業概要

薬科大学実務実習（11週間）の実務教育を中心に、薬科大学早期体験実習や要請があれば国際医療技術財団によるJICA集団研修「病院薬学」コースの実習病院として院外学生受入を実施している

2 25年度実績

- ・実務実習 各期4名 3期 計12名
（横浜薬科大学6名 東京薬科大学2名 星薬科大学2名 帝京大学2名）
- ・早期体験実習 2大学20名（横浜薬科大学、星薬科大学）
- ・JICA実習 4名
（イラク 2名、パプアニューギニア 1名、ミャンマー 1名）

3 目標に対する評価

実務実習では、主にコアカリキュラムに則したプログラムを前提に、臨床現場での充実した実践的な実習を目的として、学生一人一人に指導担当者を置くチューター制を導入し、きめ細かい指導を行った。

4 次年度以降の取組み

26年度は全病棟への病棟薬剤師配置を基に病棟薬剤業務の充実を目指しており、実務実習においてもさらに病棟業務の理解を深めていけるように症例報告等においても工夫する。

5 執行体制

- ・実務実習担当責任者 高橋 弘充（部長）
- ・実務実習担当窓口 井口 恵美子（副部長）
- ・認定実務実習指導薬剤師 9名

6 データ

研修名	23年	24年	25年
実務実習	13名	12名	12名
早期体験実習	12名	15名	20名
JICA研修	4名	4名	4名

6-3 院外からの研修受け入れ（リハビリテーション科部）

1 事業概要

リハビリテーション実習生の受け入れ

2 25年度実績

理学療法士学生評価実習 1名

理学療法士学生臨床実習 2名

3 目標に対する評価

理学療法士学生評価実習については、当初の予定1名を受け入れた。

理学療法士学生臨床実習については、当初の予定2名を受け入れた。

いずれも実習生に対し、十分な臨床体験をさせることができた。

4 次年度以降の取り組み

次年度について、理学療法実習生は前年度同様の受け入れを行う。また、新たに作業療法士実習生の受け入れも開始する。なお、言語聴覚士実習生については、今後受け入れの方向で検討する。

5 執行体制

実習指導責任者：高木 明 高瀬 美季

実習指導者：福澤 賢 桑田 淳子 引頭 彩 木村 翠 竹下 昌広

吉武 秀和 高橋 有加 芹澤 健輔 林 悟

6 データ

【実習生受け入れ状況】

平成23年度 3名

平成24年度 5名

平成25年度 3名

7 職員

7-2職員配置状況

職 種	配置予定	内 訳			備 考	
		常勤	非常勤	派遣職員等		
管 理 部 門	事務職員	177.5	56	7.5	114	アレセン、MSW、PSW、 医療連携を除く。看護師2
	技術職員	4	4			
	運 転 手	0				
	ボイラー技師	0				
	電話交換手	1	1			
診 療 部 門	医 師	181.6	171	10.6		
	歯 科 医 師	3.5	3	0.5		
看 護 部 門	看 護 師	580.2	568	12.2		
	准 看 護 師	2	2			
	看 護 助 手	63.3	24	21.3	18	
	事務職員	19	2	1	16	保育士1人含む
健 診 部 門	看 護 師	4	4			
	事務職員	8	2		6	
連 携 部 門	社会福祉士	5	5			
	精神保健福祉士	3	3			
	看 護 師	5	5			
	事務職員	7	3	1	3	
検 査 ・ 医 療 技 術 部 門	薬 剤 師	32	32			
	診療放射線技師	29	29			
	臨床検査技師	37	36	1		衛生検査技師1含む
	理学療法士	17	16	1		
	作業療法士	6	6			
	言語聴覚士	4	4			
	マッサージ師	1	1			
	臨床工学技士	9	9			
	視能訓練士	2	2			
	歯科衛生士	4	3	1		
	臨床心理士	2	1	1		
	管理栄養士	7.1	6	1.1		
	栄 養 士	0				
	調 理 師	6	6			
事務職員	3			3	治験の派遣	
その他	4.3	2	1.3	1	アレセン事務5 臨床検査技師2	
合 計	1227.5	1006	60.5	161		

7-3診療科責任体制

	部門名	現員	職名	氏名	備考
1	救命救急センター	1	センター長 副センター長	八木 啓一 欠	
2	救急部	5.2	診療科部長 副部長 副部長	伊藤 敏孝 平野 雅巳 中山 祐介	
3	集中治療部	9	診療科部長 副部長	武居 哲洋 奈良 岳志	
4	内科	0.1	診療科部長 副部長	渡辺 幸之 欠	副院長
5	糖尿病内分泌内科	7	診療科部長 診療科部長	渡辺 幸之 太田 一樹	副院長
7	血液内科	4	診療科部長 副部長	山本 晃 欠	
8	腎臓内科	1.3	診療科部長 医長	藤澤 一 萩山 裕之	
9	膠原病リウマチ内科	3	診療科部長 副部長	萩山 裕之 欠	
10	緩和ケアセンター	2.3	診療科部長 副部長	小尾 芳郎 欠	
11	呼吸器内科	5	診療科部長 副部長	欠 河崎 勉	
12	消化器内科	9.2	診療科部長 副部長	有村 明彦 河村 貴宏	
13	肝・胆・膵内科	.1	診療科部長 副部長	先田 信哉	
14	心臓不整脈先進診療科	7	診療科部長 副部長	沖重 薫 青柳 秀史	
15	心臓血管先進診療科	4	診療科部長 副部長	欠 倉林 学	
16	神経内科	4	診療科部長 副部長	田中 宏明 欠	
17	アレルギーセンター科	2.3	診療科部長 診療科部長	中村 陽一 渡藤 順治	
18	精神科	7	診療科部長 副部長	欠 嶋津 奈	
19	小児科	11.7	診療科部長 副部長	菊池 信行 栗生 耕太	
20	小児神経科	1	診療科部長 副部長	大澤 由記子 欠	
21	外科	1.8	診療科部長 副部長	杉田 光隆 欠	
22	消化器外科	4	診療科部長 副部長	欠 小野 秀嵩	
23	大腸外科	1.1	診療科部長 副部長	欠 欠	
24	肝・胆・膵外科	0	診療科部長 副部長	杉田 光隆 欠	
25	乳腺外科	2.1	診療科部長 副部長	清水 大輔 欠	
26	整形外科	9.1	診療科部長 副部長	小森 博達 品田 春生	副院長
27	整形・脊椎外科	1	診療科部長 副部長	佐々木 真一 沼野 藤希	
28	整形・関節外科	2	診療科部長 副部長	浅野 浩司 欠	
29	形成外科	3	診療科部長 副部長	伊藤 理 欠	
30	脳神経外科	4	診療科部長 副部長	高木 信 欠	
31	間脳下垂体外科	1	診療科部長 副部長	持松 泰彦 欠	副院長
32	呼吸器外科	1.1	診療科部長 副部長	下山 武彦 欠	
33	心臓血管外科	3.3	診療科部長 副部長	田淵 典之	
34	皮膚科	3.1	診療科部長 副部長	並木 剛 欠	
35	泌尿器科	5.1	診療科部長 副部長	土屋 ふとし 村上 貴之	
36	産婦人科	5.7	診療科部長 副部長	多田 聖郎 和知 敏樹	
37	婦人腫瘍外科	1	診療科部長 副部長	多田 聖郎 欠	兼務
38	眼科	2.2	診療科部長 副部長	権野 めぐみ 欠	
39	耳鼻咽喉科	3.6	診療科部長 副部長	新井 基洋 欠	
40	リハビリテーション科	1.6	診療科担当部長 副部長	新井 雅信 日野 太郎	
41	放射線診断科	2.8	診療科部長 副部長	大谷 洋一 遠藤 英徳	
42	放射線治療科	1	診療科部長 副部長	大谷 洋一 荻 成行	兼務
43	麻酔科	6.6	診療科部長 副部長	西村 一彦 欠	
44	歯科口腔外科	3.5	診療科部長 副部長	向山 仁 中島 雄介	
45	病理部	2	診療科部長 副部長	熊谷 二朗 欠	
46	健診部	1.3	診療科部長 副部長	伊藤 美奈子 欠	
47	臨床研修医	27	初期研修 後期研修	13 4	
	診療科計	185.1			

7-4看護部門責任体制

	部門名	配置予定	職名	氏名	助手
1	看護部	40.1	看護部長	鈴木 恵子	
			副部長	乾 尚美	
			副部長	高橋 千香子	
			副部長	間瀬 照美	
			師長	小笠原 利枝	
			師長	赤沢 雪路	2
2	外来	29.4	師長	君 めぐみ	
			係長	水野 桂子	
			係長	小森 悦子	4.8
3	手術室	32.6	師長	永井 妙子	
			係長	欠	1
4	8階病棟	26.8	師長	渡邊 貴子	
			係長	日高 一枝	3
5	7階A病棟	28	師長	鈴木 美由紀	
			係長	金丸 由香里	5
6	7階B病棟	30	師長	曾我 智恵子	
			係長	服部 祐子	4
7	7階C病棟	28	師長	大池 理詠	
			係長	佐藤 千帆	4
8	7階D病棟	30	師長	三好 礼子	
			係長	岩崎 薫	4
9	6階A病棟	28	師長	才間 良子	
			係長	角屋 真紀	4
10	6階B病棟	29	師長	池脇 美和	
			係長	大坪 千智	
			係長	熊谷 宏子	5
11	6階C病棟	27	師長	中島 まさ子	
			係長	岡崎 春美	4
12	6階D病棟	28	師長	宮内 まゆみ	
			係長	黒高 恵	5
13	精神科病棟	25.3	師長	上野 優美	
			係長	欠	2
14	産婦人科病棟	36.8	師長	藤木 佳代子	
			係長	高野 恵	3
15	小児科病棟	35	師長	堤 亜希子	
			係長	藤田 紀子	2
16	救急病棟	36.6	師長	石鉢 一美	
			係長	菫沢 樹美栄	3.5
17	集中治療室	48	師長	橋本 幸子	
			係長	鈴木 聡子	
			係長	佐藤 里美	
			係長	石田 和美	2
18	緩和ケア病棟	21.6	師長	角藤 厚美	
			係長	欠	2
19	透析・検査	22	師長	福家 修子	
			係長	高松 直子	3
	看護師計	582.2			
	助手・クラーク計	82.3			63.3
	看護部計	664.5			

7-5健診部門責任体制

	健診センター	12	センター長	伊藤 美奈子	医師の兼務
			課長	安倍 美枝	健診課
			係長	欠	健診係

7-6医療連携部門責任体制

医療連携センター	20	センター長	持松 泰彦	医師の兼務
		課長	欠	地域医療連携課
		係長	北村 聖奈	地域医療連携係
		課長	欠	医療社会事業課
		係長	金井 緑	医療社会事業係

7-7検査・医療技術部門責任体制

	部門名	配置予定	職名	氏名	備考
1	薬剤部	35	部長	高橋 弘充	
			副部長	井口 恵美子	
			課長	井口 恵美子	兼務調剤課(専務取扱)
			課長	平田 周佑	医薬品管理課
			係長	吉見 哲	薬剤部付
			係長	細内 和政	薬剤部付
			係長	宮崎 百合	薬剤部付
2	放射線科診断部	29	部長	大谷 洋一	医師の兼務
			副部長	遠藤 英穂	医師の兼務
			課長	宮沢 明	放射線診断課
			係長	青木 敏博	放射線科部付
			係長	猪狩 三朗	放射線科部付
			係長	落石 祐一	放射線科部付
			3	放射線科治療部	29
副部長	荻 成行	医師の兼務			
課長	宮沢 明	放射線診断課兼務			
4	病理部	37	部長	熊谷 二郎	医師の兼務
			課長	欠	病理検査課
			係長	欠	病理検査係
5	検査部	37	部長	熊谷 二郎	医師の兼務
			課長	鈴木 清	臨床検査課
			係長	山村 信一	病理・検査部付
			係長	熊谷 正純	病理・検査部付
6	リハビリテーション科部	28	担当部長	新井 雅信	医師の兼務
			副部長	日野 太郎	医師の兼務
			課長	欠	
			係長	小泉 茂雄	リハビリテーション一係
7	精神科部	2	係長	池田 潔	リハビリテーション二係
			部長	欠	
			副部長	嶋津 奈	医師の兼務
			課長	欠	臨床心理課
8	眼科部	2	係長	欠	臨床心理係
			部長	椎野 めぐみ	医師の兼務
			副部長	欠	
9	歯科口腔外科	4	課長	欠	視能訓練課
			係長	欠	視能訓練係
			部長	向山 仁	医師の兼務
10	臨床工学部	9	副部長	中島 雄介	医師の兼務
			課長	欠	歯科衛生・技工課
			係長	欠	歯科衛生・技工係
11	栄養部	13.1	課長	皆川 宗輝	臨床工学課
			係長	欠	臨床工学係
			部長	有村 明彦	医師の兼務
			副部長	欠	
11	栄養部	13.1	課長	柳田 幸夫	兼務栄養課 専務取扱
			係長	興水 恵子	栄養係
			係長	欠	調理二係
検査・医療技術部門計		159.1			

7-8 管理部門責任体制

	部門名	配置予定	職名	氏名	備考
1	医療情報センター	13.3	センター長	高橋 弘充	薬剤師の兼務
			課長	谷 文恵	医療情報課
			係長	小泉 敬一	医療情報係
			課長	谷 文恵	経営企画課 兼務
			係長	小泉 敬一	医療情報係 兼務
2	医療安全推進室	2	室長	小森 博達	医師の兼務
			課長	三上 久美子	医療安全推進課
			係長	欠	安全推進係
			係長	欠	サービス係
3	事務部	167.22	部長	小山田 茂夫	
			副部長	欠	
			課長	大堀 浩	総務課
			係長	土田 文彦	総務係
			係長	松村 健也	秘書係
			課長	蔭山 智彦	人事課
			係長	浅井 道久	人事係
			係長	青木 めぐみ	職員係
			課長	三橋 文武	会計課
			係長	林 大輔	経理係
			係長	欠	出納係
			課長	柳田 幸夫	調度課
			係長	久慈 直彦	調度係
			係長	鬼頭 仁美	物品管理係
			係長	欠	物流係
			課長	三橋 文武	施設課 兼務
			係長	久慈 直彦	施設係 兼務
			係長	欠	供給係
			課長	池田 充	入院業務課
			係長	照木 信晴	入院係
			係長	欠	救急係
係長	照木 信晴	病歴係			
課長	津々楽 泰江	外来業務課			
係長	高野 雄太	外来係			
係長	高野 雄太	社会係 兼務			
管理部計		182.5			

8 施設管理

8-1 医療機器の整備状況

購入単価500万円以上のもの

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管 理・診療等)	機器名称	用途	新規・更新
1	診療	心臓カテーテルモニタリングシステムアップグレード	心臓カテーテル用	更新
2	中央	調剤支援システム	調剤用	更新
3	診療	ルミナスレーザーシステム	泌尿器科手術用	新規
4	診療	脊椎内視鏡手術システム	整形外科手術用	更新
5	診療	人工呼吸器	ICU病棟用	新規
6	診療	超音波診断装置	心臓血管外科用	更新
7	診療	呼吸機能検査装置	アレルギーセンター検査用	新規
8	中央	低温プラズマ滅菌器	滅菌用	新規
9	中央	超音波診断装置	検査部外来患者検査用	更新
10	中央	大動脈バルーンポンプ装置	心臓カテーテル用	更新
11	中央	内視鏡ビデオシステム	内視鏡検査用	更新
12	診療	熱傷浴槽システム	ICU病棟用	新規
13	中央	自動注射薬払出装置	調剤用	更新
14	診療	電動油圧手術台	外科手術用	新規
15	中央	手術支援ロボット	ロボット手術用	新規

8-2 施設設備改修報告

(平成25年度)

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管理・診療等)	施設・設備名称	面積(m ²)	用途	新規・修繕
1	2階前、精神科外来	乳腺外科外来改修工事	177.0m ²	乳腺外科外来移設	新規
2	3階前、廊下	集中治療部熱傷浴室新設工事	24.0m ²	集中治療部熱傷浴室新設	新規
3					
4					
5					
6					

8-3 施設設備管理報告 法定及び自主点検業務

法定点検業務等	点検種別	周期	実施月												関連法規及び保守管理基準
			平成25年(2013年)			平成26年(2014年)									
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
特定建築物	定期検査	1回/1~3年							●						建築基準法
昇降機設備	定期検査	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
自家用電気工作物	定期検査	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	電気事業法
ボイラー	性能検査	1回/年			●	●									労働安全衛生法
第1種圧力容器	性能検査	1回/年			●	●									労働安全衛生法
ゴンドラ	性能検査	1回/年		●		●				●				●	労働安全衛生法
第2種圧力容器	自主検査	1回/年			●	●									労働安全衛生法
小型ボイラ設備	自主検査	1回/年			●	●									労働安全衛生法
簡易水道	定期検査	1回/年								●					水道法
ガスタービン	定期検査	1回/3年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	電気事業法
消防設備	定期検査	2回/年				●							●		消防法
地下タンク貯蔵所	定期検査	1回/年					●								消防法(24年度実施予定)
遊遊はしご点検設備	自主点検	2回/年				●							●		消防法
高圧ガス製造設備	自主点検	1回/年							●						高圧ガス保安法
医療ガス設備	定期点検	4回/年		●			●		●	●			●		高圧ガス保安法
特定施設	測定	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	下水道法
はい煙測定		2回/年			●						●				大気汚染防止法
特高受変電設備定期検査		1回/年							●	●					電気事業法
高圧受変電設備定期検査		1回/年							●	●					電気事業法
無停電電源設備保守及び定期点検		1回/年									●				電気事業法
(非常用照明)		(1回/年)									●				電気事業法
直流電源設備保守及び定期点検		1回/年									●				電気事業法
中央監視設備保守及び定期点検		1回/年								●					メーカー標準点検
建築設備定期検査		1回/年							●						建築基準法
受水槽・高架水槽定期清掃		1回/年						●							水道法
飲料水水質検査		2回/年						●						●	水道法
害虫定期駆除		毎月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ビル管理法

8-4 外部委託

- 1 事業概要
病院業務の効率化を図るため、業務の一部を外部委託する
- 2 25年度実績
別紙1のとおり17の業務について外部委託した
- 3 目標に対する評価
それぞれの業務について主管部署による評価を行い、一部を除き概ね良好な結果であった
- 4 次年度以降の取組み
主管部署からの評価が著しく悪く、改善の見込みのない受託者は次年度から変更する
- 5 執行体制
平成25年度の業務委託状況

外部委託業務 (平成25年度)

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者 (会社名)	主管部署
1	食卓栄養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	エームサービス 株式会社	栄養課
2	中央滅菌材料室・手術室器材の洗浄・滅菌業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務	日本ステリ 株式会社	調度課
3	検体検査業務	検体検査業務	株式会社 ビー・エム・エル	検査部
4	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	株式会社 柴橋商会	調度課
5	寝具貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具貸借業務、洗濯全般業務	株式会社 サンビーム・ランドリー	調度課
6	白衣等リース業務	看護師、看護助手、SPDの白衣及びタオルのリース	株式会社 柴橋商会	調度課
7	白衣等リース業務	看護師、看護助手、SPD以外の白衣のリース	株式会社 サンビーム・ランドリー	調度課
8	SPD物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	ホスピタルパートナーズ 株式会社	調度課
9	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務 薬品在庫管理業務 配置定数薬の補充管理業務 搬送業務 等	東邦薬品 株式会社	薬剤部
10	医事関連業務	外来部門の計算・受付・クラーク業務及び保険請求関連業務	株式会社 ソラスト	入院業務課 外来業務課
11	健診センター関連業務	受診者対応、会計・計算業務等	株式会社 ソラスト	健診センター 会計課
12	医療情報センター関連業務	医事統計の作成、データ分析、システム障害対応等	株式会社 ソラスト	医療情報課
13	病棟クラーク業務	入退院手続、書類作成、入院患者の面会者対応	株式会社 日本教育クリエイト	看護部
14	院内保育所運営業務	職員子女の保育業務	株式会社 ホピンスコーポレーション	総務課
15	施設管理	施設設備の運転及び点検業務	株式会社 丸誠	施設課
16	警備業務	院内外の警備業務	国際警備 株式会社	施設課
17	清掃業務	外回り外来部門・病棟・手術室・事務室等院内清掃業務	株式会社 丸誠	施設課

9 經營報告

9-1 稼働状況等報告

別紙のとおり

平成25年度分

診療科別患者数等管理数値

稼働額は、千円単位

収入単価は、円で表示

診療科	外来診療収入				入院診療収入						入外合計額		手術	
	診療収入		収入単価		診療収入		診療収入(室料差額除)		収入単価		当年度	前年度	平成25年度	平成24年度
	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度				
総合内科	23,039		13,325		17,141		16,725		103,882		40,180		0	
泌尿病内分泌内科	102,289		12,017		225,227		217,858		44,538		387,526		1	
血液内科	169,556	523,389	49,636	19,453	521,650	1,041,589	510,814	1,008,160	72,200	56,379	691,206	1,564,978	0	24
腎臓内科	58,883		15,370		113,088		110,490		50,200		172,871		33	
膠原病リウマチ科	176,118		26,460		147,246		142,565		48,857		323,364		0	
緩和ケア内科	2,122	970	6,469	10,210	355,842	319,890	313,697	282,478	46,139	44,137	357,904	320,860	0	0
呼吸器内科	164,641	161,882	14,567	12,587	1,016,858	966,054	954,588	913,895	46,297	48,473	1,181,498	1,127,937	0	0
消化器内科	270,485	291,057	12,825	13,307	1,271,445	1,226,517	1,207,065	1,163,067	53,622	51,729	1,541,930	1,517,574	0	0
循環器内科	179,726	160,373	13,233	12,080	2,528,477	2,288,809	2,497,899	2,260,524	161,196	154,502	2,709,205	2,445,182	27	18
神経内科	61,970	63,780	10,142	10,171	588,596	532,114	565,195	512,244	53,280	48,622	648,574	595,894	0	0
アレルギー科	40,719	31,824	8,979	7,740	18,556	14,883	17,527	14,255	46,988	69,879	59,274	48,607	0	0
小児科	169,647	171,394	10,207	10,397	442,834	429,288	436,385	423,880	63,911	59,259	612,481	600,682	0	0
外科	285,356		27,750		1,195,727		1,146,327		99,838		1,481,083		890	
乳癌外科	165,400	432,914	29,754	28,008	151,405	1,358,155	143,730	1,308,587	81,851	69,212	318,805	1,791,069	167	1,062
呼吸器外科	20,130	30,694	19,208	21,464	82,178	82,128	89,254	81,135	104,289	121,459	120,317	112,820	61	58
心臓血管外科	9,223	11,047	14,211	14,109	444,251	636,709	440,804	631,037	185,870	194,764	453,474	647,758	102	133
脳神経外科	49,761	47,221	12,789	11,847	456,029	504,392	446,991	490,368	68,487	69,763	506,390	551,613	120	126
整形外科	197,904	176,787	7,430	7,194	1,619,588	1,801,343	1,575,660	1,738,985	87,492	85,866	1,817,490	1,978,130	1,207	1,245
形成外科	46,536	55,647	7,277	7,898	150,865	204,073	143,869	198,824	60,070	54,249	197,101	260,320	484	600
皮膚科	42,754	43,972	3,351	3,394	89,998	89,152	85,716	83,680	37,644	37,441	132,752	133,124	151	188
泌尿器科	217,467	227,102	14,888	14,993	407,868	439,338	391,474	423,069	61,543	55,838	625,335	660,439	528	480
産婦人科	182,106	153,852	6,116	5,984	838,974	791,583	811,068	765,268	80,989	77,347	1,021,080	945,434	458	436
眼科	66,847	69,660	7,299	7,183	68,720	72,653	68,670	71,019	73,677	75,232	136,567	142,313	262	277
耳鼻いんこう科	79,941	67,973	6,984	7,278	114,231	139,160	105,150	120,463	48,990	43,363	194,172	207,133	116	55
リハビリテーション科	2,080	3,020	4,048	4,054	0	0	0	0	0	0	2,068	3,020	0	0
精神科	64,728	64,321	6,235	6,253	322,626	320,303	314,941	313,433	33,741	33,182	387,354	384,024	213	251
放射線診断科	57,312		34,892		0		0		0		57,312		0	
放射線治療科	84,230	107,226	18,793	20,189	57,361	77,005	55,160	71,988	51,494	48,848	141,591	184,231	0	0
歯科口腔外科	63,065	67,095	5,597	6,724	40,723	56,888	47,137	55,314	71,636	73,283	111,009	123,961	218	212
救急科	237,352	223,737	24,082	24,029	872,222	678,491	862,901	673,424	107,657	110,981	1,109,574	903,228	2	0
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
平成25年度 合計	3,959,222	3,182,736	12,313	12,089	14,177,025	14,072,193	13,718,347	13,603,084	70,310	68,073	17,537,140	17,254,929	5,039	5,145
平成25年度 統計	単位/千円		人間ドック 件数 金額		健康診断 件数 金額		合計 件数 金額							
前年同月	検診	平成25年度	1,965	119,970	7,109	46,869	9,074	166,939						
		平成24年度	1,844	110,468	6,567	43,189	8,401	153,645						

平成25年度分 診療科別患者数等管理数値

診療科	外来(244日)						入院(365日)						救急患者						
	新患者数		延患者数		1日平均		新入院数		退院数	延患者数		1日平均		在院日数		全体	救急率	入院	入院率
	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度(245日)	当年度	前年度		当年度	前年度	当年度	前年平均	当年度	前年度				
総合内科	1,022		1,729		7		91		6	161		0		13.2		1,254	110	116	9.3
糖尿病内分泌内科	644		12,864		53		274		329	4,897		13		14.8		129	112	122	94.6
血液内科	221	2,513	3,416	28,906	14	110	266	846	266	7,075	17,882	19	49	25.6	19.4	69	48	54	78.3
腎臓内科	180		3,816		16		106		127	2,201		6		17.0		41	24	26	68.3
膠原病リウマチ科	291		6,656		27		139		146	2,918		8		17.6		78	56	73	93.6
緩和ケア内科	156	50	320	95	2	1	110	57	206	6,799	6,400	19	18	33.0	42.2	8	7	8	100.0
呼吸器内科	1,379	1,559	11,302	12,661	46	52	1,064	1,156	1,026	20,619	19,665	56	54	18.6	15.6	797	469	564	70.6
消化器内科	3,113	3,491	21,090	21,872	66	69	1,634	1,720	1,588	22,522	22,484	62	62	12.7	12.1	1,559	505	682	43.7
循環器内科	1,281	1,241	13,582	12,945	56	53	1,740	1,588	1,708	15,496	14,831	42	40	7.7	8.2	726	412	542	74.7
神経内科	622	620	6,111	6,271	32	32	432	397	409	10,608	10,323	29	28	24.1	24.4	367	269	308	83.4
アレルギー科	315	336	4,535	4,086	19	17	33	44	41	373	294	1	1	7.3	2.9	113	20	20	17.7
小児科	4,674	5,192	16,821	16,465	68	67	1,216	1,123	1,213	6,828	7,153	19	20	3.2	4.0	3,660	594	387	10.6
外科	659		10,263		42		1,136		1,194	16,414		45		12.0		399	178	292	73.2
乳腺外科	501	1,296	5,559	15,457	32	63	187	1408	182	1,756		5	62	8.3	11.7	32	11	16	60.0
呼吸器外科	20	14	1,465	1,430	10	10	59	55	80	856	668	2	2	10.2	9.0	12	6	8	66.7
心臓血管外科	61	75	649	783	6	8	91	104	116	2,372	3,240	6	9	20.7	26.3	23	17	20	87.0
脳神経外科	783	952	3,088	3,986	27	28	265	333	283	6,723	7,029	18	19	20.1	19.0	515	212	220	42.7
整形外科	3,461	3,809	26,636	24,574	138	126	1,232	1,283	1,282	23,346	28,375	64	72	16.6	18.9	1,174	365	342	29.1
形成外科	910	936	6,395	7,046	33	36	161	219	198	2,373	3,665	7	10	9.7	11.5	411	20	15	3.6
皮膚科	1,993	2,131	12,758	12,955	52	53	140	183	147	2,277	2,236	6	6	12.7	11.2	302	30	36	11.9
泌尿器科	1,234	1,338	14,607	15,147	60	62	793	837	798	6,361	7,604	17	21	6.8	7.4	373	80	90	24.1
産婦人科	1,942	1,663	29,774	25,712	122	105	1,408	1,316	1,396	10,017	9,894	27	27	5.7	6.3	1,081	105	710	65.7
眼科	763	754	9,158	9,685	38	67	234	248	236	905	944	2	3	2.9	2.8	73	6	3	4.1
耳鼻いんこう科	2,227	1,963	11,446	9,338	59	47	308	505	305	2,146	2,778	6	8	5.8	4.5	254	48	36	14.2
リハビリテーション科	8	8	511	745	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0
精神科	479	470	10,381	10,288	54	42	194	201	211	9,334	9,446	26	26	46.7	43.8	68	21	53	77.9
放射線診断科	1,415		1,652		7		0		0	0		0		0.0		0	0	0	0.0
放射線治療科	76	1,136	4,482	5,311	18	22	58	65	56	1,071	1,480	3	4	17.4	21.8	2	2	2	100.0
歯科口腔外科	1,873	1,783	11,271	9,979	46	41	216	204	219	658	755	2	2	1.2	2.2	19	11	1	5.3
救急科	6,895	6,599	9,884	9,311	27	26	762	741	587	8,016	6,069	22	17	8.8	6.3	9,605	7,845	777	8.1
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成25年度合計	39,220	39,699	272,820	283,266	1,110	1,075	14,389	14,835	14,340	199,112	199,831	536	547	11.7	11.9	23,144	11,580	5,523	23.9
平成25年度統計	病床利用率... 84.3% 紹介率... 76.5% 逆紹介率... 62.4% 分焼件数... 646件																		
前年同月	病床利用率... 86.4% 紹介率... 95.4% 逆紹介率... 68.7% 分焼件数... 851件																		

9-2 中央部門業務報告

別紙のとおり

中央部門業務件数(放射線部)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
X線	胸部撮影	人数	3,301	3,169	3,116	3,450	3,316	3,019	3,459	3,205	3,227	3,351	3,027	3,371	39,011
	腹部撮影	人数	855	777	657	771	688	670	764	702	695	713	647	718	8,657
	骨部撮影	人数	1,827	1,944	1,695	1,963	1,779	1,630	1,712	1,744	1,731	1,698	1,563	1,887	21,173
	その他単純撮影	人数	116	135	136	148	133	118	156	142	135	135	121	134	1,609
	血管造影	人数	184	155	190	211	184	204	168	163	159	166	191	134	2,109
	消化器造影	人数	165	230	237	312	258	226	338	319	301	295	251	234	3,166
	泌尿器造影	人数	48	55	41	45	49	43	44	30	38	34	36	51	514
	透視他造影	人数	46	60	47	50	46	36	53	49	41	41	35	75	579
	骨塩定量	人数	94	123	109	103	79	92	87	95	91	81	97	113	1,164
	合計	人数	6,636	6,648	6,228	7,053	6,532	6,038	6,781	6,449	6,418	6,514	5,968	6,717	77,982
上記の内数	ポータブル	人数	1,760	1,845	1,692	1,789	1,672	1,494	1,659	1,578	1,682	1,711	1,470	1,657	20,009
	骨塩定量	人数	94	123	109	103	79	92	87	95	91	81	97	113	1,164
CT検査	頭頸部	人数	788	785	729	807	761	747	730	734	839	807	695	782	9,204
	躯幹部	人数	1,686	1,776	1,602	1,718	1,715	1,613	1,891	1,797	1,762	1,814	1,660	1,757	20,791
	合計	人数	2,474	2,561	2,331	2,525	2,476	2,360	2,621	2,531	2,601	2,621	2,355	2,539	29,995
MRI検査	頭頸部	人数	329	322	333	327	301	288	361	330	334	315	304	303	3,847
	その他	人数	412	406	407	467	423	393	431	406	393	372	379	409	4,898
	合計	人数	741	728	740	794	724	681	792	736	727	687	683	712	8,745
RI	体外測定	件数	95	85	92	90	105	92	111	99	86	85	114	90	1,144
PET/CT	体外測定	人数	53	48	80	68	62	56	70	75	59	61	60	64	756
放射線治療	照射件数(入院)	件数	260	167	172	171	277	261	215	158	195	122	175	216	2,389
	照射件数(外来)	件数	270	383	330	435	371	256	531	376	255	251	353	408	4,219
	延べ照射件数	件数	589	595	532	607	672	638	746	534	450	373	528	624	6,888

中央部門業務件数(臨床検査部)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
検体検査	一般(ブランチ)	件数	6,343	6,735	6,801	7,220	7,213	6,565	7,107	6,577	6,710	6,707	6,358	6,827	81,163
	血液	件数	13,322	16,086	15,058	16,640	16,270	14,971	16,840	15,944	16,972	17,338	16,397	17,947	193,785
	血液(外注)	件数	7,048	8,018	8,092	8,131	8,168	7,479	8,266	7,483	8,198	8,030	7,385	7,394	93,692
	生化学(ブランチ)	件数	139,098	140,037	135,017	146,494	143,010	132,801	145,908	136,710	138,613	142,472	132,833	141,116	1,674,109
	免疫血清(ブランチ)	件数	6,780	6,903	6,781	7,356	7,145	5,902	7,740	7,372	6,877	7,868	7,175	7,476	85,375
	細菌(一般)	件数	2,912	3,366	3,039	3,293	3,628	2,967	3,418	3,307	3,135	3,283	3,108	2,967	38,423
	細菌(結核)	件数	122	121	134	136	131	132	97	122	122	131	113	146	1,507
	血液ガス(ブランチ)	件数	682	873	773	762	822	773	846	821	772	839	785	879	9,627
	検体検査合計	件数	176,307	182,139	175,695	190,032	186,387	171,590	190,222	178,336	181,399	186,668	174,154	184,752	2,177,681
生理検査	心電図	件数	2,389	2,255	2,460	2,583	2,566	2,322	2,742	2,366	2,525	2,562	2,319	2,459	29,548
	脳波	件数	63	49	39	53	69	46	57	43	46	43	43	54	605
	呼吸機能	件数	398	442	486	481	450	376	491	437	429	436	373	428	5,227
	超音波	件数	1,154	1,234	1,310	1,401	1,413	1,228	1,423	1,338	1,269	1,276	1,281	1,284	15,811
	心カテ	件数	145	122	152	165	143	163	119	123	110	127	146	103	1,618
	耳鼻科検査	件数	212	209	238	231	233	197	224	197	240	222	228	286	2,717
	筋電図・脈波・その他	件数	235	228	250	230	254	212	213	231	225	227	213	230	2,748
	生理検査合計	件数	4,596	4,539	4,935	5,144	5,128	4,544	5,289	4,735	4,844	4,893	4,603	4,844	58,074
	時間外検査	患者数	2,496	2,672	2,399	2,493	2,411	2,373	2,445	2,362	2,809	2,967	2,417	2,561	30,405
	外注検査	件数	14,725	14,891	14,475	14,345	14,682	13,169	14,425	14,209	13,458	13,038	12,542	14,344	168,303
外来採血患者数	患者数	5,188	5,287	5,136	5,340	5,375	4,952	5,581	5,144	5,184	5,278	4,923	5,229	62,617	
入院患者採血管準備数	患者数	3,531	3,515	3,340	3,632	3,547	3,259	3,659	3,409	3,283	3,284	3,377	3,534	41,370	
検体採取従事者検便検査	従事者数	13	13	26	26	26	28	14	13	13	13	13	13	211	
尿素呼吸試験	患者数	17	24	22	19	33	34	33	30	30	39	31	35	347	
病理検査	組織診断	件数	426	459	415	477	477	407	474	509	456	434	421	431	5,386
	迅速診断	件数	11	24	17	14	14	19	19	16	16	19	22	17	208
	細胞診断	件数	306	387	398	433	408	404	428	413	389	386	391	380	4,723
	その他	件数	44	39	40	43	46	45	58	47	16	42	41	46	507
	病理解剖	件数	0	3	2	0	1	3	0	2	2	1	4	0	18
	合計	件数	787	912	872	967	946	878	979	987	879	882	879	909	10,877
輸血検査	MAP	単位	512	502	420	442	606	468	576	494	622	602	488	440	6,172
	FFP	単位	613	245	156	249	282	105	132	144	297	225	243	66	2,757
	自己血	単位	25	10	24	25	19	12	15	23	20	22	15	10	220
	濃厚血小板	単位	550	490	370	390	535	865	495	570	595	570	460	700	6,590
	その他	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	単位	1,700	1,247	970	1,106	1,442	1,450	1,218	1,231	1,534	1,419	1,206	1,216	15,739
	血液型	件数	634	661	611	692	686	603	705	634	668	683	619	651	7,847
	交差試験	件数	279	245	247	255	284	270	331	303	328	363	271	312	3,488
	不規則抗体	件数	574	570	495	585	584	550	597	580	582	636	560	600	6,913
	その他	件数	27	25	28	46	45	40	53	54	51	55	65	53	542
合計	件数	1,514	1,501	1,381	1,578	1,599	1,463	1,686	1,571	1,629	1,737	1,515	1,616	18,790	
アレルギー	NIOX	件数	360	393	397	425	334	109	399	372	419	353	360	399	4,320
	モストグラフ	件数	88	54	41	44	48	34	52	50	45	45	34	49	564
	スパイロ	件数	65	52	44	45	69	40	56	54	48	46	35	51	605
	可逆性検査	件数	13	15	16	19	12	6	12	12	10	11	6	11	143
	ブリックテスト	件数	6	18	12	12	7	9	12	9	15	11	16	6	133
	精密肺機能	件数	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	3
	合計	件数	512	532	510	545	471	199	531	498	537	466	451	516	5,768

備考 心カテに技師2名、耳鼻科技師1名、アレルギーセンターに1名派遣

中央部門業務報告(処方箋枚数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院 処方	8,865	8,800	7,960	9,080	8,492	8,368	8,750	8,287	8,273	8,310	8,348	9,198	102,731
入院 注射	8,713	9,015	8,551	9,556	9,002	8,954	9,163	9,163	8,530	9,256	8,877	9,294	108,074
外来 処方	70	75	81	73	90	57	98	72	81	82	65	71	915
外来 時間外処方	579	690	681	820	739	764	712	726	712	732	610	679	8,444
外来 注射	786	883	776	817	846	801	907	907	813	837	798	824	9,995
院外処方箋	10,728	11,012	10,292	11,263	10,824	10,133	11,517	10,518	10,998	10,867	10,175	10,826	129,153
抗がん剤混注	438	499	414	523	501	466	538	506	402	538	450	432	5,707
IVH調整	39	51	87	61	17	21	48	21	42	27	59	43	516
服薬指導	850	966	948	1,077	1,014	895	923	854	878	821	824	970	11,020

中央部門業務報告（栄養課）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食	件数	27,038	27,757	24,583	27,003	27,460	26,155	24,915	23,420	25,330	24,249	25,472	29,942	313,324
治療食	件数	10,560	10,602	11,212	10,619	9,122	10,292	11,318	12,058	11,049	11,683	11,245	11,600	131,360
調乳	件数	369	471	412	479	275	498	634	653	584	476	452	533	5,836
栄養相談	件数	175	173	184	209	227	198	204	258	238	210	240	220	2,536
合計	件数	38,142	39,003	36,391	38,310	37,084	37,143	37,071	36,389	37,201	36,618	37,409	42,295	453,056

中央部門業務報告（リハビリテーション科）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
リハビリ	理学療法	件数	3,342	3,606	3,679	3,842	3,658	3,335	3,493	3,434	3,461	3,765	3,911	4,266	43,792
	作業療法	件数	975	1,076	1,051	1,262	1,169	1,096	1,141	1,172	1,190	1,434	1,521	1,532	14,619
	言語聴覚療法	件数	738	917	900	1,108	914	933	939	831	798	951	1,023	1,036	11,088
	合計	件数	5,055	5,599	5,630	6,212	5,741	5,364	5,573	5,437	5,449	6,150	6,455	6,834	69,499

中央部門業務報告（内視鏡室）

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
上部消化管内視鏡	3,332	3,848	3,761	3,964	4,588	4,736	4,457	4,777	4,735
（内ドック件数）				657	648	649	905	1,142	1,249
下部消化管内視鏡	1,222	1,503	1,636	1,694	1,848	1,868	1,726	1,966	1,695
（内ドック件数）				29	35	48	87	91	115
気管支鏡	162	186	188	169	169	187	167	177	162
ERCP	103	133	196	188	362	335	411	361	514

中央部門業務報告（透析室）

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
透析	血液浄化療法	件数	213	240	175	213	251	224	239	252	263	234	214	207	2,728

中央部門業務報告（手術室）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
全身麻酔	329	284	254	312	283	262	306	274	307	263	272	276	3,422
局所麻酔	91	86	105	107	108	81	112	107	92	98	93	103	1,183
その他麻酔	36	47	39	32	53	36	34	35	29	33	25	35	434
合計	456	417	398	451	444	379	452	416	428	394	390	414	5,039

中央部門業務報告(がんセンター)

①院内がん登録(国立がん研究センターがん対策情報センター登録)

2011年	1,025	件
2012年	1,445	件

②外来化学療法

平成24年度	4,108	件
平成25年度	4,884	件

③がん相談件数

平成24年度	668	件
平成25年度	945	件

9-3 決算書

別紙のとおり

損益計算書 (平成25年度)

収 益	予算(A)	25年決算(B)	24年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	対昨年度増減率
みなと赤十字病院事業収益	18,327,203,000	18,467,874,267	18,649,878,019	140,671,267	△ 182,003,752	-0.98%
医業収益	17,564,550,000	17,667,359,630	17,350,200,156	102,809,630	317,159,474	1.83%
入院収益	13,754,333,000	13,680,641,418	13,556,639,510	△ 73,691,582	124,001,908	0.91%
患者延べ数(人)	198,696	195,112	199,831	△ 3,584	△ 4,719	-2.36%
1日平均(人)	544	535	547	△ 9	△ 12	-2.28%
診療単価(円)	69,223	70,117	67,841	894	2,276	3.36%
病床利用率(%)	85.86%	84.3%	86.40%	-1.56%	-2.10%	-2.43%
平均在院数(日)		11.7	11.90	11.70	△ 0.20	-1.68%
外来収益	3,028,050,000	3,232,083,737	3,046,172,433	204,033,737	185,911,304	6.10%
患者延べ数(人)	254,031	272,829	263,266	18,798	9,563	3.63%
1日平均(人)	1,041	1,118	1,075	77	43	4.04%
診療単価(円)	11,920	11,847	11,571	△ 73	276	2.39%
室料差額収益	503,797,000	446,463,510	454,752,420	△ 57,333,490	△ 8,288,910	-1.82%
保健予防活動収益	206,339,000	243,060,334	223,562,312	36,721,334	19,498,022	8.72%
その他の医業収益	102,239,000	105,917,715	104,883,846	3,678,715	1,033,869	0.99%
保険等査定減	△ 30,208,000	△ 40,807,084	△ 35,810,365	△ 10,599,084	△ 4,996,719	13.95%
医業外収益	762,653,000	789,004,410	888,279,662	26,351,410	△ 99,275,252	-11.18%
受取利息	0	60	60	60	0	0.00%
本部繰入金	0	379,318	0	379,318	379,318	
他会計繰入金	0	0	65,107,297	0	△ 65,107,297	
運営費補助金等収益	470,083,000	487,313,267	483,467,368	17,230,267	3,845,899	0.80%
施設設備費補助金等収益	73,410,000	73,058,964	120,281,961	△ 351,036	△ 47,222,997	-39.26%
患者外給食収益	2,736,000	7,500	2,597,280	△ 2,728,500	△ 2,589,780	-99.71%
その他の医業外収益	216,424,000	228,245,301	216,825,696	11,821,301	11,419,605	5.27%
特別利益	0	11,510,227	411,398,201	11,510,227	△ 399,887,974	-97.20%
固定資産売却益	0	0	56,350,000	0	△ 56,350,000	
貸倒引当金戻入益	0	1,815,385	13,604,471	1,815,385	△ 11,789,086	
その他前期損益修正益	0	8,578,576	339,930,813	8,578,576	△ 331,352,237	-97.48%
その他特別利益	0	1,116,266	1,512,917	1,116,266	△ 396,651	

費 用	予算(A)	25年決算(B)	24年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	昨年度比(B-C)
みなと赤十字病院事業費用	18,291,067,000	17,853,214,877	17,339,149,332	△ 437,852,123	514,065,545	2.96%
医業費用	17,828,467,000	17,300,160,962	16,497,936,340	△ 528,306,038	802,224,622	4.86%
材料費	4,478,960,000	4,389,622,668	4,264,857,467	△ 89,337,332	124,765,201	2.93%
薬品費	1,718,948,000	1,659,185,946	1,630,873,814	△ 59,762,054	28,312,132	1.74%
診療材料費	2,508,956,000	2,506,184,643	2,403,908,420	△ 2,771,357	102,276,223	4.25%
給食材料費	122,710,000	118,857,628	121,187,779	△ 3,852,372	△ 2,330,151	-1.92%
医療消耗備品費	128,346,000	105,394,451	108,887,454	△ 22,951,549	△ 3,493,003	-3.21%
給与費	9,032,706,000	8,496,799,086	8,113,694,668	△ 535,906,914	383,104,418	4.72%
委託費	1,709,517,000	1,652,586,262	1,559,648,118	△ 56,930,738	92,938,144	5.96%
設備関係費	1,733,448,000	1,880,559,091	1,732,533,833	147,111,091	148,025,258	8.54%
減価償却費	736,935,000	810,300,405	722,896,727	73,365,405	87,403,678	12.09%
機器賃借料	12,083,000	8,750,934	8,349,288	△ 3,332,066	401,646	4.81%
指定管理者負担金他	651,160,000	653,752,611	653,628,444	2,592,611	124,167	0.02%
修繕費	218,445,000	205,187,568	168,661,946	△ 13,257,432	36,525,622	21.66%
機器保守料	111,859,000	201,953,457	175,521,647	90,094,457	26,431,810	15.06%
その他	2,966,000	614,116	3,475,781	△ 2,351,884	△ 2,861,665	-82.33%
研究研修費	28,944,000	38,139,949	28,919,489	9,195,449	9,220,460	31.88%
経費	844,892,000	842,453,906	798,282,765	△ 2,438,094	44,171,141	5.53%
通信費	16,355,000	16,785,098	16,295,165	430,098	489,933	3.01%
消耗品費	73,240,000	80,324,698	72,372,050	7,084,698	7,952,648	10.99%
水道光熱費	423,778,000	458,997,671	418,163,394	35,219,671	40,834,277	9.77%
賃借料	123,533,000	116,732,446	116,619,902	△ 6,800,554	112,544	0.10%
租税公課	13,678,000	13,003,831	13,824,411	△ 674,169	△ 820,580	-5.94%
その他	194,308,000	156,610,162	161,007,843	△ 37,697,838	△ 4,397,681	-2.73%
医業外費用	462,600,000	537,045,296	511,361,611	74,445,296	25,683,685	5.02%
支払利息	57,175,000	58,537,085	71,536,547	1,362,085	△ 12,999,462	-18.17%
患者外給食材料費	4,293,000	1,790,350	4,200,029	△ 2,502,650	△ 2,409,679	-57.37%
看護師等委託委託成費	26,400,000	27,000,000	25,800,000	600,000	1,200,000	
診療費減免額	2,871,000	9,878,430	3,994,000	7,007,430	5,884,430	147.33%
本部繰入金	3,554,000	3,566,204	3,459,706	12,204	106,498	3.06%
他会計繰入金	1,000,000	2,601,329	2,067,130	1,601,329	534,199	25.84%
退職給付債務変更時差異	107,062,000	107,061,691	107,061,691	△ 309	0	0.00%
その他医業外費用	260,245,000	326,610,207	293,242,508	66,365,207	33,367,699	11.38%
特別損失	0	16,008,619	329,851,381	16,008,619	△ 313,842,762	-95.15%
固定資産除却損	0	11,116,749	119,822,455	11,116,749	△ 108,705,706	-90.72%
前期損益修正損	0	4,891,870	210,028,926	4,891,870	△ 205,137,056	-97.67%
その他特別損失	0	0	0	0	0	

経常損益(特別収支を除いたもの)	36,136,000	619,157,782	1,229,181,867	583,021,782	△ 610,024,085	-49.63%
医業損益	△ 263,917,000	367,198,668	852,263,816	631,115,668	△ 485,065,148	-56.91%
総損益	36,136,000	614,659,390	1,310,728,687	578,523,390	△ 696,069,297	-53.11%

貸借対照表

平成26年 3月31日

(施設名) 横浜市立みなと赤十字病院

(単位: 円)

資 産 の 部			負 債 及 び 基 金 の 部		
1. 流動資産	現金	6,314,760	1. 流動負債	借入金	934,650,267
預金	2,565,592,365		未払借入金	1,253,568,718	
医業未収	2,999,683,271		短期借入金	1,435,200,000	
貸倒引当	46,066,390	2,953,616,881	未払法人税等	76,403,213	
未収金	101,002,764		前払費用	0	
有価証券	0		前払消費税	0	
医薬品	86,867,463		預り金	1,883,520	
診療材料	14,033,177		職員預り金	111,252,856	
給食材料	3,057,208		員受取当金	0	
貯蔵品	65,320		賞与引当金	352,798,060	
前払費用	0		その他の流動負債	63,067	
未収金	17,815,941		流動負債合計	4,165,819,701	
短期貸付	8,479,263				
繰上税金資産	1,800,000		2. 固定負債	借入金	2,408,000,000
その他の流動資産	0		長期借入金	569,847,155	
流動資産合計	202,269,123	6,060,914,265	預り金	0	
			退職給付引当金	0	
2. 固定資産	建物	128,259,810	退職給付引当金	2,928,744,874	
(1)有形固定資産	建物減価償却累計額	9,366,340	118,893,470	退職給付引当金	0
建物	567,779,862		長期前受補助金	362,498,583	
建物付属設備	122,633,775	445,246,087	その他の固定負債	0	
構築物	20,522,740		固定負債合計	5,669,090,612	
構築物減価償却累計額	4,214,318	16,308,422	負債合計	9,834,910,313	
医療用器械備品	6,276,982,388		3. 基本金	15,986,453	
医療用器械備品減価償却累計額	4,646,264,009	1,630,718,379	4. 基本金積立金	0	
その他の器械備品	1,577,503,744		支那の繰入金	0	
その他の器械備品減価償却累計額	977,833,750	599,669,984	補助金	0	
車	21,121,030		固定資産再評価益(損)	2,566,395	
車両減価償却累計額	10,017,612	11,103,418	固定資産処分益(損)	0	
放射線同位体	0		基金積立金合計	56,606,395	
放射性同位体減価償却累計額	0	0	5. 利益剰余金	0	
その他の有形固定資産	60,271,500		特別積立金	0	
その他の有形固定資産減価償却累計額	5,328,632	54,942,868	当期未処分利益(損失)	382,872,486	
土地	0		利益剰余金合計	382,872,486	
建設仮勘定	0		6. 有価証券評価差額金	0	
有形固定資産合計	2,876,882,628		基金合計	455,466,394	
(2)無形固定資産	ソフトウエア	23,089,551			
その他の無形固定資産	125,125				
無形固定資産合計	23,214,676				
(3)その他の資産	有価証券	0			
長期貸付	112,200,000				
長期未収金	0				
長期前払費用	55,825				
施設整備準備積立金	0				
施設建物建設資金出資金	511,105,535				
病院財政調整事業資金出資金	246,464,524				
退職給付引当金	217,850				
退職給付引当金	457,470,314				
繰上税金資産	1,850,030				
その他の固定資産	0				
その他の資産合計	1,329,364,078				
固定資産合計	4,229,461,382				
資産合計	10,290,375,647		負債及び基金合計	10,290,375,647	

平成25年度キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

	金額
1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前当期純利益	614,659,390
減価償却費	824,223,605
所有有形固定資産減価償却費	474,918,425
リース有形固定資産減価償却費	342,155,119
所有無形固定資産減価償却費	7,150,061
リース無形固定資産減価償却費	0
長期前払費用減価償却費	0
貸倒引当金の増減	-20,569,788
賞与引当金の増減	28,406,160
医療訴訟引当金の増減	0
退職給付引当金の増減	265,357,561
退職拠出金の増減	80,974,766
退職交付受入金の増減	0
その他の引当金の増減	0
施設設備補助金等収益	-86,982,163
受取利息	-60
支払利息	58,537,085
有形固定資産売却損	0
有形固定資産除却損	11,116,749
無形固定資産売却損	0
無形固定資産除却損	0
前期損益修正額	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別損失	0
有形固定資産売却益	0
無形固定資産売却益	0
前期損益修正益	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別利益	0
医療未収金の増減	16,234,331
未収金の増減	-16,085,643
医薬品の増減	-12,936,986
診療材料の増減	-14,033,177
給食材料の増減	-17,499
貯蔵品の増減	-65,320
前渡金の増減	0
前払費用の増減	-428,600
未収収益の増減	5,042,706
その他流動資産の増減	-24,500,048
買掛金の増減	92,198,053
未払金の増減	-16,012,547
未払費用の増減	55,535,788
前受金の増減	0
預り金の増減	-2,823,960
職員預り金の増減	3,715,232
前受収益の増減	0
その他の流動負債の増減	-3,521,795
その他	42,717,432
小計	1,900,741,272
利息の受取額	60
利息の支払額	-58,537,085
法人税等の支払額	0
営業活動によるキャッシュ・フロー(A)	1,842,204,247

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の預入による支出	0
定期預金の払戻による収入	0
有価証券の取得による支出	0
有価証券の償還等による収入	0
所有有形固定資産の取得による支出	-512,966,082
所有有形固定資産の売却による収入	0
所有無形固定資産の取得による支出	-3,896,025
所有無形固定資産の売却による収入	0
長期前払費用の取得による支出	0
施設設備補助金等の受入による収入	62,479,668
短期貸付金の増減	0
長期貸付による支出	-31,500,000
長期貸付金の回収による収入	5,700,000
病院建物建設資金出資金の払込による支出	-34,692,412
病院建物建設資金出資金の返還による収入	0
病院財政調整事業資金出資金の払込による支出	-17,350,200
病院財政調整事業資金出資金の返還による収入	0
出資金の払込による支出	0
出資金の返還による収入	0
預託金の預入による支出	0
預託金の払戻による収入	0
その他の固定資産による支出	0
その他の固定資産による収入	0
その他	0

投資活動によるキャッシュ・フロー(B)

-532,225,051

3. 財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の増減	-200,000,000
長期借入による収入	100,000,000
長期借入金の返済による支出	-335,200,000
リース債務未払金の返済による支出	-355,392,486
預り出資金の受入による収入	0
預り出資金の払戻による支出	0
その他の固定負債による支出	0
その他の固定負債による収入	0

財務活動によるキャッシュ・フロー(C)

-790,592,486

4. 現金及び現金同等物の増加額(A+B+C)

519,386,710

5. 現金及び現金同等物期首残高

2,152,520,415

6. 現金及び現金同等物期末残高

2,671,907,125

※ 病院収益合計	18,467,874,267
※ 病院費用合計	17,853,214,877
※ 法人税等計	0

